

平成20年度

名古屋市立大学大学院薬学研究科

自己点検・評価報告書

2008

目 次

- 1 平成20年度博士(薬学)学位取得者
- 2 平成20年度薬学修士学位取得者
- 3 平成20年度薬学部でなされた講演会、研究会、シンポジウム
- 4 研究業績目録(2008年1月から2008年12月)
- 5 科学研究費等補助金
- 6 学外との共同研究等
- 7 新聞報道等
- 8 進路および就職状況
- 9 薬学部在籍者名簿

1 平成20年度博士(薬学)学位取得者

薬博第 251 号 平成 21 年 3 月 25 日

鴨東 美絵

ヒスタグ配列を認識する発蛍光型タンパク質標識試薬の開発

(主査) 宮田 直樹 教授

(副査) 樋口 恒彦 教授 (副査) 今川 正良 教授 (副査) 池田 慎一 准教授

(副査) 梅澤 直樹 准教授

薬博第 252 号 平成 21 年 3 月 25 日

高田 章

エタノール/水混合溶媒中におけるマンニトールの凍結乾燥挙動に関する研究

(主査) 平嶋 尚英 教授

(副査) 米勢 政勝 教授 (副査) 黒野 幸久 教授 (副査) 湯浅 博昭 教授

薬博第 253 号 平成 21 年 3 月 25 日

政田さやか

植物二次代謝糖転移酵素の機能解析とその応用

(主査) 樋口 恒彦 教授

(副査) 水上 元 教授 (副査) 水島 恒裕 准教授 (副査) 中川 秀彦 准教授

薬博第 254 号 平成 21 年 3 月 25 日

大野 晃稔

男性ホルモンによる BK チャネル発現調節機構の解明

(主査) 林 秀敏 教授

(副査) 今泉 祐治 教授 (副査) 木村 和哲 教授 (副査) 田辺 光男 准教授

薬博第 255 号 平成 21 年 3 月 25 日

中野 良美

脳形成に必須な分泌蛋白質リーリンの生理的機能における、C 末端領域の機能解析

(主査) 星野 真一 教授

(副査) 服部 光治 准教授 (副査) 小野崙菊夫 教授 (副査) 平嶋 尚英 教授

薬博第 256 号 平成 21 年 3 月 25 日

兒玉 大介

神経因性疼痛モデルマウスにおける海馬シナプス伝達長期増強現象の障害とそのメカニズムの解明

(主査) 今泉 祐治 教授

(副査) 小野 秀樹 教授 (副査) 木村 和哲 教授

(副査) 田中 正彦 准教授 (副査) 田辺 光男 准教授

薬博第 257 号 平成 21 年 3 月 25 日

日比 輝正

脳形成を司る分泌蛋白質リーリンの受容体結合からエンドサイトーシス後の運命までの解析

(主査) 小野 秀樹 教授

(副査) 服部 光治 准教授 (副査) 林 秀敏 教授 (副査) 田中 正彦 准教授

薬博第 258 号 平成 21 年 3 月 25 日

松下 雄一郎

T 細胞における電位依存性 $K_v 1.3$ 電流の分子機能解明

(主査) 平嶋 尚英 教授

(副査) 今泉 祐治 教授 (副査) 小野寄菊夫 教授 (副査) 服部 光治 准教授

薬博第 181 号 平成 20 年 12 月 5 日

津元 裕樹

生体成分の高感度質量分析を志向した新規誘導体化試薬の開発

(主査) 青山 豊彦 教授

(副査) 宮田 直樹 教授 (副査) 黒野 幸久 教授 (副査) 梅澤 直樹 准教授

薬博第 182 号 平成 21 年 3 月 25 日

浅木 哲夫

動脈硬化症治療剤の合成研究 選択的 PPAR α アゴニストおよび IP 受容体アゴニストの
創製

(主査) 宮田 直樹 教授

(副査) 青山 豊彦 教授 (副査) 樋口 恒彦 教授 (副査) 林 秀敏 教授

薬博第 183 号 平成 21 年 3 月 25 日

原田 大輔

Phosphodiesterase4 阻害薬 KF66490 のアトピー性皮膚炎治療薬としての有用性に関する研究

(主査) 今泉 祐治 教授

(副査) 水上 元 教授 (副査) 林 秀敏 教授 (副査) 田辺 光男 准教授

2 平成20年度薬学修士学位取得者

浅場 智 (薬化学)

触媒メカニズムを基にした新規 SIRT 阻害薬の創製

猪狩 聡一 (薬化学)

糖尿病治療薬を志向した GPR120 アゴニストの創製

池田 麻美子 (薬化学)

部位特異的な酸化ストレス評価を目指した核分布型 TEMPO 誘導体の開発

北村 千春 (薬化学)

多機能な新規リンカー構造をもつアフィニティ抽出ツールの開発

鈴木 信明 (薬化学)

ボロン酸構造を有する新規 HDAC 阻害薬の創製

菱川 和宏 (薬化学)

2,6-dimethylnitrobenzene 構造を有する二光子励起作動型 NO 放出剤の開発

藪名香 宏介 (精密有機反応学)

抗マラリア活性化合物創製のためのヘム親和性分子の開発

大坪 加奈 (精密有機反応学)

ニッケル触媒存在下、アリル求電子剤・アルケン・ジメチル亜鉛のドミノカップリングの開発

大山 祐佳里 (精密有機反応学)

ニッケル触媒存在下、 β -炭素脱離を伴う溝呂木-ヘック型ドミノ反応の開発

岡田 良美 (精密有機反応学)

アデニン塩基を認識する非環状ホスト分子の設計・合成の試みならびにニッケル触媒による塩化アリルとエンイン類とのカップリング反応

土田 恵理子 (精密有機反応学)

ニッケル触媒を用いたエノンとエンイン類 とのカップリング反応

- ビニルシクロプロパン類の合成 -

松山 悠里子 (精密有機反応学)

ニッケル触媒によるエノン、アルキン、アリルアルコール類のドミノカップリング反応の開発

池谷 実穂 (生体超分子システム解析学)

マスト細胞におけるカルシウムチャンネル Orai の機能解析

小西 尋文 (生体超分子システム解析学)

マスト細胞における小胞体膜タンパク質 STIM の役割

笹井 雅夫 (生体超分子システム解析学)

人工エクソサイトーシス系の開発

関村 美穂 (生体超分子システム解析学)

後根神経節細胞とマスト細胞の相互作用における接着分子の機能解析

西村 陽子 (生体超分子システム解析学)

FRET を用いたリン脂質非対称分布アッセイ系の開発

星野 有香 (生体超分子システム解析学)

米ぬかアラビノキシラン誘導体のマスト細胞活性化に及ぼす影響

山下 真由 (生体超分子システム解析学)

分泌細胞のターゲット特異的デリバリーシステムへの応用

小西 正晃 (コロイド・高分子物性学)

マイクロエマルション-ベース-オルガノゲルの薬物放出特性と基礎物性に関する研究

篠原 真里子 (コロイド・高分子物性学)

シリカコロイド結晶の融解・再結晶化および帯域融解法の研究

田中 昭良 (コロイド・高分子物性学)

マイクロエマルション-ベース-オルガノゲルの経皮吸収送達系への基礎研究

藤岡 正剛 (コロイド・高分子物性学)

塩基拡散および電場印加に伴う荷電コロイド結晶の格子歪に関する研究

吉澤 幸樹 (コロイド・高分子物性学)

荷電コロイド2成分混合系の相挙動の研究

雨宮 瑛子 (生命分子構造学)

味覚修飾タンパク質クルクリンの活性発現機構の解明に向けた甘味受容体細胞外領域の大量発現系の構築

大野 恵里菜 (生命分子構造学)

O 結合型糖鎖の HPLC マップ法の開発と糖鎖プロファイリングへの応用

平澤 真人 (生命分子構造学)

癌抑制遺伝子産物 Tob による遺伝子特異的発現制御機構の解析

岸本 圭史 (分子生物薬学)

ノックアウトマウスを用いた fad104 の機能解析

駒木根 潤 (分子生物薬学)

核内受容体 LRH-1 と相互作用する因子 (ILF3, Ku80, Ku70) の解析

五味田 麗 (分子生物薬学)

肝化学発がん過程において発現上昇するヒストンバリエント H2A.Z の機能解析

鈴木 正憲 (分子生物薬学)

細胞癌化における fad24 の機能解析

高田 美紗 (分子生物薬学)

酵母ミトコンドリアヒストン様タンパク質 Abf2p の機能解析

藤井 彩 (分子生物薬学)

脂肪細胞分化過程における peg10 の機能解析

加藤 革己 (生薬学)

植物細胞における glycyrrhizin 輸送機構の生化学的解析

曾田 麻希子 (生薬学)

培養植物細胞による crocetin の配糖化

永利 麻衣 (生薬学)

植物細胞からのイリドイド配糖化酵素遺伝子の単離と解析

山中 祐介 (生薬学)

慢性腎不全に対する生薬オウギの作用

伊藤 司 (生体防御機能学)

老齢マウスにおける BCG ワクチンの有効性に関する研究

中條 里美 (生体防御機能学)

喫煙と関節リウマチに関する研究

許 鍵 (生体防御機能学)

関節リウマチ滑膜細胞におけるサイトカイン産生に及ぼす性ホルモンの影響

加藤 大樹 (細胞分子薬効解析学)

血管平滑筋における 3 型リアノジン受容体の機能解明

谷口 賢 (細胞分子薬効解析学)

肺高血圧症モデルラット肺動脈平滑筋の過剰収縮とイオンチャネル作用薬の効果

橋爪 圭吾 (細胞分子薬効解析学)

末梢組織ペースメーカーモデル細胞における細胞間電気シグナル伝播機構の解明

藤高 啓右 (細胞分子薬効解析学)

大コンダクタンス Ca^{2+} 活性化 K^{+} チャネルのサブユニット間相互作用の解明

山本 清司 (細胞分子薬効解析学)

マウス脳微小血管内皮細胞におけるカリウムチャネル機能解析

石井 萌 (病態生化学) 難読症関連遺伝子産物 mKIAA0319 の機能解析

ー神経系における発現部位及び細胞外領域の機能ー

内田 貴之 (病態生化学)

リーリンとアルカリフォスファターゼの融合タンパク質を用いたリーリン受容体の機能的発現部位の同定

大島 健一 (病態生化学)

神経細胞におけるスフィンゴミエリン合成酵素の局在及び活性制御機構の解析

佐賀 展子 (病態生化学)

新規抗体を用いたリーリン機能解明へのアプローチ

栗原 弘充 (薬物動態制御学)

PCFT の輸送機能に及ぼすスルホニル関連薬物の影響

杉本 さや香 (薬物動態制御学)

アフリカツメガエル卵母細胞発現系におけるヒト aquaporin 3 の glycerol 輸送機構の解析

高橋 絢子 (薬物動態制御学)

小腸に存在する転写因子による PCFT の発現制御

保嶋 智也 (薬物動態制御学)

蛍光性色素 DAPI を用いた MATE 輸送機能の迅速評価法

山本 俊輔 (薬物動態制御学)

小腸における urate 輸送機構の解明

宮川 隆 (病態解析学)

HepG2 細胞におけるインスリンと酸化ストレスの PAI-1 産生に対する影響の解析: メタボリックシンドロームの易血栓性の病態解明を指向して

井上 万由美 (医薬品代謝解析学)

脂肪細胞分化に及ぼすサイトカインの効果

清武 千恵子 (医薬品代謝解析学)

第一部: 骨形成因子 (BMP) のシグナル伝達分子 Smad1 のアセチル化とその機能解析

第二部: ワルファリンとプロトンポンプインヒビターの相互作用による international normalized ratio (INR) の変動についての検討

中田 佳宏 (医薬品代謝解析学)

小胞体ストレス誘導性細胞死における pseudokinase TRB3 の役割

的場 洋子 (医薬品代謝解析学)

脊髄小脳変性症の原因遺伝子 Ataxin-2 の生理的役割

森川 裕子 (医薬品代謝解析学)

膵β細胞の機能に及ぼす TGFβ の影響

木下 優 (中枢神経機能薬理学)

抗うつ薬 fluoxetine および milnacipran の神経因性疼痛緩解作用メカニズムの検討

友寄 織江 (中枢神経機能薬理学)

成熟マウス脊髄後角求心性シナプス伝達に対する fluvoxamine の作用の検討

福田 昂一 (中枢神経機能薬理学)

誘発筋電図を用いた脊髄損傷モデルマウスの反射機能評価

三浦 真貴 (中枢神経機能薬理学)

術後痛に対して先制鎮痛効果を持つ薬物の検討

宮坂 絵理 (中枢神経機能薬理学)

Gabapentin の神経因性疼痛緩解機序の研究

—脊髄後角シナプス伝達長期増強を指標とした中枢性感作との関連—

山本 優子 (中枢神経機能薬理学)

グリア細胞の代謝阻害が海馬シナプス伝達に及ぼす急性の影響と内在性アデノシンおよびグリアシンの関係

長尾 麻以 (感染症制御学)

LC/MS/MS によるメチルマロン酸血症患者の肝移植前後におけるアシルカルニチンの分析

中山 潤美 (感染症制御学)

第 1 部: ジカルボキシリックアシルカルニチンのメチルエステル化反応における速度論的検討

第 2 部: 小児造血幹細胞移植における副作用モニタリングシートの作成

阿部 裕子 (臨床薬学教育センター)

研究センター内腸骨動脈結紮ウサギを用いた限局性動脈閉塞に伴う動脈性勃起障害の病態解明

奥村 加奈 (臨床薬学教育センター)

第 1 部: ラット慢性腎不全モデルにおける勃起機能と NO/cGMP 系の変動

第 2 部: CKD 予防に対する薬剤師の関わり —尿蛋白陽性患者における服薬指導とその重要性—

堀田 祐志 (臨床薬学教育センター)

動脈性 ED モデルに対する vardenafil 連続投与の効果

3 平成20年度薬学部でなされた 講演会、研究会、シンポジウム

第4回 平成20年 8月21日

「尿路性器悪性腫瘍の診断と治療」

名古屋市立大学大学院医学研究科
腎・泌尿器科学

准教授 戸澤 啓一

第5回 平成20年 9月18日

「がん患者の在宅支援における薬剤師の役割」

広島YMCA 訪問看護ステーション・ピース

浜本 千春

■ 第3期名古屋市立大学薬剤師生涯教育講座

第1回 平成20年10月15日

「高齢者の精神神経疾患:認知症・アルツハイマー病を中心に」

国立長寿医療センター包括診療部

部長 遠藤 英俊

第2回 平成20年11月19日

「ストレスと心臓病」

名古屋市立大学大学院医学研究科
医学・医療教育学

教授 早野 順一郎

第3回 平成20年12月17日

「うつ病の病態と治療」

名古屋市立大学大学院医学研究科
精神・認知・行動医学

助教 渡辺 範雄

第4回 平成21年 1月14日

「精神科疾患の薬物療法と薬剤師の役割」

名古屋市立大学病院
薬剤部

薬剤師 丹羽 貴之

第5回 平成21年 2月18日

「精神疾患患者の理解と接し方」

名古屋市立大学看護学部
精神保健看護学分野

准教授 香月 富士日

■ 三公立大連携薬剤師生涯学習支援講座(名古屋市立大学、岐阜薬科大学、静岡県立大学)

第1期 メタボリックシンドロームと動脈硬化の薬物治療

平成20年12月4日～平成21年3月14日(計13回)

第1回ウィークデイセッション 平成20年12月 4日

「メタボリックシンドロームと動脈硬化の薬物治療」

名古屋市立大学
病態解析学分野

教授 藤井 聡

第2回ウィークデイセッション 平成20年12月18日

「ED発症のメカニズムとその治療方法」

名古屋市立大学
臨床薬学教育研究センター

教授 木村 和哲

第1回ウイークエンドセッション 「口腔内崩壊錠の技術革新」	平成20年12月21日	静岡県立大学 実践薬学分野	教授	並木 徳之
「治験についてー薬局薬剤師が知っておきたい基礎知識」		静岡県立大学 医薬品情報解析学分野	教授	山田 浩
第3回ウイークデイセッション 「がん治療の戦略」	平成21年 1月 8日	岐阜薬科大学 薬物治療学研究室	教授	酒々井 真澄
第4回ウイークデイセッション 「感染症法と感染症対策」	平成21年 1月22日	岐阜薬科大学 微生物学研究室	准教授	杉山 剛志
第2回ウイークエンドセッション 「高齢者に対する薬物療法の基本」	平成21年 1月24日	静岡県立大学 臨床薬剤分野	教授	賀川 義之
「排尿障害治療薬の最前線」		静岡県立大学 薬物動態分野	教授	山田 静雄
第5回ウイークデイセッション 「天然物の安全な使用について」	平成21年 2月 5日	岐阜薬科大学 生薬学研究室	講師	大山 雅義
第6回ウイークデイセッション 「漢方薬の医療薬学的諸問題について」	平成21年 2月19日	名古屋市立大学 生薬学分野	准教授	牧野 利明
第3回ウイークエンドセッション 「即時型アレルギー反応の機構解明と薬物療法への展開」	平成21年 2月21日	名古屋市立大学 生体超分子システム解析学分野	教授	平嶋 尚英
「薬物体内動態におけるトランスポーターの役割」		名古屋市立大学 薬物動態制御学分野	教授	湯浅 博昭
第7回ウイークデイセッション 「薬物適正使用のための戦略的ツールとしてのPK/PD」	平成21年 3月 5日	岐阜薬科大学 医薬品情報学研究室	准教授	中村 光浩
第4回ウイークエンドセッション 「ポストゲノム時代の薬物療法ーテーラーメイド医療の現在と未来ー」	平成21年 3月 7日	静岡県立大学 臨床薬効解析分野	教授	伊藤 邦彦

第8回ウイークデイセッション 平成21年 3月12日
「薬物代謝と個別化医療」
岐阜薬科大学
臨床薬剤学研究室 准教授 原 宏和

特別シンポジウム 平成21年 3月14日
「高血圧の薬の使いかた:新しいガイドラインをふまえて」
名古屋市立大学
病態解析学分野 教授 藤井 聡

■平成20年度 キャリア支援講演会

平成20年 9月16日

「企業における薬の研究」
東レ株式会社 安藤 晃裕

「薬局薬剤師の職能ビジョン」
昭和薬局株式会社 矢野 裕美

「化粧品会社における研究業務について」
日本メナード化粧品株式会社 田中 浩

「病院薬剤師ができること」
安城更生病院 杉浦 洋二

「医薬品開発におけるモニター業務とは？」
アストラゼネカ株式会社 道簾 淑子

■平成20年度 大学連携講座

「新時代を健やかに生きる ～21世紀のくすりの科学～」

平成20年10月8日～11月12日(毎週水曜日、計6回)

■平成20年度 オープンキャンパス

平成20年 8月 4日

大学紹介のビデオ上映

薬学部の紹介 「特色と使命・入試」
薬学部長 水上 元

薬学部教育について
教授 平嶋 尚英

就職・進路状況について
教授 樋口 恒彦

学生生活について
学生代表

公開授業 「いっしょに考えよう:くすりをつくる、マウスからまなぶ、病気とたたかう」
教授 藤井 聡

キャンパス案内
大学院生

■平成20年度 大学院説明会

平成20年 5月24日

研究科長挨拶

研究科長 水上 元

大学院概要

教授 今泉 祐治

研究概要

客員教授 鶴見 達也
客員准教授 京ヶ島 守
教授 道川 誠
教授 樋口 恒彦
教授 今川 正良
教授 小野崙 菊夫
教授 林 秀敏

大学院における生活

学生代表 M2 菱川 和宏
D2 鈴木 裕可

修了後の進路

教授 宮田 直樹

博士前期課程入試についての説明

教授 青山 豊彦

各研究室での個別面談についての案内および閉会

■特別講演会, 研究会, シンポジウム

開催日：平成20年1月17日

講演会名：第1期 名古屋市立大学薬剤師生涯教育講座 第5回

講師名：木村 和哲 教授

所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター

演題：腎不全の薬物療法

世話分野：病態解析学分野生涯教育担当

開催日：平成20年1月21日

講演会名：薬化学分野公開シンポジウム

講師名：川口 禎晴 博士

所属：愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所

演題：チューブリン脱アセチル化酵素 (HDAC6) の細胞機能と脳神経系における役割

世話分野：薬化学分野

開催日：平成20年1月23日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：北 泰行 教授

所属：大阪大学大学院薬学研究科

演題：創薬を志向する合成反応の開発と応用—グリーンケミストリーを考慮して—

世話分野：薬化学分野

開催日：平成20年1月25日

講演会名：平成19年度第3回糖鎖分科会

「シアリルラクトースの産業展開を目指して」

場所：名古屋大学 VBL ベンチャーホール

世話人：小林一清 (NPO バイオものづくり中部)、加藤 晃一

開催日：平成20年2月5日

講演会名：特別講演会

講師名：Shyamalava Mazumdar 教授

所属：Department of Chemical Sciences, Tata Institute of Fundamental Research, INDIA

演題：Studies on P450cam with various spectroscopic techniques

世話分野：精密有機反応学分野

開催日：平成20年2月5日

講演会名：IMS ナノフォーラム

場所：分子科学研究所

世話人：加藤 晃一, 西村 勝之 (分子研), 魚住 泰広 (分子研)

開催日：平成20年2月16日

講演会名：若手薬剤師のための講演会

講師名：藤井基之

所属：前参議院議員

演題：4年制薬剤師と6年制薬剤師

世話人：愛知県薬剤師会勤務薬剤師兼青年薬剤師部会（菊池千草，長谷川信策，浅井宏樹，川村勝美，守谷みのり，大津史子，奥村算浩，戸田愛，中村真紀子，加藤潤，金兌勝）

開催日：平成20年2月23日

講演会名：厚生労働省国庫補助事業 高齢者健康づくり指導者養成セミナー

講師名：木村 和哲 教授

所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター

演題：薬が身体に与える影響

世話分野：名古屋市立大学事務局経営企画課経営企画係

開催日：平成20年2月28日

講演会名：第45回糖尿病イブニングカンファレンス

講師名：大河内昌弘

所属：愛知県厚生連尾西病院

演題：糖尿病合併症の update 『糖尿病性認知症』—糖尿病性中枢神経障害に対するインスリン、GLP-1 の抑制効果に関連して—

講師名：木村和哲

所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター

演題：「ED と生活習慣病」

世話人：糖尿病イブニングカンファレンス（菊池千草、神谷吉宣、岡山直司、今枝憲郎、水野久美子）

開催日：平成20年3月15日

講演会名：薬系大学連携シンポジウム「東海における薬学教育・研究を考える」

講師名：木村 和哲 教授

所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター

演題：医療系学部（医・薬・看護学部）連携による早期体験学習の取り組み

世話分野：臨床薬学教育研究センター

開催日：平成20年3月19日
講演会名：高橋禮子先生を囲む会
場所：名古屋市立大学大学院薬学研究科 水野メモリアルホール
世話人：Yuan Chuan Lee (ジョーンズ・ホプキンス大)、加藤 晃一

開催日：平成20年3月26日
講演会名：第128回日本薬学会 一般シンポジウム
「グライコサイエンスから創薬へ」
場所：パシフィコ横浜
世話人：加藤 晃一, 山本 一夫 (東京大学)

開催日：平成20年5月1日
講演会名：薬化学公開セミナー
講師名：Prof. Youhong Hu
所属：Shanghai Institute of Materia Medica, China
演題：Diversity-Oriented Synthesis and Lead Discovery
世話分野：薬化学分野

開催日：平成20年5月7日
講演会名：第98回薬学談話会
講師名：岩城壮一郎
所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科病態解析学分野
演題：酵母長鎖塩基キナーゼ Lcb4 において見られる細胞膜-ER 間新規輸送経路
世話分野：名市大薬学談話会

開催日：平成20年5月8日
講演会名：特別講演会
講師名：宇都宮 洋一 客員教授・大学知的財産アドバイザー
所属：名古屋市立大学・(独)工業所有権情報・研修館
演題：社会人のための特許入門講座
世話分野：分子生物薬学分野

開催日：平成20年5月15日
講演会名：特別講演会
講師名：内田 浩二 准教授
所属：名古屋大学大学院生命農学研究科
演題：食品機能の科学
世話分野：分子生物薬学分野

開催日：平成20年5月22日
講演会名：特別講演会
講師名：富田 昌弘 教授
所属：三重大学大学院工学研究科
演題：次世代モノクローナル抗体作製技術の開発とその応用
世話分野：分子生物薬学分野

開催日：平成20年5月28日
講演会名：特別講演会
講師名：浦野 泰照 准教授
所属：東京大学大学院薬学系研究科
演題：光で駆動する有機小分子プローブの精密設計とその生物・医学領域研究への適用
世話分野：薬化学分野

開催日：平成20年5月29日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：吉田 賢右 教授
所属：東京工業大学 資源化学研究所
演題：細胞のATP合成機構
世話分野：生命分子構造学分野

開催日：平成20年5月29日
講演会名：特別講演会
講師名：山下 均 教授
所属：中部大学生命健康科学部
演題：熱産生蛋白質とメタボリックシンドローム
世話分野：分子生物薬学分野

開催日：平成20年5月30日
講演会名：生命分子構造学特別講演会
講師名：蟹江 治 博士
所属：三菱化学生命科学研究所
演題：糖の気相における挙動からタンパク質のPTM制御
世話分野：生命分子構造学分野

開催日：平成20年6月5日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：村上 聡 教授
所属：東京工業大学 大学院生命理工学研究科
演題：多剤排出トランスポーターの構造生物学～多剤耐性化克服に向けて
世話分野：生命分子構造学分野

開催日：平成20年6月5日
講演会名：特別講演会
講師名：中西 真 教授
所属：名古屋市立大学大学院医学研究科
演題：ゲノムストレスに対する細胞応答と癌化
世話分野：分子生物薬学分野

開催日：平成20年6月5、6日
場所：名古屋市立大学大学病院 中央診療棟3階 大ホール
シンポジウム名：第18回金属の関与する生体関連反応シンポジウム

世話分野：精密有機反応学分野（実行委員長 樋口 恒彦）

開催日：平成20年6月11日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：仲 健彦 博士
所属：京都薬品工業株式会社
演題：アンジオテンシン II 受容体拮抗薬（カンデサルタンシレキセチル）の創製
世話分野：薬化学分野

開催日：平成20年6月12日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：富田 泰輔 博士
所属：東京大学大学院薬学系研究科
演題：膜蛋白が膜内で膜蛋白を「加水」分解する分子機構— γ セクレターゼを標的とした
アルツハイマー病治療薬開発—

世話分野：生命分子構造学分野
開催日：平成20年6月12日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：佐藤 隆一郎 教授
所属：東京大学大学院農学生命科学研究科
演題：脂質代謝制御の分子基盤
世話分野：分子生物薬学分野

開催日：平成20年6月19日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：夏目 徹 博士
所属：産業技術総合研究所 バイオメディシナル情報研究センター
演題：タンパク質ネットワーク解析から展開するケミカルバイオロジー
世話分野：生命分子構造学分野

開催日：平成20年6月19日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：渡邊 肇 准教授
所属：自然科学研究機構 基礎生物学研究所
演題：化学物質影響問題とその解析
世話分野：分子生物薬学分野

開催日：平成20年6月26日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：半沢 宏之 博士
所属：第一三共株式会社 探索第一研究所
演題：製薬企業における構造生物学
世話分野：生命分子構造学分野

開催日：平成20年6月26日

講演会名：第46回糖尿病イブニングカンファレンス

講師名：中島千里

所属：四日市看護医療大学 基礎看護学

演題：地域診療におけるフットケアの取り組み～足を守る、生活を支える予防的フットケア～

講師名：山口裕史

所属：名古屋市立大学大学院医学研究科加齢・環境皮膚科学

演題：再生医療からみた糖尿病性足潰瘍へのアプローチ

世話人：糖尿病イブニングカンファレンス（菊池千草、神谷吉宣、岡山直司、今枝憲郎、水野久美子、大河内昌也、林年成）

開催日：平成20年7月2日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：藤井 信孝 教授

所属：京都大学大学院薬学研究科

演題：システムケモセラピー：多因子疾患克服に向けた MedChem からのアプローチ

世話分野：薬化学分野

開催日：平成20年7月3日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：山口 芳樹 博士

所属：理化学研究所 基幹研究所 糖鎖構造生物学研究チーム

演題：糖鎖構造生物学とバイオインフォマティクス

世話分野：生命分子構造学分野

開催日：平成20年7月6日

講演会名：名古屋市立大学 薬友会 関西支部総会

講師名：木村 和哲 教授

所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター

演題：特別講演 名市大における6年制の取り組み

世話分野：名古屋市立大学薬友会

開催日：平成20年7月9日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：松田 彰 教授

所属：北海道大学大学院薬学研究院

演題：形を認識する核酸の創製と医薬化学

世話分野：薬化学分野

開催日：平成20年7月10日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：袖岡 幹子 博士
所属：理化学研究所 袖岡有機合成化学研究室
演題：細胞内情報伝達を制御する分子をめざして
世話分野：生命分子構造学分野

開催日：平成20年7月15日
講演会名：平成20年度第1回糖鎖分科会
「糖鎖分科会の新しい活動に向けて」
場所：名古屋大学インキュベーション施設
世話人：小林一清（NPO バイオものづくり中部）、加藤 晃一

開催日：平成20年7月16日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：高柳 輝夫 博士
所属：第一三共株式会社
演題：医薬品と製薬産業
世話分野：薬化学分野

開催日：平成20年7月16日
講演会名：名古屋市立大学 臨床薬学教育懇話会
講師名：木村 和哲 教授
所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター
演題：名市大薬学部の臨床薬学教育の現状と課題
世話分野：臨床薬学教育研究センター

開催日：平成20年7月23日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：長瀬 博 教授
所属：北里大学薬学部
演題：オピオイド受容体選択的薬物の設計と合成
世話分野：薬化学分野

開催日：平成20年8月8日
講演会名：サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト
講師名：木村 和哲 教授
所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター
演題：これからの医療のキーマンは薬剤師である!!
世話分野：病院薬剤学分野

開催日：平成20年9月8日

講演会名：愛知県薬剤師会 6年制説明会

講師名：木村 和哲 教授

所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター

演題：薬学教育6年制と長期実務実習について

世話分野：愛知県薬剤師会

開催日：平成20年9月17日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：人見 研一 博士

所属：Department of Molecular Biology and Skaggs Institute for Chemical Biology,
The Scripps Research Institute

演題：Structure-based DNA metabolic initiation by the base excision repair
machinary

世話分野：薬化学分野

開催日：平成20年9月19日

講演会名：生命分子構造学特別講演会

講師名：Raymond Norton 教授

所属：Walter and Eliza Hall Institute of Medical Research

演題：Malaria surface antigens-order, disorder and inhibitory interactions

世話分野：分子研先導分子科学部門

開催日：平成20年9月24日

講演会名：第102回薬学談話会

講師名：大野 高政

所属：愛知学院大学薬学部 薬用資源学講座

演題：漢方薬、生薬、および構成成分の生物活性に関する研究～生薬「烏薬」について～

世話分野：生薬学分野

開催日：平成20年9月28日

講演会名：第24回名古屋市立大学卒後教育講座

講師名：杉浦真弓

所属：名古屋市立大学大学院医学研究科 生殖・遺伝学講座 産婦人科学

演題：不育症の薬物療法

講師名：吉川昌江

所属：キュア・ファーマ株式会社

演題：薬局薬剤師による糖尿病療養指導を中心としたオーダーメイドファーマコロジー

ー

世話人：名古屋市立大学薬友会卒業教育担当理事（木村和哲、菊池千草、小野秀樹）

開催日：平成20年10月4日

講演会名：戦略的大学連携支援事業 6年制薬学教育を主軸とする薬系・医系・看護系大学
による広域総合教育連携 キックオフシンポジウム

講師名：木村 和哲 教授

所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター

演題：実務実習の問題点とその解決策

世話分野：東海臨床薬学教育連携センター（名古屋市立大学大学院薬学研究科内）

開催日：平成20年10月6-7日

講演会名：「バイオ分子センサー連携研究プロジェクト」レクチャーコース
『センサーの不思議：分子から個体まで』

場所：岡崎カンファレンスセンター

世話人：加藤 晃一、富永 真琴（生理研）

開催日：平成20年10月8日

講演会名：特別講演会

講師名：宗像 敬一 博士

所属：バクスター株式会社代表取締役研究開発本部長

演題：医薬品産業の将来展望—ドラマチックな環境変化に直面して—

世話分野：薬化学分野

開催日：平成20年10月9日

講演会名：市民公開講座 健康医療セミナー

講師名：木村 和哲 教授

所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター

演題：くすりの正しい知識と正しい飲み方

世話分野：名古屋市立大学事務局企画経理課

開催日：平成20年10月10日

講演会名：平成20年度第2回糖鎖分科会、平成20年度第2回食品分科会
「デンプンのさらなる機能化に向けて」

場所：名古屋大学インキュベーション施設

世話人：小林一清（NPO バイオものづくり中部）、加藤 晃一

開催日：平成20年10月16日

講演会名：第47回糖尿病イブニングカンファレンス

講師名：米山明彦

所属：蒲郡市民病院

演題：糖尿病における運動療法の位置づけおよびその実際

講師名：高石鉄雄

所属：名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科生体制御情報系

演題：「ED と生活習慣病」

世話人：糖尿病イブニングカンファレンス（菊池千草、神谷吉宣、岡山直司、今枝憲郎、水野久美子）

開催日：平成 20 年 10 月 19 日

講演会名：第 24 回名古屋市立大学卒後教育講座

講師名：伊藤浩明

所属：あいち小児医療センター アレルギー科

演題：アレルギー疾患：薬物療法の進歩

講師名：寺崎浩子

所属：名古屋大学大学院医学研究科 頭頸部・感覚器外科学講座 眼科学

演題：黄斑部疾患—最近の治療

世話人：名古屋市立大学薬友会卒後教育担当理事（木村和哲、菊池千草、小野秀樹）

開催日：平成 20 年 10 月 22 日

講演会名：名古屋市生涯学習センター 大学連携講座

講師名：菊池千草

所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター

演題：糖尿病はくすりですどこまで治せるか

世話分野：名古屋市生涯学習センター

開催日：平成 20 年 10 月 23 日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：西村 千秋 博士

所属：スクリプス研究所 分子生物学部門

演題：蛋白質は折り畳まれなければ始まらない。NMR によるヘリックス形成へのアプローチ

世話分野：生命分子構造学分野

開催日：平成 20 年 10 月 24 日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：永澤 秀子 教授
所属：岐阜薬科大学
演題：がんの低酸素微小環境を利用した診断薬／治療薬の分子設計
世話分野：薬化学分野

開催日：平成20年10月25日
講演会名：平成20年度 名古屋市立大学市民公開講座

講師名：木村 和哲 教授
所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター
演題：もっと知りたいジェネリック医薬品
世話分野：名古屋市立大学事務局企画経理課

開催日：平成20年11月5日
場所：中小企業振興会館（吹上ホール）会議室
シンポジウム名：テクノフェアサテライトシンポジウム 大学院教育 GP「薬工融合型ナノメディシン創薬研究者の育成」交流会
世話分野：大学院教育改革支援プログラム「薬工融合型ナノメディシン創薬研究者の育成」
（代表 林 秀敏）

開催日：平成20年11月6日
講演会名：特別講演会
講師名：浴 俊彦 教授
所属：豊橋技術科学大学こう学部
演題：ヘリカーゼファミリーの分子生物学
世話分野：遺伝情報学分野

開催日：平成20年11月6日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：Dr. Ngo Le-Van
所属：Vietnam National University
演題：Natural Medicines in Vietnam
世話分野：生薬学分野

開催日：平成20年11月7, 8日
講演会名：特別講演会
講師名：黒瀬 等 教授
所属：九州大学薬学研究院
演題：受容体-Gタンパク質シグナリングと心疾患：心臓の繊維化とβブロッカーの話
世話分野：遺伝情報学分野

開催日：平成20年11月9日
講演会名：第24回名古屋市立大学卒後教育講座
講師名：横井基夫

所 属：名古屋市立大学大学院医学研究科 感覚器・形成医学講座 口腔外科学

演 題：舌の見方と口腔領域における漢方の臨床応用

講 師 名：加賀谷肇

所 属：恩賜財団 済生会横浜市南部病院

演 題：がん患者への薬剤師の対応ーがん疼痛緩和ケアの理解から在宅医療支援までー

世話人：名古屋市立大学薬友会卒後教育担当理事（木村和哲、菊池千草、小野秀樹）

開 催 日：平成 20 年 11 月 20 日

講演会名：特別講演会

講 師 名：藤原 俊伸 准教授

所 属：神戸大学大学院工学研究科

演 題：RNA 結合蛋白質によるシグナル伝達経路と翻訳制御機構との連携

世話分野：遺伝情報学分野

開 催 日：平成 20 年 11 月 22 日

講演会名：名古屋市生涯学習センター 大学連携講座

講 師 名：木村 和哲 教授

所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター

演 題：くすりの正しい知識と正しい飲み方

世話分野：名古屋市生涯学習センター

開 催 日：平成 20 年 11 月 27 日

講演会名：厚生労働省国庫補助事業 高齢者健康づくり指導者養成セミナー

講 師 名：木村 和哲 教授

所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター

演 題：薬が身体に与える影響ー 高齢者と薬 ー

世話分野：名古屋市立大学事務局経営企画課経営企画係

開 催 日：平成 20 年 12 月 5 日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講 師 名：長 秀連 教授

所 属：東北大学大学院理学研究科（薬学研究科教授兼任）

演 題：医薬品候補化合物の discovery と development

世話分野：薬化学分野

開 催 日：平成 20 年 12 月 7 日

講演会名：第 41 回東海薬剤師学術大会特別講演

講師名：藤井基之

所属：前参議院議員

演題：地域医療の輪の中で

企画運営：愛知県薬剤師会勤務薬剤師兼青年薬剤師部会（菊池千草，長谷川信策，浅井宏樹，川村勝美，守谷みのり，大津史子，奥村算浩，岩渕愛，中村真紀子，加藤潤）

開催日：平成20年12月16日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：今井 啓祐 博士

所属：アステラスビジネスサービス株式会社

演題：知財活用：企業の立場から一企業における創薬研究と知的財産の確保について

世話分野：薬化学分野

開催日：平成20年12月18日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：内山 進 博士

所属：大阪大学大学院工学研究科

演題：複数の物理生化学的手法によるタンパク質間相互作用の研究

世話分野：生命分子構造学分野

開催日：平成20年12月18日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：橋本 有弘 博士

所属：国立長寿医療センター研究所部長

演題：幹細胞とは？－基礎研究から再生医療まで－

世話分野：医薬品代謝解析学分野

開催日：平成20年12月18日

講演会名：「地域－大学連携による地域医療ニーズに対応した薬剤師リカレント学習支援プログラム」三公立連携薬剤師生涯学習支援講座

講師名：木村 和哲 教授

所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センター

演題：ED発症のメカニズムとその治療方法

世話分野：東海臨床薬学教育連携センター（名古屋市立大学大学院薬学研究科内）

4 研究業績目録

(2008年1月から2008年12月)

【薬化学分野】

(原報)

Takayoshi Suzuki, Sou-ichi Igari, Akira Hirasawa, Mie Hata, Masaji Ishiguro, Hiroki Fujieda, Yukihiro Itoh, Tatsuya Hirano, Hidehiko Nakagawa, Michitaka Ogura, Makoto Makishima, Gozoh Tsujimoto, Naoki Miyata

Identification of G protein-coupled receptor 120-selective agonists derived from PPAR γ agonists

J. Med. Chem., **51**, 7640-7644 (2008).

Yusuke Adachi, Hidehiko Nakagawa, Kazuya Matsuo, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata
Photoactivatable HNO-releasing compounds using the retro-Diels-Alder reaction

Chem. Commun., 5149-5151 (2008).

Hiroki Tsumoto, Katsumasa Takahashi, Takayoshi Suzuki, Hidehiko Nakagawa,
Kohfuku Kohda, Naoki Miyata

Preparation of C60-based active esters and coupling of C60 moiety to amines or alcohols

Bioorg. Med. Chem. Lett., **18**, 657-660 (2008).

Ken-ichiro Matsumoto, Haruko Yakumaru, Michiko Narazaki, Hidehiko Nakagawa,
Kazunori Anzai, Hiroo Ikehira, Nobuo Ikota

Modification of nitroxyl contrast agents with multiple spins and their proton T1 relaxivity

Magn. Reson. Imaging, **26**, 117-121 (2008).

Erin E. Vaughan, R. Christopher Geiger, Aaron M. Miller, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata, David A. Dean

Microtubule acetylation through HDAC6 inhibition results in increased transfection efficiency

Mol. Ther., **16**, 1841-1847 (2008).

Kiyoshi Fukuhara, Ikuo Nakanishi, Atsuko Matsuoka, Tomohiro Matsumura, Sachiko Honda, Mikiko Hayashi, Toshihiko Ozawa, Naoki Miyata, Shinichi Saito, Nobuo Ikota, Haruhiro Okuda

Effect of Methyl Substitution on the Antioxidative Property and Genotoxicity of Resveratrol

Chem. Res. Toxicol., **21**, 282-287 (2008).

(総説・著書・総合論文など)

Yukihiro Itoh, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata

Isoform-selective histone deacetylase inhibitors

Curr. Pharm. Design, **14**, 529-544 (2008).

Hidehiko Nakagawa, Naoki Miyata

2,2,6,6-Tetramethylpiperidin-1-oxyl probes for evaluating oxidative stress on the cell membrane and mitochondria

Methods in Molecular Biology, vol. 477: *Advanced Protocols in Oxidative Stress I*, (Edited by:

D. Armstrong, Humana Press, New York, NY), pp99-112.

伊藤幸裕, 鈴木孝禎, 宮田直樹
HDAC6 選択的阻害薬

医学のあゆみ, **224**, 71-74 (2008).

中川秀彦, 宮田直樹
フリーラジカルの測定法

「酸化ストレスの医学」吉川敏一監修, 内藤裕二, 豊国伸哉編, 診断と治療社 pp88-96
(2008)

(特許申請)

出願日:平成20年4月24日

出願番号:PCT/JP2008/058917

名称:Gタンパク質共役型レセプター抑制剤および医薬

発明者:辻本豪三、平澤明、宮田直樹、鈴木孝禎、高原義之

特許出願人:ファルマフロンティア株式会社

出願日:平成20年4月25日

出願番号:PCT/JP2008/058457

名称:Gタンパク質共役型レセプター作動剤

発明者:辻本豪三、平澤明、宮田直樹、鈴木孝禎、高原義之、石黒正路、畑美絵

特許出願人:科学技術振興機構、京都大学、名古屋市立大学、ファルマフロンティア株式会社

出願日:平成20年11月5日

出願番号:特願2008-284899

名称:アシルニトロソ誘導体環化付加アントラセン誘導体及び光作動型HNO供与体

発明者:中川秀彦、宮田直樹、鈴木孝禎、松尾和哉

特許出願人:名古屋市立大学

(学会発表)

宮田直樹【招待講演】

大学における創薬研究:ヒストン脱アセチル化酵素をターゲットとして

名古屋工業大学・名古屋市立大学連携セミナー「薬学への招待:創薬生命科学最前線」,
2008年3月7日(名古屋)

菱川和宏, 中川秀彦, 鈴木孝禎, 福原潔, 宮田直樹

光吸収部位として fluorescein を用いた光作動型NOドナーの合成

日本薬学会第128年会, 2008年3月26日(横浜) 26PE-am196

可児佑一郎, 高橋克昌, 鈴木孝禎, 中川秀彦, 宮田直樹

GSTアイソザイム選択的阻害活性を有する水溶性フラブレン誘導体の合成

日本薬学会第 128 年会, 2008 年 3 月 26 日 (横浜) 26PE-am197

浅場智美, 鈴木孝禎, 中川秀彦, 宮田直樹

触媒メカニズムを基にした新規 SIRT 阻害薬の設計、合成と生物活性評価

日本薬学会第 128 年会, 2008 年 3 月 26 日 (横浜) 26PE-am198

鈴木信明, 鈴木孝禎, 中川秀彦, 宮田直樹

ボロン酸を有する新規 HDAC 阻害薬の設計、合成と酵素阻害活性評価

日本薬学会第 128 年会, 2008 年 3 月 26 日 (横浜) 26PE-am222

伊藤幸裕, 鈴木孝禎, 中川秀彦, 宮田直樹

Fe(II)- α -ケトグルタル酸依存性ヒストン脱メチル化酵素阻害薬の設計と合成

日本薬学会第 128 年会, 2008 年 3 月 26 日 (横浜) 26PE-am239

池田麻美子, 中川秀彦, 伴静華, 鈴木孝禎, 宮田直樹

核における酸化ストレス測定を目指したスピンプローブの設計と合成

日本薬学会第 128 年会, 2008 年 3 月 26 日 (横浜) 26PE-am240

木全絢子, 中川秀彦, 大山亮, 福内友子, 太田茂, 鈴木孝禎, 堂浦克美, 宮田直樹

Pyrazolone 骨格を有する抗プリオン活性化化合物の作用機序検討

日本薬学会第 128 年会, 2008 年 3 月 27 日 (横浜) 27N-am05

安達祐介, 中川秀彦, 鈴木孝禎, 宮田直樹

光応答性ヘテロ Diels-Alder 環化付加体による HNO 放出とその検出

日本薬学会第 128 年会, 2008 年 3 月 27 日 (横浜) 27N-am06

福原潔, 中西郁夫, 大久保敬, 深井直樹, 小澤俊彦, 宮田直樹, 浦野四朗, 福住俊一,
安西和紀, 奥田晴宏

リジン側鎖を有する平面型カテキン誘導体の合成とラジカル消去活性

日本薬学会第 128 年会, 2008 年 3 月 26 日 (横浜) 26PE-am191

中西郁夫, 島田知一, 大久保敬, Sushma Manda, 清水健彦, 伊古田暢夫, 福原潔

プロトン共役電子移動を経由するレスベラトロールのラジカル消去反応

日本薬学会第 128 年会, 2008 年 3 月 26 日 (横浜) 26PW-am165

中川秀彦, 安達祐介, 鈴木孝禎, 宮田直樹

逆 Diels-Alder 反応に基づいた光作動性 HNO ドナーの開発

日本ケミカルバイオロジー研究会第 3 回年会, 2008 年 5 月 19 日 (東京) 0-12

中川秀彦, 安達祐介, 鈴木孝禎, 宮田直樹【依頼講演】

逆 Diels-Alder 反応を利用した光作動性 HNO ドナーの開発

第 61 回日本酸化ストレス学会学術集会, 2008 年 6 月 19 日 (京都) S06-1

菱川和宏, 中川秀彦, 鈴木孝禎, 福原潔, 宮田直樹

二光子過程で作動する NO ドナー

第 61 回日本酸化ストレス学会学術集会, 2008 年 6 月 19 日 (京都) 17

中川秀彦

NO類の放出を光でコントロール：新規光作動型 NO 類ドナーの開発

国際バイオフィォーラム～バイオアカデミックフォーラム～，2008年7月2日（東京）

E-11

鈴木信明，鈴木孝禎，中野達也，中川秀彦，宮田直樹

ボロン酸を有する新規 HDAC 阻害薬の設計、合成と活性評価

第 54 回日本薬学会東海支部大会，2008年7月5日（名古屋） A-14

Hidehiko Nakagawa, Mamiko Ikeda, Shizuka Ban, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata

EPR probes for oxidative stress at membrane and mitochondria

EPR2008, 2008年9月28-30日（Fukuoka）; P-29

中川秀彦

新規光作動型 NO 類ドナーの開発

名市大・名工大テクノフェア、2008年11月4日（名古屋） B-13

菱川和宏，中川秀彦，鈴木孝禎，宮田直樹，古田寿明，福原潔

二光子過程で作動する NO ドナーの合成と評価

第 34 回反応と合成の進歩シンポジウム、2008年11月4-5日（京都） 1P58

池田麻美子，中川秀彦，伴静華，鈴木孝禎，宮田直樹

細胞小器官局在性を付与した TEMPO 誘導体の合成

第 34 回反応と合成の進歩シンポジウム、2008年11月4-5日（京都） 1P59

鈴木信明，鈴木孝禎，中野達也，中川秀彦，宮田直樹

ボロン酸を有する新規 HDAC 阻害薬の創製

第 27 回メディシナルケミストリーシンポジウム、2008年11月26-28日（大阪） 1P-69

浅場智美，鈴木孝禎，中川秀彦，宮田直樹

新規 SIRT 阻害薬の創製と酵素阻害メカニズムの解析

第 27 回メディシナルケミストリーシンポジウム、2008年11月26-28日（大阪） 1P-71

松尾和哉，中川秀彦，安達祐介，鈴木孝禎，宮田直樹

光誘起性 HNO 放出試薬の開発

第 27 回メディシナルケミストリーシンポジウム、2008年11月26-28日（大阪） 1P-75

猪狩聡一，鈴木孝禎，平澤明，畑美絵，中川秀彦，石黒正路，辻本豪三，宮田直樹

新しい糖尿病薬をめざして～GPR120 選択的アゴニストの探索～

第 27 回メディシナルケミストリーシンポジウム、2008年11月26-28日（大阪） 2P-38

北村千春，中川秀彦，鈴木孝禎，宮田直樹

Huisgen 反応を用いるアフィニティ抽出ツールの開発

平成 20 年度日本薬学会東海支部例会、2008年12月6日（静岡） A-21

池田麻美子, 中川秀彦, 伴静華, 鈴木孝禎, 宮田直樹

ピロールポリアミドを DNA 結合部位とした核分布型 TEMPO 誘導体の合成と評価

平成 20 年度日本薬学会東海支部例会、2008 年 12 月 6 日 (静岡) A-22

猪狩聡一, 鈴木孝禎, 平澤明, 畑美絵, 中川秀彦, 石黒正路, 辻本豪三, 宮田直樹

GPR120 選択的アゴニストの設計・合成と生物活性評価

平成 20 年度日本薬学会東海支部例会、2008 年 12 月 6 日 (静岡) A-23

宮田直樹【依頼講演】

大学における創薬研究：ヒストン脱アセチル化酵素をターゲットとして

名工大-名市大連携セミナー、2008 年 3 月 7 日 (名古屋)

宮田直樹【依頼講演】

エピジェネティックに遺伝子発現を制御する酵素阻害薬の創製

小野薬品工業(株)水無瀬研究所セミナー、2008 年 7 月 30 日 (大阪)

宮田直樹【依頼講演】

ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬の設計・合成とがん細胞増殖抑制効果

文部科学省化学療法基盤情報支援班 班会議セミナー、2008 年 9 月 5 日

【精密有機反応学分野】

(原報)

Tomohiko Fujii, Nobuki Kato, Izumi Iwakura, Yoshiyuki Manabe, Minoru Ueda
Synthesis of Staudinger-type Molecular Probe for Catch-and-release Purification of the Binding Protein for Potassium Isolespedezate, a Leaf-closing Substance of Leguminous Plant
Chem. Lett., **37**, 52-53 (2008)..

Kentaro Iso, Masayuki Inoue, Nobuki Kato, Masahiro Hiramata
Synthesis of the Bicyclo[7.3.0]dodecadiyne Core of the Maduropeptin Chromophore
Chem. Asian J., **3**, 447-453 (2008)..

Shoji Akita, Naoki Umezawa, Nobuki Kato, and Tsunehiko Higuchi
Array-based fluorescence assay for serine/threonine kinases using specific chemical reaction
Bioorg. Med. Chem., **16(16)**, 7788-7794 (2008)..

Mie Kamoto, Naoki Umezawa, Nobuki Kato, and Tsunehiko Higuchi
Novel Probes Showing Specific Fluorescence Enhancement on Binding to Hexahistidine Tag
Chem -Eur. J., **14(26)**, 8004-8012 (2008)..

Takehiro Yamane, Kohei Makino, Naoki Umezawa, Nobuki Kato, and Tsunehiko Higuchi
Extreme rate acceleration by axial thiolate coordination on the isomerization of endoperoxide catalyzed by iron porphyrin: relevance to prostaglandin H₂ isomerase catalysis
Angew. Chem. Int. Ed., **47(34)**, 6438-6440 (2008)..

(学会発表)

松本春香, 平林茂樹, 横山博志, 加納詳子, 松本政哲, 加藤信樹, 梅澤直樹, 渡邊健太郎, 山中雅彦, 内海順夫, 樋口恒彦, 樋口恒彦
「分子バーコード」としての合成 DNA による個別情報付加
日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 26 日 (横浜) ; 26M-pm10.

鵜飼和宏, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦
一般性の高いケージドペプチド設計法
日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 27 日 (横浜) ; 27LA-am01.

田中浩市, 土屋智奈津, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦
化学進化的合成化学による β -アミロイド親和性物質の開発
日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 27 日 (横浜) ; 27LA-am02.

山根健浩, 牧野康平, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦
プロスタグランジン H₂ 異性化酵素の機能におけるヘム配位構造の重要性

日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 27 日 (横浜) ; 27M-pm15.

中平真理子, 川久保真, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

環構造を有する新規ポリアミンの合成と活性評価

日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 27 日 (横浜) ; 27N-pm15.

秋田昌二, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

ペプチドアレイに適用可能なセリン/トレオニンキナーゼ蛍光アッセイ法の開発

日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 28 日 (横浜) ; 28PE-am166.

樋口恒彦

三次元的に固定した分子内反応補助基のマンガンサレン錯体の酸素類似触媒活性に及ぼす効果

特定領域研究「協奏機能触媒」第 2 回国際シンポジウム. 2008 年 4 月 18-19 日 (東京) ; P65.

則武幸延, 渡部頼忠, 南波あずさ, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦

反応補助基を導入したマンガンサレン錯体の活性酸素消去活性

第 18 回金属の関与する生体関連シンポジウム. 2008 年 6 月 6 日 (名古屋) ; P-2-14.

野々垣定紀, 上田真之介, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦

新概念に基づく高い効率を目指した光駆動一方向回転分子の開発

第 54 回日本薬学会東海支部総会・大会. 2008 年 7 月 5 日 (名古屋) ; A-17.

Mie Kamoto, Naoki Umezawa, Nobuki Kato, Tsunehiko Higuchi

Novel Probes Showing Specific Fluorescence Enhancement on Binding to Hexahistidine Tag.

236th ACS National meeting and Exposition.

2008 年 8 月 19 日 (Philadelphia, USA) ; ORGN 436.

鴨東美絵, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

ヒスタグペプチド配列を認識し発蛍光する蛍光試薬の開発

第 3 回バイオ関連化学合同シンポジウム. 2008 年 9 月 18 日 (横浜) ; 1P-04.

松本庸良, 岩間紳介, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

汎用性の高いペプチド導入ポルフィリン誘導体の合成

第 3 回バイオ関連化学合同シンポジウム. 2008 年 9 月 18 日 (横浜) ; 1P-05.

今村優希, 梅澤直樹, 加藤信樹, 渡邊直登, 富田泰輔, 岩坪威, 樋口恒彦

γ -セクレターゼ阻害能をもつフォルダマーの開発

第 3 回バイオ関連化学合同シンポジウム. 2008 年 9 月 18 日 (横浜) ; 1P-06.

樋口恒彦, 山根健浩, 牧野康平, 梅澤直樹, 加藤信樹

鉄ポルフィリンによるエンドペルオキシド異性化反応におけるチオレート軸配位子の顕著な促進効果: プロスタグランジン H_2 異性化酵素との関連

第 58 回錯体化学討論会. 2008 年 9 月 21 日 (金沢) ; 2C-08.

樋口恒彦, 牧野康平, 鈴木潤, 山根健浩, 梅澤直樹, 加藤信樹

ヘムの触媒するエンドペルオキシド異性化反応におけるチオレート軸配位子の高度加速効果—プロスタグランジン H₂ 異性化酵素との関連—

第 102 回触媒討論会. 2008 年 9 月 25 日 (名古屋) ; 3L08.

伊藤里奈, 水野史士, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

ルテニウムポルフィリン—芳香族ヘテロ環 N-オキシド系による環状アミド類の特徴的酸化変換

第 41 回酸化反応討論会. 2008 年 11 月 27 日 (福岡) ; 10-13.

樋口恒彦

ヘムにおけるチオレート軸配位子への水素結合の特異な協奏機能効果

特定領域研究「協奏機能触媒」第 5 回公開シンポジウム. 2008 年 12 月 2-3 日 (豊中) ; P64.

樋口恒彦【招待講演】

酵素の高機能発現戦略を取り入れた生体関連触媒の開発

日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 27 日 (横浜) ; S23-7.

樋口恒彦【招待講演】

シトクロム P450 中心配位構造とペルオキシドの化学

茨城大学大学院理学研究科 講演会. 2008 年 10 月 10 日 (水戸) .

樋口恒彦【招待講演】

官能基集積型機能分子：酵素機構解明から医薬候補分子創製まで

京都大学大学院薬学研究科 大学院講義. 2008 年 10 月 15 日 (京都) .

樋口恒彦【招待講演】

プロスタグランジン H₂ 異性化酵素におけるヘム—チオレート活性中心構造の意義

第 8 回国際ポルフィリン・ヘムシンポジウム. 2008 年 10 月 16 日 (松江) .

【薬品合成化学分野】

(原報)

Yoshiyuki Hari, Gil Tae Hwang, Aaron M. Leconte, Nicolas Joubert, Michal Hocek, Floyd E. Romesberg

Optimization of the pyridyl nucleobase scaffold for polymerase recognition and unnatural base pair replication

Chem Bio Chem, **9**, 2796-2799 (2008).

Yoshiyuki Hari, Koji Date, Ryosuke Kondo, Toyohiko Aoyama

New synthesis of *t*-butyl arylpropiolates using diazo(trimethylsilyl)methylmagnesium bromide

Tetrahedron Lett., **49**, 4965-4967 (2008).

Yoshiyuki Hari, Masaki Sakuma, Ayako Miyakawa, Keiichiro Hatano, Toyohiko Aoyama
Synthesis of chiral tetrahydroisoquinoline-derived β -amino alcohols and their application to asymmetric reaction

Heterocycles, **76**, 305-311 (2008).

Aaron M. Leconte, Gil Tae Hwang, Shigeo Matsuda, Petr Capek, Yoshiyuki Hari, Floyd E. Romesberg

Discovery, characterization, and optimization of an unnatural base pair for expansion of the genetic alphabet

J. Am. Chem. Soc., **130**, 2336-2343 (2008).

Satoshi Obika, Hiroyasu Inohara, Yoshiyuki Hari, Takeshi Imanishi

Recognition of T•A interruption by 2',4'-BNAs bearing heteroaromatic nucleobases through parallel motif triplex formation

Bioorg. Med. Chem., **16**, 2955-2967 (2008).

Mikio Morita, Yoshiyuki Hari, Tomoe Iguchi, Toyohiko Aoyama

Facile synthesis of 2-azaazulenes from thiobenzoyl isocyanates using trimethylsilyldiazomethane

Tetrahedron, **64**, 1753-1758 (2008).

Kana Yamamoto, Kaori Tsurumi, Fumie Sakurai, Kazuhiro Kondo, Toyohiko Aoyama

Development of asymmetric Ni-catalyzed arylation to aromatic aldehydes of arylboron reagents

Synthesis, 3585-3590 (2008).

Yoko Sakamoto, Kazuhiro Kondo, Toyohiko Aoyama

Dynamics of imine and acetophenone derivatives in solution studied by one-dimensional diffusion-ordered NMR spectroscopy (DOSY)

Polycyclic Aromatic Compounds, **28**, 339-347 (2008).

(学会発表)

近藤 良祐, 張 功幸, 青山 豊彦

トリメチルシリルジアゾメタンの MgBr 塩を用いたベンゾフラン-3-カルボキシラート類の合成

第 38 回複素環化学討論会. 2008 年 11 月 21-23 日 (福山) . 2P-40

曾根 良介, 張 功幸, 青山 豊彦

トリメチルシリルジアゾメタンの MgBr 塩を用いた 3-置換インダゾール合成

第 38 回複素環化学討論会. 2008 年 11 月 21-23 日 (福山) . 2P-41

Yoshiyuki Hari, Toyohiko Aoyama

Recent application of trimethylsilyldiazomethane to the synthesis of heterocycles

Pan-Pacific International Partnership Conference on Pharmaceutical and Life Sciences (The 4th US-Japan Joint Conference). 2008 年 2 月 22-23 日 (名古屋) . P1

山本 佳奈, 鶴見 佳織, 近藤 和弘, 青山 豊彦

Ni 触媒による芳香族アルデヒドの不斉アリール化反応の開発

第 54 回 (平成 20 年度) 日本薬学会東海支部総会・大会. 2008 年 7 月 5 日 (名古屋市立大学大学院薬学研究科) . A-6

【機能分子構造学分野】

(原報)

Yosuke Hisamatsu, Yuki Fukumi, Naohiro Shirai, Shin-ichi Ikeda, and Kazunori Odashima

Five-membered Heterocyclic Ureas Suitable for the Donor-Donor-Acceptor Hydrogen-Bonding Modules

Tetrahedron Lett., **49**, 2005-2009 (2008).

Shin-ichi Ikeda, Hitomi Obara, Eriko Tsuchida, Naohiro Shirai, and Kazunori Odashima
Nickel-Catalyzed Coupling of Alkyne-Tethered Vinylcyclopropanes and Allyl Chloride

Organometallics, **27**, 1645-1648 (2008).

(学会発表)

Yosuke Hisamatsu, Naohiro Shirai, Shin-ichi Ikeda, and Kazunori Odashima

Novel Quadruple Hydrogen-Bonding Module with Five-Membered Heteroaromatic Ring

Pan-Pacific International Partnership Conference on Pharmaceutical and Life Sciences, 2008 年
2月22日(名古屋);P5.

久松洋介、白井直洋、池田慎一、小田嶋和徳

ヘテロ 5 員環構造を含む新規 DDAA 型多点水素結合性モジュールの開発

日本化学会第 88 回春季年会、2008 年 3 月 25 日(東京)

大山祐佳里、白井直洋、小田嶋和徳、池田慎一

ニッケル触媒存在下 1, 3-ジカルボニル化合物の脱離を伴う溝呂木-ヘック型ドミノ反応

日本薬学会第 127 年会、2008 年 3 月 26 日(横浜).

林 克幸、白井直洋、小田嶋和徳、池田慎一

カリックスアレーン類による膜電位選択的分子認識の基礎研究(10) 多点水素認識に基づくドーパミン選択的錯体形成能の評価

日本薬学会第 127 年会、2008 年 3 月 26 日(横浜).

松山悠里子、白井直洋、小田嶋和徳、池田慎一

ニッケル触媒存在による β -酸素脱離を伴う溝呂木-ヘック型ドミノ反応の開発

日本薬学会第 127 年会、2008 年 3 月 27 日(横浜).

久松洋介、梶川清香、白井直洋、池田慎一、小田嶋和徳

トリアゾール環を有する新規 ADDA 型多点水素結合性モジュールの開発

第 3 回ホスト・ゲスト化学シンポジウム、2008 年 6 月 1 日(東京);P2-40.

池田慎一

Nickel-Catalyzed Mizoroki-Heck-Type Reaction with Alkyne-Tethered Allyl

Alcohols and Enones via β -*syn*-Elimination of C–OH Bond

2008 有機反応研究会. 2008 年 6 月 7 日 (大阪)

松山悠里子, 池田慎一, 白井直洋, 小田嶋和徳

ニッケル触媒存在によるエノン、アルキン、アリルアルコール類のドミノカップリング

第 39 回中部化学関係学協会支部連合秋季大会. 2008 年 11 月 9 日 (名古屋); 2F14

大山祐佳里, 白井直洋, 小田嶋和徳, 池田慎一

ニッケル触媒存在下、 β -炭素脱離を伴う溝呂木-ヘック型ドミノ反応の開発

日本薬学会東海支部例会. 2008 年 12 月 6 日 (静岡).

土田恵理子, 白井直洋, 小田嶋和徳, 池田慎一

ニッケル触媒を用いる、エノンとエンインのカップリング反応 - ビニルシクロプロパン

類の合成

日本薬学会東海支部例会. 2008 年 12 月 6 日 (静岡).

大坪加奈, 白井直洋, 小田嶋和徳, 池田慎一

ニッケル触媒存在下、アリル求電子剤・アルケン・有機金属試薬のドミノカップリング

反応

日本薬学会東海支部例会. 2008 年 12 月 6 日 (静岡).

【生体超分子システム解析学分野】

(原報)

Kei Miura, Hidehiro Nomura, Mamoru Nakanishi, and Naohide Hirashima
Munc13-1, an active zone protein, regulates exocytosis in mast cells.

Bioimages, **16**, 11-18 (2008).

(総説・著書・総合論文など)

なし

(特許申請)

なし

(学会発表)

Satoshi Tadokoro, Hiroki Sakiyama, Mamoru Nakanishi, Naohide Hirashima
Membrane Fusion Liposomes Containing SNARE Proteins Involved in Exocytosis of Mast Cells

Pan-Pacific International Partnership Conference on Pharmaceutical and Life Sciences (The 4th US-Japan Joint Conference). 2008年2月22日(名古屋); P14.

野村英宏, 大塚稔久, 平嶋尚英

マスト細胞の開口放出におけるアクティブゾーン蛋白質 ELKS の機能解析

日本薬学会第128年会. 2008年3月27日(横浜); 27PE-am281.

伊納義和, 古野忠秀, 平嶋尚英, 中西 守

バイオサーファクタントによる遺伝子導入の新経路

日本薬学会第128年会. 2008年3月28日(横浜); 28PE-pm089.

古野忠秀, 平嶋尚英, 中西 守

感覚神経とマスト細胞の相互作用における接着分子 CADM1 の機能解明

日本薬学会第128年会. 2008年3月28日(横浜); 28PE-pm094.

田所 哲, 中西 守, 平嶋尚英

マスト細胞の脱顆粒に関与する SNARE 結合分子による分泌制御機構

日本薬学会第128年会. 2008年3月28日(横浜); 28PE-pm098.

田中正彦, 柳川右千夫, 平嶋尚英

神経初代培養系における単一細胞エレクトロポレーションによる siRNA の導入

日本薬学会第128年会. 2008年3月28日(横浜); 28PE-pm108.

田所 哲, 栗本 徹, 中西 守, 平嶋尚英
マスト細胞の開口放出に関与する SNARE 結合分子による分泌制御機構
第 60 回日本細胞生物学会大会. 2008 年 7 月 1 日 (横浜); 3P-075.

野村英宏, 大塚稔久, 平嶋尚英
マスト細胞のエクソサイトーシスにおけるアクティブゾーンタンパク質 ELKS の役割
第 54 回日本薬学会東海支部大会. 2008 年 7 月 5 日 (名古屋); B-10.

田中正彦, 柳川右千夫, 平嶋尚英
小脳細胞培養系における単一細胞エレクトロポレーションによる siRNA の導入
第 31 回日本神経科学大会. 2008 年 7 月 9 日 (東京); P1-v15.

田所 哲, 中西 守, 平嶋尚英
Complexin によるマスト細胞の脱顆粒制御
第 30 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム. 2008 年 8 月 8 日 (札幌); MD-8-07.

Masahiko Tanaka, Yuchio Yanagawa, Naohide Hirashima
Real-time monitoring of effects of small interfering RNA transferred by single-cell
electroporation in cerebellar cell cultures.
The 38th Annual Meeting of the Society for Neuroscience.
2008 年 11 月 19 日 (Washington, DC, USA); 884.15/UU26.

伊納義和, 古野忠秀, 平嶋尚英, 中西 守
バイオサーファクタント含有正電荷リポソームによる優れた遺伝子導入経路
日本生物物理学会第 46 回年会. 2008 年 12 月 3 日 (福岡); 1P-215.

笹井雅夫, 田所 哲, 平嶋尚英
人工エクソサイトーシス系の開発
日本生物物理学会第 46 回年会. 2008 年 12 月 4 日 (福岡); 2P-236.

池谷実穂, 小西尋文, 平嶋尚英
マスト細胞のカルシウム動員機構における Orai-STIM 系の機能解析
第 31 回日本分子生物学会年会・第 81 回日本生化学会大会 合同大会. 2008 年 12 月 9 日
(神戸); 1P-0406.

西村陽子, 平嶋尚英
FRET を用いたリン脂質非対称分布のアッセイ系の開発
第 31 回日本分子生物学会年会・第 81 回日本生化学会大会 合同大会. 2008 年 12 月 9 日
(神戸); 1P-0474.

星野有香, 古野忠秀, 伊納義和, 朱 霞, 加藤久宣, 平嶋尚英, 中西 守
マスト細胞の活性化に及ぼす HRB (hydrolyzed rice bran) の影響
第 31 回日本分子生物学会年会・第 81 回日本生化学会大会 合同大会. 2008 年 12 月 10
日 (神戸); 2P-0374.

関村美穂, 古野忠秀, 伊藤彰彦, 岡本恵佑, 平嶋尚英, 中西 守

後根神経節細胞とマスト細胞の相互作用における接着分子 CADM1 の役割

第 31 回日本分子生物学会年会・第 81 回日本生化学会大会 合同大会. 2008 年 12 月 11 日 (神戸) ; 3P-0437.

田所 哲, 中西 守, 平嶋尚英

マスト細胞の脱顆粒に関与する complexin2 の機能部位

第 31 回日本分子生物学会年会・第 81 回日本生化学会大会 合同大会. 2008 年 12 月 12 日 (神戸) ; 4P-0554.

野村英宏, 大塚稔久, 平嶋尚英

アクティブゾーンタンパク質 ELKS によるマスト細胞の脱顆粒制御とそのメカニズム

第 31 回日本分子生物学会年会・第 81 回日本生化学会大会 合同大会. 2008 年 12 月 12 日 (神戸) ; 4P-0555.

Hidehiro Nomura, Naohide Hirashima

Involvement of ELKS, an active zone protein, in exocytotic release in mast cells.

The 48th Annual Meeting of the American Society for Cell Biology.
2008 年 12 月 15 日 (San Francisco, CA, USA) ; 892/B91.

【コロイド・高分子物性学分野】

(原報)

Akiko Toyotama, Junpei Yamanaka, Masakatsu Yonese, T. Sawada, Fumio Uchida, and Yoshimasa Ohki

Unidirectional crystallization of charged colloidal silica under temperature gradient.

J. Jpn. Soc. Microgravity Appl., **25**, 479-482 (2008).

Hiroshi Yamada, Tsutomu Sawada, Junpei Yamanaka, Masakatsu Yonese, and Fumio Uchida

Structural characterization of charged colloidal silica crystals formed by base diffusion.

Chem. Lett., **37**, 2008, 172-173.

(総説・著書・総合論文など)

山中淳平

3次元フォトリソグラフィ結晶 (3DPC) 生成宇宙実験におけるコロイド結晶成長法

日本マイクロ重力応用学会誌, 25, 2008, 147-151.

山中淳平

「ナノ粒子の創製と応用展開」

コロイド結晶とその光学材料への応用

米澤 徹 編, フロンティア出版, 東京, 2008, 132-139.

(特許申請)

出願日: 平成14年2月29日

出願番号: 特願2008-50143

名称: 複合部材

発明者: 山中淳平, 豊玉彰子, 内田文生, 川中智司, 中野勇二, 名方亮介, 西垣雄一, 川澄善之

特許出願人: 名古屋市立大学, 富士化学(株), 京セラ(株)

出願日: 平成14年5月28日

出願番号: 特願2008-140089

名称: コロイド結晶の成長方法及びコロイド結晶

発明者: 山中淳平, 篠原真里子, 豊玉彰子, 吉澤幸樹, 恩田佐智子, 米勢政勝, 内田文生

特許出願人: 名古屋市立大学, 富士化学(株)

(学会発表)

山中淳平[招待講演]

荷電コロイド粒子系における制御された結晶化

名古屋工業大学 JAXA 拠点講演会, 2008年3月28日(名古屋).

吉澤幸樹, 若林奈央, 山中淳平, 米勢政勝

荷電コロイド2成分混合系の電荷誘起相分離現象における粒子の沈降の影響

日本化学会第 88 春季年会. 2008 年 3 月 29 日 (東京) ; 4PC-003

吉澤幸樹, 若林奈央, 山中淳平, 米勢政勝

荷電コロイド 2 成分混合系の電荷誘起相分離

日本化学会第 88 春季年会. 2008 年 3 月 30 日 (東京) ; 5L2-12

山中 淳平, 豊玉 彰子, 米勢 政勝, 内田 文生

荷電コロイドの温度誘起結晶化

第57回高分子学会年次大会. 2008年5月30日 (横浜) ; 3Pa033

豊玉 彰子, 山中 淳平, 篠原 真里子, 澤田 勉, 内田 文生, 米勢 政勝

一方向加熱による荷電コロイド結晶の作成とその固 定化

第57回高分子学会年次大会. 2008年5月30日 (横浜) ; 3Pb034

篠原 真里子, 豊玉 彰子, 山中 淳平, 米勢 政勝

一方向冷却によるシリカコロイド結晶の融解

第57回高分子学会年次大会. 2008年5月30日 (横浜) ; 3Pa035

恩田佐智子, 山中淳平, 澤田勉, 米勢政勝, 大木芳正

シリカコロイドの一方向結晶成長における周期パターンの形成

第57回高分子学会年次大会. 2008年5月30日 (横浜) ; 3Pa036

吉澤幸樹, 恩田佐智子, 山中淳平, 米勢政勝

ポリスチレン粒子共存下での荷電シリカコロイド結晶の一方向成長

第 57 回高分子学会年次大会. 2008 年 5 月 30 日 (横浜) ; 3Pa037

吉澤幸樹, 若林奈央, 山中淳平, 米勢政勝

荷電コロイド 2 成分混合系の電荷誘起相分離

第 57 回高分子学会年次大会. 2008 年 5 月 30 日 (横浜) ; 3Pb038

藤岡正剛, 山中淳平, 米勢政勝

荷電シリカコロイドの結晶成長における粒子濃度の不均一性

第57回高分子学会年次大会. 2008年5月30日 (横浜) ; 3Pa039

赤谷俊宏, 岩見恵, 寺澤淳, 伊藤研策, 山中淳平, 澤田勉

薄膜型コロイド結晶形成過程における熟成効果

第57回高分子学会年次大会, 2008年5月30日(横浜) ; 3Pa063

吉澤幸樹, 恩田佐智子, 山中淳平, 米勢政勝

シリカコロイドの一方方向結晶成長

第54回高分子夏季大学, 2008年7月17日(鹿児島) ; 10

吉澤幸樹, 恩田佐智子, 山中淳平, 米勢政勝

シリカコロイドの一方方向結晶成長に伴う不純物粒子の排除

第61回コロイド及び界面化学討論会, 2008年9月9日(福岡) ;
3C07

山中淳平, 豊玉彰子, 米勢政勝, 内田文生

荷電コロイドの温度誘起結晶化

第61回コロイド及び界面化学討論会, 2008年9月9日(福岡) ; P008

豊玉彰子, 山中淳平, 篠原真里子, 米勢政勝, 澤田勉, 内田文生

一方方向加熱による荷電コロイド結晶の作成とその固定化

第61回コロイド及び界面化学討論会, 2008年9月9日(福岡) ; P009

恩田佐智子, 山中淳平, 米勢政勝, 澤田勉, 大木芳正

シリカコロイドの一方方向結晶成長における周期パターンの形成

第61回コロイド及び界面化学討論会, 2008年9月9日(福岡) ; P010

篠原真里子, 豊玉彰子, 山中淳平, 米勢政勝

帯域融解法によるシリカコロイド結晶のアニーリング

第61回コロイド及び界面化学討論会, 2008年9月9日(福岡) ; P012

伊藤研策, 赤谷俊宏, 谷口綾佳, 当田由美子, 山中淳平, 澤田勉

薄膜型コロイド結晶の沈降熟成過程における構造変化

第61回コロイド及び界面化学討論会, 2008年9月9日(福岡) ; P015

藤岡正剛, 山中淳平, 米勢政勝

荷電シリカコロイドの一方方向結晶成長過程における粒子濃度の過渡的な不均一性の形

成

第 61 回コロイド及び界面化学討論会, 2008 年 9 月 9 日 (福岡) ; P016

山中淳平 [招待講演]

荷電コロイド系の結晶成長”

日本結晶成長学会 第 33 回結晶成長討論会, 2008 年 9 月 12 日 (仙台)

山中淳平 [依頼講演]

荷電コロイドの結晶化

日本物理学会 2008 年秋季年会シンポジウム「ソフト・コンデンスド・マターの結晶成長」

2008 年 9 月 21 日 (岩手).

Junpei Yamanaka and Akiko Toyotama

Unidirectional Crystallization of Charged Colloids.

Japan-Netherlands Symposium on Crystal Growth

20th October 2008 (Sapporo, Japan)

山中淳平 [依頼講演]

大型・高品質コロイド結晶を用いたチューナブル光学材料

名古屋工業大学-名古屋市立大学合同テクノフェア 2008

2008 年 11 月 5 日 (名古屋).

【生命分子構造学分野】

(原報)

Yukiko Kamiya, Daiki Kamiya, Kazuo Yamamoto, Beat Nyfeler, Hans-Peter Hauri, and Koichi Kato

Molecular basis of sugar recognition by the human L-type lectins ERGIC-53, VIPL and VIP36
J. Biol. Chem. **283**, 1857-1861 (2008)

Hirokazu Yagi, Masashi Nakagawa, Noriko Takahashi, Sachiko Kondo, Mamoru Matsubara, and Koichi Kato

Neural complex-specific expression of xylosyl *N*-glycan in *Ciona intestinalis*
Glycobiology **18**, 145-151 (2008)

Beat Nyfeler, Yukiko Kamiya, Françoise Boehlen, Kazuo Yamamoto, Koichi Kato, Philippe de Moerloose, Hans -Peter Hauri, and Marguerite Neerman-Arbez

Deletion of 3 residues from the C-terminus of MCFD2 affects binding to ERGIC-53 and causes combined factor V and factor VIII deficiency
Blood **111**, 1299-1301 (2008)

Eiji Kurimoto, Yohei Nishi, Yoshiki Yamaguchi, Tamotsu Zako, Ryo Iizuka, Naoki Ide, Masafumi Yohda, and Koichi Kato 【バックカバーイラストレーション】

Dynamics of group II chaperonin and prefoldin probed by ¹³C NMR spectroscopy
Proteins: Struct. Funct. Bioinfo. **70**, 1257-1263 (2008)

Naomi Iwanami, Hitoo Iwase, Noriko Takahashi, Koichi Kato, Akihiko Itoh, Toru Takatani, Shinchi Makita, Yutaka Kobayashi, Makito Okamoto, Shinya Nakamura, Yoshiyuki Hiki, and Masahiro Ishii

Similarities between *N*-glycan glycoform of tonsillar IgA1 and that of aberrant IgA1 abundant in IgA nephropathy patient serum

J. Nephrol. **21**, 118-126 (2008)

Hideki Yashiroda, Tsunehiro Mizushima, Kenta Okamoto, Tomie Kameyama, Hidemi Hayashi, Toshihiko Kishimoto, Shin-Ichiro Niwa, Masanori Kasahara, Eiji Kurimoto, Eri Sakata, Kenji Takagi, Atuo Suzuki, Yuko Hirano, Shigeo Murata, Koichi Kato, Takashi Yamane, and Keiji Tanaka 【カバーイラストレーション】

Crystal structure of a chaperone complex that contributes to the assembly of yeast 20S proteasomes

Nature Struct. Mol. Biol. **15**, 228-236 (2008)

Hirokazu Yagi, Naoko Yasukawa, Shin-Yi Yu, Chao-Tan Guo, Noriko Takahashi, Tadanobu Takahashi, Wakoto Bukawa, Takashi Suzuki, Kay-Hooi Khoo, Yasuo Suzuki, and Koichi Kato

The expression of sialylated high-antennary *N*-glycans in edible bird's nest
Carbohydr. Res. **343**, 1373-1377 (2008)

Hirokazu Yagi, Kenzo Yamada, Erina Ohno, Maho Utsumi, Yoshiki Yamaguchi, Eiji Kurimoto, Noriko Takahashi, Shogo Oka, Toshisuke Kawasaki, and Koichi Kato
Development and application of high performance liquid chromatography map of glucuronyl N-glycans

Open Glycoscience **1**, 8-18 (2008)

Shin Miyakawa, Yusuke Nomura, Taiichi Sakamoto, Yoshiki Yamaguchi, Koichi Kato, Satoko Yamazaki, and Yoshikazu Nakamura
Structural and molecular basis for hyperspecificity of RNA aptamer to human immunoglobulin G

RNA **14**, 1154-1163 (2008)

Yuko Hirano, Takeumi Kaneko, Kenta Okamoto, Minghui Bai, Hideki Yashiroda, Kaori Furuyama, Koichi Kato, Keiji Tanaka, and Shigeo Murata
Dissecting β -ring assembly pathway of the mammalian 20S proteasome

EMBO J. **27(16)**, 2204-2213 (2008)

Mitsuhiko Takeda, Nozomi Sugimori, Takuya Torizawa, Tsutomu Terauchi, Akira M.Ono, Hirokazu Yagi, Yoshiki Yamaguchi, Koichi Kato, Teppei Ikeya, Jun Goo Jee, Peter Güntert, David J.Aceti, John L.Markley and Masatsune Kainosho
Structure of the putative 32 kDa myrosinase-binding protein from *Arabidopsis* (At3g16450.1) determined by SAIL-NMR

FEBS J. **275**, 5873-5884 (2008)

Erin M.Quan, Yukiko Kamiya, Daiki Kamiya, Vladimir Denic, Jimena Weibezahn, Koichi Kato, and Jonathan S.Weissman
Defining the glycan destruction signal for endoplasmic reticulum-associated degradation

Mol. Cell **32**, 870-877 (2008)

(総説・著書・総合論文など)

坂田絵理, 加藤晃一
Nedd8化修飾によるCullin型E3の活性化機構

実験医学, **26**, 207-213 (2008)

Koichi Kato, Hiroaki Sasakawa, Yukiko Kamiya, Maho Utsumi, Michiko Nakano, NorikoTakahashi, and Yoshiki Yamaguchi 【招待総説】

920 MHz ultra-high field NMR approaches to structural glycobiology
Biochim. BiophysActa. –General Subjects **1780**, 619-625 (2008)

栗本英治, 雨宮瑛子, 加藤晃一
味覚修飾タンパク質クルクリンの構造生物学

Foods & Food Ingredients J. Jpn., **213**, 645-652 (2008)

Noriko Takahashi, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato

Release of *N*-glycans by enzymatic methods

Experimental Glycoscience: Glycochemistry (N.Taniguchi, A.Suzuki, Y.Ito, and H.Narimatsu, T.Kawasaki, and S.Hase *ed.*), Springer (The Netherlands), pp.7-11 (2008)

Koichi Kato and Yoshiki Yamaguchi

Structural analyses of glycoconjugates by NMR

Experimental Glycoscience: Glycochemistry (N.Taniguchi, A.Suzuki, Y.Ito, and H.Narimatsu, T.Kawasaki, and S.Hase *ed.*), Springer (The Netherlands), pp.45-50 (2008)

Yoshiki Yamaguchi and Koichi Kato

Analyses of sugar-protein interactions by NMR

Experimental Glycoscience: Glycochemistry (N.Taniguchi, A.Suzuki, Y.Ito, and H.Narimatsu, T.Kawasaki, and S.Hase *ed.*), Springer (The Netherlands), pp.121-123 (2008)

Koichi Kato and Noriko Takahashi

GALAXY database and pyridylaminated oligosaccharide library

Experimental Glycoscience: Glycobiology (N.Taniguchi, A.Suzuki, Y.Ito, and H.Narimatsu, T.Kawasaki, and S.Hase *ed.*), Springer (The Netherlands), pp.413-416 (2008)

加藤晃一

構造糖鎖生物学と糖鎖創薬：オーバービュー

蛋白質 核酸 酵素, **53**, 1661 (2008)

神谷由紀子, 加藤晃一

細胞内レクチンによる糖蛋白質の輸送と品質管理の構造基盤

蛋白質 核酸 酵素, **53**, 1662-1669(2008)

栗本英治, 岡本健太, 鈴木淳巨, 日影達夫, 山根 隆, 加藤晃一

20S プロテアソームサブユニットの集合課程に関わる分子シャペロン PAC3 の X 線結晶構造解析

名古屋大学 X 線回折研究のあゆみ, **29**, 3-6(2008)

八代田秀樹, 水島恒裕

出芽酵母 20S プロテアソーム形成に関わるシャペロン複合体 Dmp1/Dmp2 の立体構造解析

細胞工学, **27**, 474-475 (2008)

(学会発表)

加藤晃一【依頼講演】

構造グライコミクス解析手法の開発と糖鎖ウイルス学への応用

糖鎖 CREST 全体会議. 2008 年 1 月 21 日(千里).

矢部宇一郎

糖鎖構造解析技術を応用した創薬への展開

糖鎖産業技術フォーラム (GLIT) 設立&第1回糖鎖産業技術フォーラム.
2008年1月23日(茨城).

Maho Utsumi, Yoshiki Yamaguchi, Hiroaki Sasakawa, Naoki Yamamoto, Katsuhiko Yanagisawa, and Koichi Kato

920 MHz Ultra-high Field NMR Analyses of Amyloid β -peptide in Association with GM1 Micelles

The Winter School of Sokendai/Asia CORE Program. 2008年1月24日(岡崎); P56.

山口芳樹【依頼講演】

糖タンパク質糖鎖の立体構造解析の現状と今後の課題

理研シンポジウム 第11回「生体分子の化学」. 2008年1月25日(和光).

加藤晃一【招待講演】

NMRで解る糖鎖のはたらき

文部科学省 特定領域研究 糖鎖によるタンパク質と分子複合体の機能調節

Functional Glycomics 研究成果公開発表シンポジウム

第3の生命鎖: 糖鎖の謎が今、解る. 2008年1月26日(東京).

神谷由紀子

糖タンパク質の品質管理を司る細胞内レクチンの分子認識機構の解析

平成19年度 特定領域研究「タンパク質分解」班会議.

2008年2月20日(鳥羽); P-13.

内海真穂, 山口芳樹, 笹川拓明, 山本直樹, 柳澤勝彦, 加藤晃一

アミロイド β ペプチドの重合初期過程のNMR構造解析

平成19年度 特定領域研究「タンパク質分解」班会議.

2008年2月20日(鳥羽); P-14.

佐伯 泰, 東江昭夫, 清水公德, 坂田絵理, 田中啓二

Purification and characterization of the 26S proteasome of thermotolerant fungus *Aspergillus fumigatus*

平成19年度 特定領域研究「タンパク質分解」班会議.

2008年2月21日(鳥羽); P-54.

栗本英治

ユビキチンリガーゼによる分子認識機構のNMR解析

平成19年度 特定領域研究「タンパク質分解」班会議.

2008年2月21日(鳥羽); 口頭20.

Koichi Kato【招待講演】

Structure-based biomolecular engineering targeting 'sweets'

Pan-Pacific International Partnership Conference on Pharmaceutical and Life Science (The 4th US-Japan Joint Conference).

2008年2月22日(名古屋).

Hirokazu Yagi, Noriko Takahashi, and Koichi Kato

Application of the multi-dimensional HPLC mapping method for *N*-glycosylation profiling of cells, tissues and organs

Pan-Pacific International Partnership Conference on Pharmaceutical and Life Science (The 4th US-Japan Joint Conference).
2008年2月22日(名古屋);P31.

高橋禮子【記念講演】

私の辿った糖鎖構造 30年の道

高橋禮子先生を囲む会. 2008年2月22日(名古屋).

矢木宏和【招待講演】

高橋先生からご教示いただいた糖鎖構造解析

高橋禮子先生を囲む会. 2008年2月22日(名古屋).

Koichi Kato【招待講演】

Structural basis for biomolecular engineering that targets 'sweets'

JSPS Asian CORE Program: CAU-IMS Joint Seminar. 2008年2月22日(Seoul).

加藤晃一【招待講演】

タンパク質の細胞内品質管理の構造的基盤

岡崎統合バイオサイエンスセンター第6回シンポジウム. 2008年3月6日(岡崎).

加藤晃一【依頼講演】

構造生物学を基盤とした生命分子工学

名古屋工業大学・名古屋市立大学第4回連携セミナー「薬学への招待：創薬生命科学最前線」.

2008年3月7日(名古屋).

山口芳樹, 笹川拓明, 中野路子, 杉原隆広, 加藤晃一【依頼講演】

920MHz 超高磁場 NMR 装置を利用した生体高分子・超分子の構造解析

中部地区ナノテクノロジー・ネットワーク総合支援成果報告会.
2008年3月18日(岡崎).

加藤晃一, 山口芳樹, 神谷由紀子, 矢木宏和, 内海真穂, 笹川拓明, 高橋禮子【シンポジウム】

構造グライコムクスによる創薬支援の可能性

第128回日本薬学会. 2008年3月26日(横浜);
S11-9.

加藤晃一【招待講演】

抗体医薬の開発に向けた多次元 HPLC 法および NMR 法による糖鎖解析技術

抗体医薬品を始めとしたバイオ医薬品の開発に向けた抗体分析法・バリデーション.
2008年3月26日(東京).

藤田大士, 鈴木康介, 佐藤宗太, 山口芳樹, 栗本英治, 加藤晃一, 藤田 誠

自己集合性錯体内部への同位体標識化ユビキチンの内包

日本化学会第 88 春季年会. 2008 年 3 月 27 日(池袋); 2PB-143.

神谷由紀子, 神谷大貴, 山本一夫, Beat Nyfeler, Hans-Peter Hauri, 加藤晃一
糖タンパク質の選別・輸送を司る L 型レクチンによる糖鎖認識の分子基盤
第 128 回日本薬学会. 2008 年 3 月 28 日(横浜); 28LA-am06.

矢木宏和, 中川将司, 近藤幸子, 高橋禮子, 松原 守, 加藤晃一
カタユウレイボヤの神経複合体におけるキシロース含有 N 型糖鎖の特異的発現
第 128 回日本薬学会. 2008 年 3 月 28 日(横浜); 28LA-am06.

神谷大貴, 神谷由紀子, 山口芳樹, 鈴木 匡, 永田和宏, 細川暢子, 加藤晃一
糖タンパク質の品質管理を司る細胞内レクチンの糖鎖認識
第 128 回日本薬学会. 2008 年 3 月 28 日(横浜); 28LA-am06.

大野恵理菜, 矢木宏和, 山口芳樹, 高橋禮子, 加藤晃一
O 型糖鎖の構造解析のための HPLC マップ法の開発
第 128 回日本薬学会. 2008 年 3 月 28 日(横浜); 28LA-am06.

山口芳樹【依頼講演】
NMR による糖タンパク質の構造解析
第 26 回糖鎖工学研究施設講演会. 2008 年 4 月 8 日(湘南).

Koichi Kato【招待講演】
Ultra-high field NMR and sugar library approaches for structural glycomics
BIT Life Sciences 1st Annual Protein and Peptide Conference. 2008 年 4 月 23 日(Shenzhen).

加藤晃一, 笹川拓明, 神谷由紀子, 中野路子, 杉原隆広, 内海真穂, 山口芳樹【招待講演】
超高磁場 NMR を利用したタンパク質・複合糖質の構造解析
高分子学会 08-1NMR 研究会. 2008 年 5 月 16 日(東京).

加藤晃一, 神谷由紀子, 神谷大貴, 西尾美穂【招待講演】
糖タンパク質の細胞内運命を司るレクチンの分子認識
平成 20 年度生理学研究所研究会「糖鎖機能研究会・・・分子レベルでの解明」.
2008 年 5 月 23 日(岡崎).

山口芳樹【招待講演】
糖タンパク質の立体構造からみる糖鎖の機能
平成 20 年度生理学研究所研究会「糖鎖機能研究会・・・分子レベルでの解明」.
2008 年 5 月 23 日(岡崎).

西尾美穂, 神谷由紀子, 塚越晴子, 山口芳樹, 笹川拓明, 伊藤幸成, 山本一夫, 加藤晃一
糖タンパク質の輸送に関わる L 型レクチン ERGIC-53 の分子認識解析
第 72 回日本生化学会中部支部例会. 2008 年 5 月 24 日(岐阜); P-47.

高木賢治, 水島恒裕, 八代田英樹, 岡本健太, 栗本英治, 山根 隆, 田中啓二, 加藤晃一

プロテアソームシャペロンX線結晶構造解析による 26S プロテアソーム α リング形成機構の解析

第 72 回日本生化学会中部支部例会. 2008 年 5 月 24 日(岐阜) ; P-49.

岡崎誠司, 鈴木淳巨, 水島恒裕, 米田英伸, 浅野泰久, 山根 隆

Arcromobacter obae 由来の α -アミノ- ϵ -カプロラクタムラセマーゼの構造学的研究

第 72 回日本生化学会中部支部例会. 2008 年 5 月 24 日(岐阜) ; P-2.

熊埜御堂太一, 一村義信, 曾 友深, 水島恒裕, 木南英紀, 田中啓二, 小松雅明, 山根隆

LC3 による p62/SQSTM1 の認識機構

第 72 回日本生化学会中部支部例会. 2008 年 5 月 24 日(岐阜) ; P-12.

加藤晃一【他大学講義】

溶液 NMR を用いた生体分子の構造解析

総合研究大学院大学 物理科学研究科 機能構造化学. 2008 年 6 月 3 日(岡崎) .

西尾和也, 河合健太郎, 金 相佑, 水島恒裕, 山根 隆, 濱崎 純, 村田茂穂, 田中啓二, 森本幸生

脱ユビキチン化酵素 UCH37N 末端ドメインの結晶学的研究

第 8 回日本蛋白質科学会年会. 2008 年 6 月 11 日(東京) ; 2P-009.

佐々木香織, 梶川瑞穂, 矢木宏和, 近藤幸子, 黒木喜美子, 本橋智子, 霧島 司, 朴龍洙, 加藤晃一, 前仲勝実

BmNPV バクミドシステムによるヒト免疫細胞表面レセプターの発現と糖鎖解析

第 8 回日本蛋白質科学会年会. 2008 年 6 月 11 日(東京) ; 2P-089.

加藤晃一, 神谷由紀子【シンポジウム】

糖タンパク質の細胞内運命決定の構造的基盤

第 8 回日本蛋白質科学会年会. 2008 年 6 月 12 日(東京) ; 3SA-1.

水島恒裕, 八代田英樹, 田中啓二【シンポジウム】

プロテアソームシャペロン Dmp1-Dmp2 複合体による 20S プロテアソーム分子集合機構

第 8 回日本蛋白質科学会年会. 2008 年 6 月 12 日(東京) ; 3SA-3.

栗本英治, 加藤晃一【ワークショップ】

活性部位の酸化還元に伴う PDI の構造変化と機能制御

第 8 回日本蛋白質科学会年会. 2008 年 6 月 12 日(東京) ; 3WD-1.

高木賢治, 水島恒裕, 八代田英樹, 山根 隆, 田中啓二, 加藤晃一

酵母 20S プロテアソームシャペロン Dmp1/2 複合体の結晶構造解析

特定領域研究「生体超分子の構造形成と機能制御の分子機構」第 4 回ワークショップ.

2008年6月16-17日(淡路); P-58.

金 相佑, 水島恒裕, 佐伯 泰, 田中啓二, 加藤晃一

プロテアソームシャペロン Rpn14 の結晶化と構造解析

特定領域研究「生体超分子の構造形成と機能制御の分子機構」第4回ワークショップ.

2008年6月16-17日(淡路); P-57.

Tsunehiro Mizushima, Yukiko Yoshida, Taichi Kumanomidou, Yuko Hasegawa, Atsuo Suzuki, Takashi Yamane, and Keiji Tanaka

X-ray Structure of the Skp1-Fbs1 glycoprotein complex

33rd FEBS Congress & 11th IUBMB Conference. 2008年6月30日(Athens, Greece); PP3B-9.

Koichi Kato 【招待講演】

Structural glycobiology by NMR and sugar library approaches

マックス・プランク生物物理研究所セミナー. 2008年6月30日(Göttingen).

Koichi Kato 【招待講演】

Structural views of glycoprotein-fate determination in cells: NMR and sugar library approaches

マックス・プランク生化学研究所セミナー. 2008年7月2日(Münich).

Koichi Kato 【招待講演】

NMR and sugar library approaches for structural glycomics

フランクフルト大学セミナー. 2008年7月3日(Frankfurt).

山口芳樹 【招待講演】

糖鎖構造生物学とバイオインフォマティクス

日本薬学会東海支部特別講演会. 2008年7月3日(名古屋).

加藤晃一, 神谷由紀子 【依頼講演】

糖タンパク質の細胞内運命決定の構造基盤

第2回 山手イブニングセミナー. 2008年7月9日(岡崎).

加藤晃一, 矢木宏和, 内海真穂, 高橋禮子, 山口芳樹 【招待講演】

A structural biology approach to sugar recognition at the neural cell surface

第31回日本神経科学学会大会. 2008年7月10日(東京); SY2A-H3.

Yukiko Kamiya, Daiki Kamiya, Miho Nishio, Koichi Kato

Molecular and structural basis of the mechanisms underlying the glycoprotein-fate determination by the intracellular lectins

INTERLEC 23. 2008年7月12日(Scotland); Session2.

Miho Nishio, Yukiko Kamiya, Haruko Tsukakoshi, Yoshiki Yamaguchi, Yukishige Ito, Kazuo Yamamoto, and Koichi Kato

Structural basis of intracellular traffic of glycoproteins mediated by ergic-53, a lectin-type cargo receptor

INTERLEC 23. 2008 年 7 月 14 日 (Scotland) ; P-15.

Yoshiki Yamaguchi

Development of Stable-isotope-labeling Methods Oriented to Structural Glycobiology Frontiers in Chemical Biology - A Joint Symposium of RIKEN and Academia Sinica

Frontiers in Chemical Biology - A Joint Symposium of RIKEN and Academia Sinica .
2008 年 7 月 21 日 (台北) .

内海真穂, 山口芳樹, 笹川拓明, 山本直樹, 柳澤勝彦, 加藤晃一

ガングリオシドクラスターの親水性/疎水性境界面におけるアミロイド β の高次構造の NMR 解析

Topological mode of amyloid β -peptide lying on hydrophilic/hydrophobic interface of ganglioside clusters as revealed by NMR spectroscopy

第 30 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム. 2008 年 8 月 7 日(札幌) : MD-7-07.

矢木宏和, 近藤幸子, 高橋禮子, 加藤晃一

多次元 HPLC マップ法の組織特異的糖鎖プロファイリングへの応用

Applications of multi-dimensional HPLC mapping method toward tissue-specific glycosylation profiling

第 21 回バイオメディカル分析科学シンポジウム. 2008 年 8 月 8 日(札幌) ; BP-3.

山口芳樹

NMR 構造生物学に基づいた薬物相互作用の解析と神経変性疾患への治療応用

平成 20 年度特定領域研究「統合脳」夏のワークショップ. 2008 年 8 月 9 日(札幌) ; 5-17.

山口芳樹, 花島慎弥, 末武徹也, 加藤雅樹, 加藤晃一

糖鎖ヒドロキシルプロトンの交換速度を算出するための NMR 法の開発

第 28 回日本糖質学会年会. 2008 年 8 月 19 日(つくば) ; 2A-12, P-169.

加藤雅樹, 山口芳樹

糖鎖コンホメーションデータベースの構築と解析

第 28 回日本糖質学会年会. 2008 年 8 月 19-20 日(つくば) ; 2A-13, P-178.

胡 丹, 戸谷希一郎, 神谷大貴, 河崎徳人, 山口大介, 神谷由紀子, 伊藤幸成, 加藤晃一, 鈴木詔子, 松本直樹, 山本一夫

α グルコシダーゼ II β サブユニットの MRH ドメインが酵素活性に重要である

第 28 回日本糖質学会年会. 2008 年 8 月 19 日(つくば) ; P-053.

矢木宏和, 金子琢磨, 高橋禮子, 加藤晃一

ラットの脳におけるアジアロ酢酸 N 型糖鎖のプロファイリング

第 28 回日本糖質学会年会. 2008 年 8 月 19 日(つくば) ; P-131.

神谷由紀子, 神谷大貴, 西尾美穂, 加藤晃一

糖タンパク質の品質管理を司る細胞内レクチンの分子認識

第 28 回日本糖質学会年会. 2008 年 8 月 20 日(つくば) ; 3A-10.

花島慎弥, 山口芳樹, 伊藤幸成, 谷口直之, 佐藤憲一

シアル酸を糖鎖中央部にもつガングリオシド AG-2 五糖の合成研究
第 28 回日本糖質学会年会. 2008 年 8 月 20 日(つくば) ; P-144.

加藤晃一【依頼講演】

超高磁場NMRを利用した複合糖質の構造解析
岐阜大学・大学院連合農学研究科見学会. 2008 年 8 月 22 日(岐阜).

Sangwoo Kim, Tsunehiro Mizushima, Yasushi Saeki, Takashi Yamane, Keiji Tanaka,
and Koichi Kato

The structural analysis of Rpn14 as the molecular-chaperone for eukaryotic 26S proteasome assembly

XXI Congress and General Assembly of the International Union of Crystallography .
2008 年 8 月 24 - 25 日(大阪) ; P04.14.335.

Kenji Takagi, Tsunehiro Mizushima, Hideki Yashiroda, Koichi Kato, Takashi Yamane,
and Keiji Tanaka

Crystal structure of a chaperone complex that contributes to the assembly of yeast 20S proteasomes

XXI Congress and General Assembly of the International Union of Crystallography .
2008 年 8 月 24 - 25 日(大阪) ; P04.14.339.

Kyoko Shinzawa-Itoh, Hiroshi Aoyama, Kazumasa Muramoto, Hirohito Terada,
Tsuyosyhi Kurauchi, Yoshiki Tadehara, Akiko Yamasaki, Takashi Sugimura, Sadamu
Kurono, Kazuo Tsujimoto, Tsunehiro Mizushima, Eiki Yamashita, Tomitake Tsukihara,
and Shinya Yoshikawa

Structural analysis for lipid/protein interactions in bovine heart cytochrome c oxidase

XXI Congress and General Assembly of the International Union of Crystallography .
2008 年 8 月 26 - 27 日(大阪) ; P04.03.186.

Atsuo Suzuki, Taihei Kato, Tsunehiro Mizushima, and Takashi Yamane

A new type of precipitant, metal cyanide complex

XXI Congress and General Assembly of the International Union of Crystallography .
2008 年 8 月 28 - 29 日(大阪) ; P04.01.32.

Seiji Okazaki, Atsuo Suzuki, Tsunehiro Mizushima, Hidenobu Komeda, Yasuhisa Asano,
and Takashi Yamane

Crystal structures of α -amino- ϵ -caprolactam racemase from *Achromobacter obae*

XXI Congress and General Assembly of the International Union of Crystallography .
2008 年 8 月 28 - 29 日(大阪) ; P04.02.92.

Kazuya Nishio, Kentaro Kawai, Sang-Woo Kim, Tsunehiro Mizushima, Takashi Yamane,
Jun Hamazaki, Shigeo Murata, Keiji Tanaka, and Yukio Morimoto

The crystallographic study of the deubiquitinating enzyme UCH37 N-terminal domain

XXI Congress and General Assembly of the International Union of Crystallography .
2008 年 8 月 28 - 29 日(大阪) ; P04.02.152.

Maho Utsumi, Yoshiki Yamaguchi, Hiroaki Sasakawa, Naoki Yamamoto, Katsuhiko

Yanagisawa, Koichi Kato

Up-and-down topological mode of amyloid β -peptide lying on hydrophilic/hydrophobic interface of ganglioside clusters

The XXIIIrd ICMRBS. 2008 年 8 月 26 日(San Diego) ; 082.

Koichi Kato, Yukiko Kamiya, Hirokazu Yagi, Maho Utsumi, Noriko Takahashi, Hiroaki Sasakawa, Yoshiki Yamaguchi 【招待講演】

Structural views of glycoprotein-fate determination in cells

The XXIIIrd ICMRBS. 2008 年 8 月 28 日(San Diego) ; ThOD.

栗本英治

味覚修飾タンパク質クルクリンと味覚受容体との相互作用解析およびその応用

平成 19 年度名古屋市立大学特別研究奨励費研究成果発表会. 2008 年 8 月 28 日(名古屋).

大野恵里菜, 矢木宏和, 高橋禮子, 加藤晃一

HPLC マップ法による O 結合型糖鎖の構造解析法の開発

糖鎖科学名古屋拠点 第 6 回若手のカフォーラム. 2008 年 9 月 10 日(名古屋) ; 0-3(B).

矢木宏和, 金子琢磨, 中川将司, 近藤幸子, 高橋禮子, 松原 守, 加藤晃一

脊索動物の神経系におけるキシロース含有 N 型糖鎖の発現

糖鎖科学名古屋拠点 第 6 回若手のカフォーラム. 2008 年 9 月 10 日(名古屋) ; P-1.

加藤晃一【招待講演】

NMR と糖鎖ライブラリーを利用した構造グライコムクス

日本化学会第 2 回関東支部大会. 2008 年 9 月 18 日(群馬).

矢木宏和, 加藤晃一【招待講演】

O 結合型糖鎖の分析法の開発と応用

第 2 回 GFRG 研究会シンポジウム. 2008 年 9 月 18 日(東京).

藤田大士, 鈴木康介, 佐藤宗太, 山口芳樹, 栗本英治, 加藤晃一, 藤田 誠

自己集合性錯体へのユビキチンの内包

第 3 回バイオ関連化学合同シンポジウム. 2008 年 9 月 18-20 日(横浜).

佐藤宗太, 鈴木康介, 藤田大士, 山口芳樹, 栗本英治, 加藤晃一, 藤田 誠

タンパク質を丸ごと包接した自己集合性錯体の合成

第 58 回錯体化学討論会. 2008 年 9 月 20 日(金沢) ; 1Aa-03.

神谷由紀子

糖タンパク質の細胞内運命を司るレクチンによる糖鎖認識

「タンパク質の社会」若手ワークショップ. 2008 年 9 月 25 日(千葉) ; セッション 1

17:10.

内海真穂

ガングリオシドクラスターに結合したアミロイド β ペプチドのトポロジー

「タンパク質の社会」若手ワークショップ. 2008 年 9 月 25 日(千葉) ; セッション 1 17:12.

Yoshiki Yamaguchi

Structural Glycobiology for understanding of glycan functions

The 1st RIKEN Chemical Biology Department International Symposium .2008年9月25日(熱海).

Mayumi Kanagawa, Kana Matsumoto, Yoshikazu Tahara, Yutaro Hayashi, and Yoshiki Yamaguchi

Development of crystallization methods for X-ray analysis of glycoproteins

The 1st RIKEN Chemical Biology Department International Symposium .
2008年9月25日(熱海) ; SG-P8.

Shinya Hanashima, Ken-ichi Sato, Yukishige Ito, and Yoshiki Yamaguchi

Synthetic Approaches Toward Structural Glycobiology

The 1st RIKEN Chemical Biology Department International Symposium .
2008年9月25日(熱海) ; SG-P9.

Tadashi Satoh, Soichi Wakatsuki, and Yoshiki Yamaguchi

Structural Study of Transport Lectin, Glycosyltransferase and Glycomembrane Protein

The 1st RIKEN Chemical Biology Department International Symposium .
2008年9月25日(熱海) ; SG-P10.

Masaki Kato and Yoshiki Yamaguchi

Analysis of glycan modification and control mechanisms of glycan structures using bioinformatics

The 1st RIKEN Chemical Biology Department International Symposium .
2008年9月25日(熱海) ; SG-P11.

Akemi Ikeda, Masaki Kato, Yuki Negishi, Massimiliano Della Mea, Donatela Serafini-Fracassini, Tadashi Suzuki, Takashi Saito, Eiji Miyoshi, Naoyuki Taniguchi, and Yoshiki Yamaguchi

Construction of large-scale expression system of glycan-related proteins for structural study

The 1st RIKEN Chemical Biology Department International Symposium .
2008年9月25日(熱海) ; SG-P12.

栗本英治, 雨宮瑛子, 加藤晃一【招待講演】

味覚修飾タンパク質の構造と機能

バイオ分子センサー連携研究プロジェクト レクチャーコース
『センサーの不思議：分子から個体まで』 .2008年10月7日(岡崎).

加藤晃一【招待講演】

糖タンパク質の細胞内運命を決定する機構の構造的基盤

サントリー生物有機科学研究所セミナー .2008年10月9日(大阪).

Koichi Kato【招待講演】

Medical applications of structural glycobiology : From glycosylation profiling to biomolecular engineering

糖鎖構造解析の医療応用：糖鎖プロファイリングから分子工学まで
BioJapan 2008 ~World Business Forum~, 2008年10月17日(横浜).

加藤晃一【依頼講演】

NMR (Chemistry/Biochemistry)
日仏先端科学(JFFoS)シンポジウム日本側事前検討会, 2008年10月21日(東京).

加藤晃一【招待講演】

構造グライコミクスの体系的アプローチ —糖鎖プロファイリングから抗体医薬の立体構造解析まで—

第67回日本癌学会学術総会, 2008年10月29日(名古屋); ML9.

加藤晃一【他大学講義】

構造生物学における核磁気共鳴法：NMRの基礎と応用
平成20年度名古屋工業大学 大学院共通科目 薬科学特論, 2008年10月31日(名古屋).

加藤晃一

甘いタンパク質の話
分子研火曜会, 2008年11月4日(岡崎).

Yoshiki Yamaguchi

Structural glycobiology approach for understanding structure-function relationships of glycoproteins
2008 SJTU-RIKEN Workshop, 2008年11月7日(上海).

Yukiko Kamiya, Miho Nishio, Daiki Kamiya, and Koichi Kato

Structural basis of fate-determination of glycoproteins in cells
第7回統合バイオシンポジウム 2008年11月12日(岡崎); 21.

内海真穂, 山口芳樹, 笹川拓明, 山本直樹, 柳澤勝彦, 加藤晃一

GM1 ミセルの親水性/疎水性境界面におけるアミロイドβペプチドのトポロジーのNMR解析
第47回NMR討論会, 2008年11月12日(つくば); P033.

Tsunehiro Mizushima, Yukiko Yoshida, Taichi Kumanomidou, Yoshiki Yamaguchi, Takashi Yamane, Keiji Tanaka, Koichi Kato【招待講演】

Structure basis for recognition of glycosylated substrates by SCF^{Fbs1} ubiquitin ligase
ZOMES V, 2008年11月11-14日(横浜).

Hideki Yashiroda, Tsunehiro Mizushima, Koichi Kato, Keiji Tanaka, Shigeo Murata

The DMP1-DMP2 complex helps to assemble yeast 20S proteasomes
ZOMES V, 2008年11月11-14日(横浜).

Yoshiki Yamaguchi, Shinya Hanashima, Masaki Kato, and Koichi Kato

Development of an NMR method for structural analysis of oligosaccharides
2008 Annual Meeting of the Society for Glycobiology, 2008年11月13日(Texas);

Mayumi Kanagawa, Kana Matsumoto, Yoshikazu Tahara, Yutaro Hayashi, and Yoshiki Yamaguchi

Structural analysis of oligosaccharides attached to β -subunit of Na^+/K^+ -ATPase
2008 Annual Meeting of the Society for Glycobiology. 2008年11月14日(Texas);

7.

加藤晃一【招待講演】

多次元 HPLC 法および NMR 法による糖鎖解析技術

抗体/バイオ医薬品開発に向けた分析手法・バリデーション. 2008年11月20日(東京).

加藤晃一, 神谷由紀子

レクチンによる糖鎖認識を介した糖タンパク質の細胞内運命の決定

平成20年度 特定領域研究「タンパク質社会」全体班会議.

2008年11月24日(沖縄).

神谷由紀子, 神谷大貴, 西尾美穂, Hans-Peter Hauri, 細川暢子, 永田和宏, 加藤晃一【ポスター賞】

糖タンパク質の細胞内運命の決定を担うレクチンによる糖鎖認識

平成20年度 特定領域研究「タンパク質社会」全体班会議.

2008年11月24日(沖縄); ポスター30.

良川須美, 内海真穂, 山口芳樹, 栗本英治, 石田義人, 本間貴之, 寶関 淳, 西川良美, 小出隆規, 永田和宏, 加藤晃一

分子シャペロン Hsp47 上におけるコラーゲン結合部位の同定

平成20年度 特定領域研究「タンパク質社会」全体班会議.

2008年11月24日(沖縄); ポスター31.

水島恒裕

プロテアソームの分子集合における Dmp1/2 シャペロンの役割

平成20年度 特定領域研究「タンパク質分解」班会議. 2008年11月26日(つくば); 口

頭9.

高木賢治, 水島恒裕, 八代田英樹, 岡本健太, 栗本英治, 山根 隆, 田中啓二, 加藤晃一

20S プロテアソーム α リング構築に関わるシャペロン分子 Dmp1/2 の構造昨日解析

平成20年度 特定領域研究「タンパク質分解」班会議.

2008年11月26日(つくば); ポスター9.

栗本英治

NMR と中性子小角散乱を用いたプロテアソーム結合タンパク質の動的な高次構造解析

平成20年度 特定領域研究「タンパク質分解」班会議. 2008年11月27日(つくば); 口

頭43.

内海真穂

ガングリオシドクラスターに横たわるアミロイドβペプチドの“浮き沈みトポロジー”
平成 20 年度 特定領域研究「タンパク質分解」班会議.
2008 年 11 月 27 日(つくば) ; ポスター57.

加藤晃一【招待講演】

翻訳後に多様化するタンパク質への NMR アプローチ
NMR approaches to post-translationally diversified proteins
タンパク質 NMR の最前線 立命館大学理工学研究所シンポジウム.
2008 年 11 月 29 日(草津).

花島慎弥, 山口芳樹, 伊藤幸成, 佐藤憲一

新規シアル酸供与体を用いたガングリオシド AG-2 糖鎖の合成
第 56 回有機合成化学協会関東支部会シンポジウム.2008 年 11 月 30 日(新潟) ; 2A04.

Nobuko Hosokawa, Ikuo Wada , Yukiko Kamiya , Koichi Kato, Kazuhiro Nagata

Quality Control of Proteins in the Endoplasmic Reticulum
京都大学再生医科学研究所設立 10 周年記念国際シンポジウム. 2008 年 11 月 30 日(京都)

山口芳樹

糖鎖の機能解明を目指した糖鎖構造生物学【招待講演】
第 6 回糖鎖科学コンソーシアムシンポジウム -糖鎖研究と他領域との統合-
2008 年 12 月 4 日(品川).

栗本英治, 山口芳樹, 黒木喜美子, 前仲勝実, 神田大輔, 加藤晃一

Structural analyses of $\beta 2$ microglobulin in MHC complex by NMR spectroscopy
MHC 分子を構成する $\beta 2$ ミクログロブリンの NMR 構造解析
日本生物物理学会第 46 回日本生物物理学会年会. 2008 年 12 月 5 日(福岡) ; 3P-015.

Yoshiki Yamaguchi

Structural glycobiology for elucidating the function of glycoproteins:a multifaceted approach
International Symposium on Systems Glycobiology -A Bridge between Functional
Glycomics and Chemical Biology-.2008 年 12 月 5 日(品川).

Mayumi Kanagawa, Kana Matsumoto, Yoshikazu Tahara, Yutaro Hayashi, and Yoshiki Yamaguchi

Structural analysis of N-glycans attached to pig kidney Na^+/K^+ -ATPase
International Symposium on Systems Glycobiology -A Bridge between Functional
Glycomics and Chemical Biology-.2008 年 12 月 5 日(品川) ; P-23.

Shinya Hanashima, Ken-ichi Sato, Yukishige Ito, and Yoshiki Yamaguchi

Synthesis of unique gangliosides AG2 having inner sialic acid
International Symposium on Systems Glycobiology -A Bridge between Functional
Glycomics and Chemical Biology-.2008 年 12 月 5 日(品川) ; P-12.

Tadashi Satoh, Soichi Wakatsuki, and Yoshiki Yamaguchi

Structural analysis of transport lectins Emp46/47p and VIP36
International Symposium on Systems Glycobiology -A Bridge between Functional
Glycomics and Chemical Biology-.2008年12月5日(品川) ; P-24.

Masaki Kato and Yoshiki Yamaguchi
Construction and analysis of glycan conformation database
International Symposium on Systems Glycobiology -A Bridge between Functional
Glycomics and Chemical Biology-.2008年12月5日(品川) ; P-13.

近藤幸子
遺伝子・タンパク質に次ぐ第3の生命鎖「糖鎖」の構造解析
2008年名工大・名市大合同テクノフェア. 2008年12月5日(名古屋).

富田礼子, 内海真穂, 加藤晃一
NMR 解析のための家族性変異型アミロイドβの発現系構築
平成20年度 日本薬学会東海支部例会. 2008年12月6日(静岡) ; C-1.

平野貴志, 武本映美, 内海真穂, 加藤晃一
野生型ダイユビキチンの酵素的調製と NMR 解析への応用
平成20年度 日本薬学会東海支部例会. 2008年12月6日(静岡) ; C-2.

金川真由美, 松本加奈, 田原義和, 林雄太郎, 山口芳樹
Na⁺/K⁺-ATPase のβサブユニットに存在する糖鎖の構造解析
BMB2008. 2008年12月9日(神戸) ; 1P-0040.

加藤雅樹, 山口芳樹
タンパク質の糖鎖修飾および糖鎖立体構造についてのデータベース解析
BMB2008. 2008年12月9日(神戸) ; 1P-0044.

矢木宏和, 中川将司, 高橋禮子, 金子琢磨, 近藤幸子, 松原 守, 加藤晃一
カタユウレイボヤにおける神経複合体特異的なキシロース含有 N 型糖鎖の発現
BMB2008. 2008年12月9日(神戸) ; 1P-0095.

Yukiko Kamiya, Daiki Kamiya, Miho Nishio, and Koichi Kato
Molecular basis of fate-determination of glycoproteins by the sugar-recognizing proteins in cells
総研大アジア冬の学校. 2008年12月10日(岡崎) ; P-14.

Shizuka Ito, Nobuhito Ito, Akiko Tsuchida, Noriyo Tokuda, Hirokazu Yagi, Koichi Kato,
Motoyuki Mitsuki, Toshiyuki Yamaji, Yasuhiro Hashimoto, Paul R. Crocker, and Koichi
Furukawa
Binding specificity of siglec-7-Fc prepared from various animal cell lines
BMB2008. 2008年12月10日(神戸) ; 2P-0012.

八代田英樹, 水島恒裕, 加藤晃一, 田中啓二, 村田茂穂【シンポジウム】
アミノ酸アナログによるストレス応答に必要なプロテアソーム会合支援複合体
Dmp1-Dmp2

BMB2008. 2008 年 12 月 11 日(神戸) ; 3S17-2.

良川須美, 内海真穂, 山口芳樹, 栗本英治, 石田義人, 本間貴之, 寶関 淳, 西川良美,
小出隆規, 永田和宏, 加藤晃一

分子シャペロン Hsp47 のコラーゲン結合部位の同定

BMB2008. 2008 年 12 月 11 日(神戸) ; 3T24-8, 3P-0100.

佐々木香織, 梶川瑞穂, 矢木宏和, 近藤幸子, 黒木喜美子, 本橋智子, 霜島 司, 朴 龍
洙, 加藤晃一, 前仲勝実

BmNPV バクミドシステムによるヒト免疫細胞表面レセプターの発現と糖鎖解析

BMB2008. 2008 年 12 月 12 日(神戸) ; 4P-0214.

山口芳樹

NMR 構造生物学に基づいた薬物相互作用の解析と神経変性疾患への治療応用

特定領域研究「統合脳」5 領域 合同領域班会議. 2008 年 12 月 13-14 日(東京) ; 5-16.

水島恒裕, 高木賢治, 八代田英樹, 栗本英治, 田中啓二, 加藤晃一

酵母 20S プロテアソーム構造形成に関するシャペロン Dmp1-Dmp2 の役割

特定領域研究「生体超分子構造」第 5 回公開シンポジウム.

2008 年 12 月 18-19 日(つくば) ; P-7.

【分子生物薬学分野】

(原報)

Yoshikazu Johmura, Shigehiro Osada, Makoto Nishizuka, and Masayoshi Imagawa.
FAD24 acts in concert with histone acetyltransferase HBO1 to promote adipogenesis by controlling DNA replication.

J. Biol. Chem., **283**, 2265-2274 (2008).

Yoshikazu Johmura, Masanori Suzuki, Shigehiro Osada, Makoto Nishizuka, and Masayoshi Imagawa.

FAD24, a regulator of adipogenesis and DNA replication, inhibits H-RAS-mediated transformation by repressing NF- κ B activity.

Biochem. Biophys. Res. Commun., **369**, 464-470 (2008).

Tomoaki Hishida, Kumiko Naito, Shigehiro Osada, Makoto Nishizuka, and Masayoshi Imagawa.

Crucial roles of D-type cyclins in the early stage of adipocyte differentiation.

Biochem. Biophys. Res. Commun., **370**, 289-294 (2008).

Yoshikazu Johmura, Shigehiro Osada, Makoto Nishizuka, and Masayoshi Imagawa.
FAD24, a regulator of adipogenesis, is required for the regulation of DNA replication in cell proliferation.

Biol. Pharm. Bull., **31**, 1092-1095 (2008).

Makoto Nishizuka, Akiko Koyanagi, Shigehiro Osada, and Masayoshi Imagawa.
Wnt4 and Wnt5a promote adipocyte differentiation.

FEBS Lett., **582**, 3201-3205 (2008).

Tomoaki Hishida, Tsuyoshi Eguchi, Shigehiro Osada, Makoto Nishizuka, and Masayoshi Imagawa.

A novel gene, fad49, plays a crucial role in the immediate early stage of adipocyte differentiation via mitotic clonal expansion involvement.

FEBS J., **275**, 5576-5588 (2008).

Shigehiro Osada, Urara Gomita, and Masayoshi Imagawa.

Toxicity of nickel compounds mediated by *HTZ1*, histone variant H2A.Z, in *Saccharomyces cerevisiae*.

Biol. Pharm. Bull., **31**, 2007-2011 (2008).

(総説・著書・総合論文など)

大野雅恵

コレステロール代謝に関わる核内受容体 Farnesoid X Receptor の解析

薬学雑誌, **128**, 343-355 (2008).

城村由和、今川正良

脂肪細胞分化における新しい遺伝子 *fad24* の機能

生体の科学 (財) 金原一郎記念医学医療振興財団/医学書院, **59**, 160-166 (2008).

今川正良

分子細胞生物学辞典第2版 (分担執筆) 村松正實編集代表, 東京化学同人, (2008)

(学会発表)

Masae Ohno, Eiko Suzuki, Masaaki Kunimoto, Makoto Nishizuka, Shigehiro Osada, and Masayoshi Imagawa.

Analysis of proteins interacting with the N-terminal region of nuclear receptor farnesoid X receptor (FXR).

Pan-Pacific International Partnership Conference on Pharmaceutical and Life Sciences (The 4th US-Japan Joint Conference). 2008年2月22日 (名古屋); P-9.

長田茂宏【シンポジウム】

発がん初期に発現変化するクロマチン関連因子による転写制御

日本薬学会第128年会. 2008年3月26日 (横浜); S04-4.

今川正良【シンポジウム】

脂肪細胞分化を規定する因子群のシグナル伝達関連

日本薬学会第128年会. 2008年3月26日 (横浜); S13-2.

西塚誠, 脊戸山紘子, 渡邊祐子, 長田茂宏, 今川正良

脂肪細胞分化を促進する TCL/TCL10 β L のアクチン細胞骨格制御機構の解明

日本薬学会第128年会. 2008年3月27日 (横浜); 27PE-pm212.

大野雅恵, 藤田真由, 国本真明, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良

核内受容体 FXR と相互作用する因子群の解析

日本薬学会第128年会. 2008年3月28日 (横浜); 28I-am07.

五味田麗, 今川正良, 長田茂宏

肝化学発がん過程において発現が上昇するヒストンバリエント H2A.Z の機能解析

第54回日本薬学会東海支部大会. 2008年7月5日 (名古屋); C1.

河路淳子, 長田茂宏, 西塚誠, 今川正良

clonal expansion を制御する遺伝子群の機能解析

第54回日本薬学会東海支部大会. 2008年7月5日 (名古屋); C2.

野崎友里子, 林孝弘, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良

ノックアウトマウスを用いた新規遺伝子 *fad158* の機能解析

第54回日本薬学会東海支部大会. 2008年7月5日 (名古屋); C3.

岸本圭史, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良

新規遺伝子 *fad104* 欠損 MEF (Mouse embryonic fibroblasts) の性状解析

ファーマ・バイオフィォーラム 2008. 2008 年 11 月 30 日 (東京); 46.

大野雅恵, 国本真明, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良

核内受容体に相互作用する因子が FXR を介したプロモーター活性に与える影響
第 31 回日本分子生物学会年会、第 81 回日本生化学会大会合同大会. 2008 年 12 月 9 日 (神戸); 1P-0386.

高田美紗, 今川正良, 長田茂宏

酵母ミトコンドリアヒストン様タンパク質 Abf2p のアセチル化修飾
第 31 回日本分子生物学会年会、第 81 回日本生化学会大会合同大会. 2008 年 12 月 9 日 (神戸); 1P-0500.

岸本圭史, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良

脂肪細胞分化に重要である fad104 欠損 MEF(mouse embryonic fibroblasts)の性状解析
第 31 回日本分子生物学会年会、第 81 回日本生化学会大会合同大会. 2008 年 12 月 10 日 (神戸); 2P-0410.

藤井 彩, 菱田友昭, 内藤久美子, 長田茂宏, 西塚誠, 今川正良

脂肪細胞分化過程における PEG10 の発現変化と細胞内局在の検討
第 31 回日本分子生物学会年会、第 81 回日本生化学会大会合同大会. 2008 年 12 月 11 日 (神戸); 3P-1196.

西塚誠, 加子順子, 岸本圭史, 長田茂宏, 今川正良

脂肪細胞分化を促進する fad104 が糖代謝能ならびにインスリン感受性に与える影響の解析
第 31 回日本分子生物学会年会、第 81 回日本生化学会大会合同大会. 2008 年 12 月 11 日 (神戸); 3P-1197.

河路淳子, 長田茂宏, 西塚誠, 今川正良

脂肪細胞分化初期に発現が増加する遺伝子群の clonal expansion 制御機構の解析
第 31 回日本分子生物学会年会、第 81 回日本生化学会大会合同大会. 2008 年 12 月 11 日 (神戸); 3P-1198, 3T21-7.

【生薬学分野】

(原報)

Kazuo Kojima, Takamasa Ohno, Makoto Inoue, Hajime Mizukami, Akito Nagatsu
Phellifuropyranone A: A new furopyranone compound isolated from fruit bodies of wild
Phellinus linteus

Chem. Pharm. Bull. **56**: 173—175 (2008).

Toshiaki Makino, Atsuyuki Hishida, Yukihiro Goda, Hajime Mizukami
Comparison of the major flavonoid content of *S. baicalensis*, *S. lateriora*, and their commercial
products

J. Nat. Med. **62**: 294—299, (2008)

Toshiaki Makino, Nobuhiro Ohtake, Akito Watanabe, Naoko Tsuchiya, Sachiko
Imamura, Seiichi Iizuka, Makoto Inoue, Hajime Mizukami
Down-regulation of a hepatic transporter Mrp2 is involved in alteration of pharmacokinetics of
glycyrrhizin and its metabolites in a rat model of chronic liver injury

Drug Metab. Dispos. **36**: 1438—1443 (2008)

Kazuo Kojima, Yukio Ogihara, Yoshimichi Sakai, Hajime Mizukami and Akito Nagatsu
HPLC profiling of *Phellinus linteus*

J. Nat. Med. **62**: 441—446, (2008)

Toshiaki Makino, Minako Hamanaka, Hiroataka Yamashita, Hajime Mizukami
Effect of Bakumijogan, an herbal formula in traditional Chinese medicine, on atopic
dermatitis-like skin lesions induced by mite antigen in NC/Jic mice

Biol. Pharm. Bull. **31**: 2108—2113 (2008)

Maged Fouad, Mohammad Jabashin, Moritada Kaji, Kazuyoshi Terasaka, Manabu
Tokeshi, Hajime Mizukami, Yoshinobu Baba
Microtip analysis of plant glucosinolates

Electrophoresis **29**: 2280—2287 (2008)

Yuki Matsuba, Yuki Okuda, Yutaka Abe, Yoshie Kitamura, Kazuyoshi Terasaka, Hajime
Mizukami, Hiroyuki Kamakura, Nobuo Kawahara, Yukihiro Goda, Nobuhiro Sasaki,
Yoshihiro Ozeki

Enzymatic preparation of 1-O-hydroxycinnamoyl- β -D-glucoses and their application to the
study of 1-O-hydroxycinnamoyl- β -D-glucose-dependent acyltransferase in
anthocyanin-producing cultured cells of *Daucus carota* and *Glehnia littoralis*

Plant Biotechnol. **25**: 369—375 (2008)

(総説・著書・総合論文など)

牧野利明

医療薬学と生薬学の架け橋として

和漢薬 58(1): 8 (2008)

水上 元

新しい薬学教育制度と食の安全

F F I ジャーナル 213(2): 89—91 (2008)

水上 元

漢方の素養は薬学部出身者のアイデンティティ

漢方薬学雑誌 16(2): 24—25 (2008)

加藤久幸、御影雅幸、姜東孝、牧野利明、篠原久仁子

生薬の基礎から供給まで

日本東洋医学雑誌 59(3): 397—425 (2008)

牧野利明、水上 元

食品と医薬品間の相互作用

F F I ジャーナル 213(7): 635—644 (2008)

水上 元

薬用植物栽培研究会 33 周年を祝うー大橋裕先生のご業績を偲ぶー

薬用植物研究 30(2): 1—3 (2008)

(特許申請)

なし

(学会発表)

白木優作、牧野利明、水上 元、谷 秀彰、後藤伸佳、今井純生

白虎加桂枝湯のマウスアレルギー性皮膚炎抑制作用における石膏加減の影響

第 11 回名古屋漢方セミナー、2008 年 1 月 11 日 (名古屋)

Keita Kato, Toshiaki Makino, Hajime Mizukami

Thermogenous effects of processed aconite root on cold- stressed mice hypothermia

Pan-Pacific International Partnership Conference on Pharmaceutical and Life Sciences -

The 4th US-Japan Joint Conference, 2008. 2. 23-24, Nagoya); P19

松葉由紀、奥田裕樹、阿部裕、北村美江、寺坂和祥、水上元、鎌倉浩之、川原信夫、合田幸広、佐々木伸大、小関良宏

ニンジン及びハマボウフウ培養細胞におけるアントシアニンアシル基転移酵素の基質特異性比較

第 49 回日本植物生理学会年会、2008 年 3 月 20～22 日 (札幌) ; 1aE09

山下裕美、寺坂和祥、水戸光司、櫻井 望、鈴木秀幸、柴田大輔、矢崎一史、水上 元

ムラサキ培養細胞由来 rosmarinic acid synthase の単離と機能解析
第 49 回日本植物生理学会年会、2008 年 3 月 20～22 日（札幌）；P243

加藤 革己、寺坂 和祥、林 宏明、水上 元
カンゾウ培養細胞のグリチルリチン輸送活性の解析
日本農芸化学会 2008 年度大会、2008 年 3 月 26～29 日（名古屋）；3A17a12

横井 寛、井上 誠、永津明人、水上 元
ヨクイニンに含まれる PPAR- γ リガンドの探索
日本薬学会第 128 年会、2008 年 3 月 26～28 日（横浜）；27H-pm09

寺坂和祥
ジェノタイプング技術を用いた漢方処方構成生薬の鑑別・同定法の開発
第 20 回東洋医学に関する学術研究報告会、2008 年 4 月 6 日（名古屋）；5

牧野利明
冷えによる生体恒常性維持機能失調に関する漢方薬の有用性に関する研究
第 20 回東洋医学に関する学術研究報告会、2008 年 4 月 6 日（名古屋）；7

牧野利明
漢方薬をめぐる状況に学ぶ
第 35 期東海漢方協議会、2008 年 4 月 13 日（名古屋）

牧野利明
血清薬理学の限界を超える
2008 年度 臨床漢方薬理研究会（第 103 回例会）、2008 年 4 月 20 日（京都）

牧野利明
生薬・漢方製剤の薬局における取り扱い方
アイン薬局新人薬剤師研修会、2008 年 4 月 26 日（札幌）

今井純生、後藤伸佳、谷秀彰、藤村ゆう、宮坂史路、水谷邦一、牧田憲太郎、水上 元、
牧野利明、小寺 一
白虎加桂枝湯の石膏の量に関する一考察
第 59 回日本東洋医学会学術総会、2008 年 6 月 6～8 日（仙台）；003

牧野利明
健康食品・サプリメントと薬剤師の役割
金城学院大学薬学部「薬用植物学」特別講義、2008 年 7 月 2 日（名古屋）

牧野利明
漢方薬をめぐる医療薬学的諸問題
第 6 回 TCM (Traditional Chinese Medicine) 懇話会、2008 年 7 月 5 日（仙台）

牧野利明
漢方薬理学の最新の知見について～血清薬理学の限界と漢方医学からの生薬薬理

東京漢方教育センター研修会、2008年7月13日（東京）

Sayaka Masada, Kazuyoshi Terasaka, Hajime Mizukami

Isolation and characterization of UDP-glucose: flavonol glucoside

1,6-glucosyltransferase from *Chatharanthus roseus*

Banff Conference on Plant Metabolism 2008、2008/7/30 - 8/3 (Banff, Alberta, Canada) ;P41

牧野利明

漢方医学を学ぶ医学生のための生薬学

第21回医学生のための東洋医学講座、2008年8月7日（湯の山温泉、三重県）

牧野利明

漢方医薬学入門

第30回東百会、2008年8月23日（名古屋）

水上 元

生薬のDNA鑑別

日本薬剤師研修センター平成20年度漢方薬・生薬研修会、2008年8月24日（東京）

小谷仁司、水上 元、田邊宏樹、大野高政、西川淳一、井上 誠

漢方方剤成分による核内レセプターを介した慢性疾患の予防治療

第25回和漢医薬学会大会、2008年8月29～30日（大阪）；P019

加藤敬太、牧野利明、水上 元

加工ブシ末のマウス体温調節機能失調改善作用

第25回和漢医薬学会大会、2008年8月29～30日（大阪）；P106

曾田麻希子、寺坂和祥、永津明人、水上 元

培養細胞における crocetin の配糖化

第26回日本植物細胞分子生物学会大会、2008年9月1日～2日（大阪）；2Ap-01

永利麻衣、寺坂和祥、永津明人、水上 元

クチナシ培養細胞によるゲニピンの配糖化

第26回日本植物細胞分子生物学会大会、2008年9月1日～2日（大阪）；2Ap-02

松葉由紀、奥田裕樹、阿部 裕、北村美江、寺坂和祥、水上 元、鎌倉浩之、川原信夫、合田幸広、佐々木伸大、小関良宏

ニンジン及びハマボウフウ培養細胞におけるアントシアニンアシル基転移酵素の基質特異性比較

第26回日本植物細胞分子生物学会大会、2008年9月1日～2日（大阪）；2Ap-07

政田さやか、大口幸恵、寺坂和祥、水上 元

ニチニチソウ由来フラボノイド配糖体糖鎖伸長酵素の機能解析

第26回日本植物細胞分子生物学会大会、2008年9月1日～2日（大阪）；2Ap-12

加藤革己、寺坂和祥、林 宏明、水上 元

カンゾウ培養細胞によるグリチルリチン輸送の特性

第 26 回日本植物細胞分子生物学会大会、2008 年 9 月 1 日～2 日（大阪）；2Ap-17

牧野利明

漢方薬をめぐる医療薬学的諸問題

第 20 年度漢方薬講座、2008 年 9 月 5 日（札幌）

水野文香、牧野利明、水上 元

消化管上皮細胞における栄養素吸収改善作用をもつ生薬の探索

日本生薬学会第 55 回年会、2008 年 9 月 12～13 日（長崎）；1P-038

田邊宏樹、鈴木裕可、大野高政、水上 元、井上 誠

Coptisine の平滑筋細胞選択的増殖抑制活性の機序解析（3）

日本生薬学会第 55 回年会、2008 年 9 月 12～13 日（長崎）；2A-05

金丸美咲、牧野利明、水上 元、清水亮輔、鈴木幸雄、甲斐朋子、森脇将光

配糖化によるケルセチン消化管吸収改善の試み

第 18 回日本医療薬学会年会、2008 年 9 月 13～14 日（札幌）；21-P1-146

牧野利明

60 分でわかる漢方薬の使い方第 1 回

名古屋漢方セミナー、2008 年 9 月 25 日（名古屋）

政田さやか、大口幸恵、神永靖久、寺坂和祥、永津明人、水上 元

植物の二次代謝機能を利用した超天然型有用配糖体の創出

第 50 回天然有機化合物討論会、2008 年 9 月 30 日～10 月 1 日（福岡）；P-91

牧野利明

漢方薬理学の最新の知見について

阪神蒲公英会特別講演会、2008 年 10 月 11 日（西宮）

牧野利明

附子の薬能と薬理

第 2 回線維筋痛症研究会、2008 年 10 月 12 日（津）；p. 31

牧野利明

治未病～和漢薬を上手に使う～

平成 20 年度後期大学連携講座、2008 年 11 月 5 日（名古屋）；p. 47

牧野利明、水上 元

消化管に発現する栄養素トランスポーターに着目した創薬研究

名工大・名市大合同テクノフェア、2008 年 11 月 5 日（名古屋）；B11

牧野利明

ガン治療に併用される漢方薬

旭川医大薬剤部講座、2008年11月6日（旭川）

牧野利明

加工ブシ末の「温裏祛寒作用」

日本漢方交流会第41回全国学術総会、2008年11月23日（琴平）；7

牧野利明

天然由来機能性素材の取扱い方と新規機能性の開発

NPO バイオものづくり中部、第3回食品分科会、2008年12月2日（名古屋）；1

小谷仁司、水上 元、田邊宏樹、大野高政、槇島 誠、井上 誠

天然由来 RXR リガンドによる核内受容体の機能調節作用

第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会、2008年12月9～12日（神戸）；1P-0387

鈴木裕可、田邊宏樹、大野高政、井上 誠、水上 元

Coptisine の平滑筋細胞選択的増殖抑制活性の機序解析（4）

第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会、2008年12月9～12日（神戸）；2P-0355

牧野利明

加工ブシ末の薬能と薬理

中之島リウマチセミナー、2008年12月21日（大阪）

【生体防御機能学分野】

(原報)

Miki Shizu, Yuka Itoh, Ryohei Sunahara, Satomi Chujo, Hidetoshi Hayashi, Yuko Ide, Takemasa Takii, Masaya Koshiko, Sang Woon Chung, Kazuichi Hayakawa, Keiji Miyazawa, Kunitaka Hirose, Kikuo Onozaki.

Cigarette smoke condensate upregulates the gene and protein expression of proinflammatory cytokines in human fibroblast-like synoviocyte line.

J. Interferon Cytokine Res. **28**, 509-521 (2008)

Kaori Asamitsu, Tsuyoshi Yamaguchi, Kenji Nakata, Yurina Hibi, Ann-Florence B. Victoriano, Kenichi Imai, Kikuo Onozaki, Yukio Kitade, Takashi Okamoto

Inhibition of human immunodeficiency virus type 1 replication by blocking IkappaB kinase with noraristeromycin.

J. Biochem. **144**, 581-589 (2008)

Tomohiro Arakawa, Takanori Yamamura, Takayuki Hattori, Hidetoshi Hayashi, Akiko Mori, Ayako Yoshida, Chiharu Uchida, Masatoshi Kitagawa, Kikuo Onozaki

Contribution of extracellular signal-regulated kinases to the IL-1-induced growth inhibition of human melanoma cells A375.

Int. Immunopharmacol. **8**, 80-89 (2008)

Kazuaki Enya, Hidetoshi Hayashi, Takemasa Takii, Nobumichi Ohoka, Shinya Kanata, Takashi Okamoto, Kikuo Onozaki

The interaction with Sp1 and reduction in the activity of histone deacetylase 1 are critical for the constitutive gene expression of IL-1 alpha in human melanoma cells.

J. Leukoc. Biol. **83**, 190-199 (2008)

(総説・著書・総合論文など)

小野寄菊夫

ベーシック薬学教育シリーズ10

「免疫学」山元弘 [編] 化学同人 pp129-182, (2008) .

(特許申請)

出願日：平成20年3月10日

出願番号：特願2008-059903

名称：抗結核化合物，およびその利用

発明者：瀧井猛将，堀田康弘，小野寄菊夫，千葉拓，森雅美

特許出願人：公立法人名古屋市立大学

(学会発表)

瀧井 猛将、林 大介、若生 武、丸山 光生、矢野 郁也、山本三郎

BCG 亜株の比較研究—in vitro, in vivo での細菌学的、免疫学的な特徴の解析—

日米医学協力会結核・ハンセン病専門部会. 2008年2月29日(東京)

林 大介、瀧井 猛将、山本 三郎、矢野 郁也

Mycobacterium bovis BCG 亜株間の NO 感受性と宿主内生存能の差異
第81回日本細菌学会総会. 2007年3月26日(京都) ; 3-D-2/P360.

金田 伸弥、塩谷 和明、大岡 信通、瀧井 猛将、林 秀敏、小野崎 菊夫、岡本 尚
メラノーマ細胞からの構成的インターロイキン1 α 産生におけるHDAC1の関与
日本薬学会第128年会. 2008年3月28日(横浜) ; 28I-pm06.

森田 陽子、金丸 美咲、酒井 聡、小野崎 菊夫、林 秀敏
制御性T細胞の分化および機能に及ぼす外的ストレスの影響
日本薬学会第128年会. 2008年3月28日(横浜) ; 28I-pm11.

中條 里美、砂原 良平、伊藤 友香、瀧井 猛将、林 秀敏、早川 和一、小野崎 菊夫
タバコと関節リュウマチに関する研究
日本薬学会第128年会. 2008年3月28日(横浜) ; 28I-pm12.

堀田 康弘、瀧井 猛将、千葉 拓、小野崎 菊夫
多剤耐性結核に有効な新規糖化合物の探索
日本薬学会第128年会. 2008年3月28日(横浜) ; 28KA-pm06.

堀田 康弘、瀧井 猛将、千葉 拓、小野崎 菊夫
薬が効かない結核菌(XDR-TB)あらわる!
新たな作用点、結核菌に溶菌的作用を示す糖化合物の探索
日本薬学会第128年会. 講演ハイライト. 2008年3月27日(横浜) ; 27PH-58

瀧井 猛将、藤原 永年、矢野 郁也、山本 三郎
Mycobacterium bovis BCG 亜株間の生化学的、物理化学的性質と生物学的活性の比較研究
第83回日本結核病学会総会. 2008年4月24日(東京) ; 34

Takemasa Takii, Daisuke Hayashi, Yuko Uenishi, Ikuya Yano, Saburo Yamamoto, and Kikuo Onozaki
Biochemical characters of Mycobacterium bovis BCG strains and their relation ship to the host immunological activities
U.S.-Japan Cooperative Medical Science Program,
Forty-third Tuberculosis and Leprosy Research Conference.
2008年7月9日(Baltimore, Maryland, USA) ;WE-20

Yasuhiro Horita, Takemasa Takii, Taku Chiba, Chiyoji Abe, and Kikuo Onozaki
Development of new sugar compound against Mycobacterium tuberculosis
U.S.-Japan Cooperative Medical Science Program,
Forty-third Tuberculosis and Leprosy Research Conference.
2008年7月10日(Baltimore, Maryland, USA) ;TH-7

黒石 隆司、堀田 康弘、瀧井 猛将、千葉 拓、森 雅美、小野崎 菊夫

アミノ糖誘導体新規化合物の抗結核作用機序の解析
第20回微生物シンポジウム. 2008年9月3日(岐阜); A-10

西仲 駿、森田陽子、酒井 聡、小野寄菊夫、林 秀敏
新規ストレス誘導性分子 TRB3 による T 細胞分化制御
フォーラム 2008: 衛生薬学・環境トキシコロジー. 2008年10月17-18日(熊本); P082

中條 里美、岡本 翔佑、砂原 良平、伊藤 友香、瀧井 猛将、林 秀敏、早川 和一、小野寄 菊夫
タバコと関節リウマチに関する研究
フォーラム 2008: 衛生薬学・環境トキシコロジー. 2008年10月17-18日(熊本); P134

Hidetoshi Hayashi, Kikuo Onozaki
ストレス誘導性 pseudokinase TRB3 の T 細胞分化に及ぼす影響
第38回日本免疫学会総会. 2008年12月1日(京都); 1-A-W1-12-P

Daisuke Hayashi, Takemasa Takii, Tsukasa Ito, Masashi Okada, Kikuo Onozaki
ポリオウイルスベクターを用いた新規結核ワクチンの開発
第38回日本免疫学会総会. 2008年12月2日(京都); 2-E-W26-15-0/P

伊藤 司、林 大介、若尾 武、浅井 あづさ、瀧井 猛将、丸山 光生、小野寄 菊夫
老齢マウスにおける BCG 接種による Th1 細胞活性化に関する研究
第38回日本免疫学会総会. 2008年12月3日(京都); 3-H-W48-2-P

荒川 友博、林 秀敏、瀧井 猛将、小野寄 菊夫
インターロイキン 1 によるヒトメラノーマ細胞増殖抑制機構の解析
平成 20 年度日本薬学会東海支部例会・教育シンポジウム 2008 年 12 月 6 日(静岡); C-16

荒川 友博、林 秀敏、瀧井 猛将、小野寄 菊夫
インターロイキン 1 によるヒトメラノーマ細胞増殖抑制機構への ERK1/2 経路の関与
BMB2008 (第 31 回日本分子生物学会年会・第 81 回日本生化学会大会 合同大会) 2008 年 12 月 12 日(神戸); 4P-1433

酒井 聡、大岡 伸通、丹伊田 浩行、小野寄 菊夫、中西 真、林 秀敏
G2/M 移行期における pseudokinase TRB3 の役割
BMB2008 (第 31 回日本分子生物学会年会・第 81 回日本生化学会大会 合同大会) 2008 年 12 月 10 日(神戸); 2P-0464

【遺伝情報学分野】

(原報)

Takahashi, S., Araki Y., Ohya Y., Sakuno T., Hoshino S., Kontani, K., Nishina H., and Katada, T.

Upf1 potentially serves as a RING-related E3 ubiquitin ligase via its association with Upf3 in yeast.

RNA, **14**, 1-9 (2008).

(総説・著書・総合論文など)

星野真一、船越祐二

RT-PCR を用いた RNA の検出と定量、RNA 実験ノート, 羊土社 pp 66-69, (2008)

星野真一、細田直

培養細胞からの RNA 抽出、RNA 実験ノート, 羊土社 pp39-41 (2008)

(特許申請)

該当なし

(学会発表)

星野真一【招待講演】

mRNA 動態を制御する eRF3 ファミリー G 蛋白質、
薬学会九州コロキウム、2008 年 10 月 25 日 (福岡)

松本健、小島志保子、廣瀬松美、長野謙、重吉康史、星野真一、程肇

哺乳類時計遺伝子 *Period1* の正と負の翻訳制御機構の解析
日本分子生物学会第 31 回 / 日本生化学会第 81 回合同大会、2008 年 12 月 9 日 ~ 12 日 (神戸)

細田直、星野真一

ナンセンスコドンをもつ mRNA 分解機構における G 蛋白質 eRF3 の役割
特定領域研究「G 蛋白質シグナル」班会議、2008 年 9 月 19-20 日 (新潟)

Yuji Funakoshi, Yusuke Doi, Nao Hosoda, Naoyuki Uchida, Masafumi Tsujimoto, Yasunori Kanaho, Shin-ichi Hoshino

Role of translation termination factor eRF3 in mRNA deadenylation.

Cold Spring Harbor meeting “Translational Control”, 2008 年 9 月 3 - 7 日 (Cold Spring Harbor, USA)

星野真一 (兼) 座長 & オーバービュー

癌抑制遺伝子 Tob による mRNA ポリ A 鎖分解の制御

日本 RNA 学会第 10 回、2008 年 7 月 25 日 (札幌)

松本健、小島志保子、廣瀬松美、長野護、重吉康史、星野真一、程肇

哺乳類時計遺伝子 Period1 の正と負の翻訳制御機構の解析

日本 RNA 学会第 10 回、2008 年 7 月 25 日 (札幌)

程肇、松本健、小島志保子、廣瀬松美、長野護、星野真一、重吉康史

Lark による時計遺伝子 Period1 の翻訳活性化機構の解析

日本神経科学大会第 31 回、2008 年 7 月 10 日 (東京)

尾上耕一、細田直、船越祐二、星野真一

癌抑制遺伝子産物 Tob は mRNA 分解を制御する

日本薬学会東海支部大会第 54 回、2008 年 7 月 5 日 (名古屋)

熊谷直道、細田直、星野真一

翻訳終結因子 eRF3/GSPT1 の核-細胞質間シャトリングの生理的役割

日本薬学会東海支部大会第 54 回、2008 年 7 月 5 日 (名古屋)

吉田拓生、船越祐二、細田直、星野真一

テロメラーゼ RNA の成熟化機構の解析

日本薬学会東海支部大会第 54 回、2008 年 7 月 5 日 (名古屋)

Yuji Funakoshi, Yusuke Doi, Nao Hosoda, Naoyuki Uchida, Masafumi Tsujimoto, Shin-ichi Hoshino

Mechanism of mRNA deadenylation: evidence for a molecular interplay between translation termination factor eRF3 and mRNA deadenylases.

Pan-Pacific International Partnership Conference on Pharmaceutical and Life Sciences (The 4th US-Japan Joint Conference), 2008 年 2 月 22-23 日 (Nagoya, Japan)

町山麻子、大澤匡範、今井駿輔、星野真一、堅田利明、嶋田一夫

翻訳開始因子 eIF4G-ポリ A 結合蛋白質間相互作用の構造生物学的解析に基づく mRNA 環状化機構の解明

日本薬学会第 128 年会、パシフィコ横浜、2008 年 3 月 26 日～28 日

【細胞分子薬効解析学分野】

(原報)

Ryoichi Tanaka, Katsuhiko Muraki, Susumu Ohya, Hisao Yamamura, Noriyuki Hatano, Yuka Itoh, Yuji Imaizumi

TRPV4-like non-selective cation currents in cultured aortic myocytes.

J. Pharmacol. Sci., **108(2)**, 179-189 (2008).

Kazuho Sakamoto, Susumu Ohya, Katsuhiko Muraki, Yuji Imaizumi

A novel opener of large-conductance Ca^{2+} -activated K^+ (BK) channel reduces ischemic injury in rat cardiac myocytes by activating mitochondrial K_{Ca} channel.

J. Pharmacol. Sci., **108(1)**, 135-139 (2008).

Yuichiro Matsushita, Susumu Ohya, Haruna Itoda, Takuya Kimura, Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Yuji Imaizumi

Molecular mechanisms for Kv1.3 potassium channel current inhibition by CD3/CD28 stimulation in Jurkat T cells

Biochem. Biophys. Res. Commun., **374(1)**, 152-157 (2008).

Ryoichi Tanaka, Katsuhiko Muraki, Susumu Ohya, Yuka Itoh, Noriyuki Hatano, Yuji Imaizumi

Cell-culture-dependent change of Ca^{2+} response of rat aortic myocytes to sphingosine-1-phosphate

J. Pharmacol. Sci., **107(4)**, 434-442 (2008).

Koji Hirukawa, Katsuhiko Muraki, Susumu Ohya, Yuji Imaizumi, Akifumi Togari
Electrophysiological properties of a novel Ca^{2+} -activated K^+ channel expressed in human osteoblasts

Calcif Tissue Int., **83(3)**, 222-229 (2008).

(総説・著書・総合論文など)

今泉祐治, 大矢 進, 山村寿男

血管平滑筋における興奮収縮連関

学術季刊誌「血管医学」Vol.9 No.3, メディカルレビュー社, 247-254 (2008).

(学会発表)

山村寿男、今泉祐治

全反射蛍光顕微鏡を用いた平滑筋局所 Ca^{2+} 動態の可視化解析

特定領域「Gタンパク質シグナル」&「膜輸送複合体」合同若手ワークショップ.

2008年1月26日(箱根) ; P8.

大野晃稔、大矢 進、山村寿男、今泉祐治

男性ホルモンによる生殖器平滑筋イオンチャネル発現調節に関する研究

特定領域「Gタンパク質シグナル」&「膜輸送複合体」合同若手ワークショップ.

2008年1月26日(箱根) ; P9.

船橋賢司、山村寿男、大矢 進、今泉祐治

軟骨肉腫細胞(OUMS-27)におけるイオンチャネルに関する研究

特定領域「Gタンパク質シグナル」&「膜輸送複合体」合同若手ワークショップ.

2008年1月26日(箱根) ; P10.

Hisao Yamamura, Yuji Imaizumi

TIRF imaging of Ca^{2+} -induced Ca^{2+} release in smooth muscle cells

Biophysical Society 52nd Annual Meeting. 2008.2.3 (Long Beach, USA).

Daiji Yamazaki, Seiji Yamamoto, Susumu Ohya, Kiyofumi Asai, Yuji Imaizumi

Anomalous membrane hyperpolarization by equential activation of SK2 and Kir2.1 channels triggers cell death in brain capillary endothelial cells.

Biophysical Society -52nd Annual Meeting-. 2008.2.5. (Long Beech, USA).

Hisao Yamamura, Yuji Imaizumi

Visualization of local Ca^{2+} transients in smooth muscle cells using total internal reflection fluorescence microscope

Pan-Pacific International Partnership Conference on Pharmaceutical and Life Sciences (The 4th US-Japan Joint Conference). 2008.2.22 (Nagoya, Japan).

萩原和信、山村寿男、大矢 進、今泉祐治

Dahl 食塩感受性高血圧ラット腎動脈平滑筋における K^+ チャネル機能変化

第81回日本薬理学会年会. 2008年3月17日(横浜) ; O1H1-3.

船橋賢司、山村寿男、大矢 進、今泉祐治

ヒト由来軟骨肉腫細胞(OUMS-27)に対するニフルミ酸の作用

第81回日本薬理学会年会. 2008年3月17日(横浜) ; O1H2-3.

山村寿男、今泉祐治

平滑筋細胞における局所 Ca^{2+} 変動の TIRF 画像解析

第81回日本薬理学会年会. 2008年3月18日(横浜) ; O2H3-4.

水谷浩也、山村寿男、大矢 進、今泉祐治

松果体細胞における大コンダクタンス Ca^{2+} 活性化 K^+ チャネルの生理的意義の解明

第81回日本薬理学会年会. 2008年3月18日(横浜) ; O2G2-2.

池田知佳子、山村寿男、大矢 進、今泉祐治

BK チャネル分子の TIRF 画像解析

第 81 回日本薬理学会年会. 2008 年 3 月 18 日 (横浜) ; E2G1-3.

松下雄一郎、大矢 進、今泉祐治

CD3 および CD28 刺激による Jurkat T 細胞における kv1.3 電流の調節

第 81 回日本薬理学会年会. 2008 年 3 月 18 日 (横浜) ; P2J-12.

今泉祐治、池田知佳子、山村寿男、大矢 進【シンポジウム講演】

微小膜ドメインにおけるイオンチャネル協同制御分子機構の可視化

第 81 回日本薬理学会年会. 2008 年 3 月 19 日 (横浜) ; S3C2-5.

村田秀道、山村寿男、大矢 進、岩本隆宏、今泉祐治

Na⁺/Ca²⁺交換輸送体 (NCX) 高発現膀胱における自発収縮亢進の機構解析

第 81 回日本薬理学会年会. 2008 年 3 月 19 日 (横浜) ; O3H3-5.

大矢 進, Thomas Jepps, Iain A. Greenwood

マウス消化管平滑筋における Kv7 チャネルの機能的役割と分子同定

第 81 回 日本薬理学会年会. 2008 年 3 月 19 日 (横浜) ; P3K-12.

山村寿男、池田知佳子、大矢 進、今泉祐治

血管平滑筋細胞における BK チャネルの一分子動態解析

第 85 回日本生理学会大会. 2008 年 3 月 25 日 (東京) ; 1P-F-050.

大野晃稔、大矢 進、山村寿男、今泉祐治

テストステロンによる扁桃体の大コンダクタンス Ca²⁺活性化 K⁺チャネル発現調節

第 85 回日本生理学会大会. 2008 年 3 月 25 日 (東京) ; 1P-F-052.

大矢 進、今泉祐治【シンポジウム講演】

平滑筋におけるカルモジュリン様タンパク質及びタンパク質及び Ca²⁺/カルモジュリン
依存性キナーゼ II による早期不活性化 K⁺チャネル制御

第 85 回日本生理学会大会. 2008 年 3 月 26 日 (東京) ; 2S-E-JPS-1.

藤高啓右、森本 岳、山村寿男、大矢 進、今泉祐治

BK チャネルの DiBAC4(3)による β サブユニット選択的活性化分子機構の解明

日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 27 日 (横浜) ; 27PW-am039.

橋爪圭吾、木村泰介、山村寿男、大矢 進、今泉祐治

末梢組織ペースメーカーモデルにおける細胞間電気シグナル伝播機構の解明

日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 27 日 (横浜) ; 27PW-am040.

大矢 進, Thomas Jepps, Iain A. Greenwood

マウス消化管平滑筋における電位依存性 Kv7 チャネルの機能発現

日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 27 日 (横浜) ; 27PW-pm061.

木村拓哉、大矢 進、山村寿男、今泉祐治

RINm5F 細胞における電位依存性 K^+ チャネルの機能的役割

日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 28 日 (横浜) ; 28N-am04.

大矢 進

電位依存性及びカルシウム活性化カリウムチャネルの多様な生理機能と病態的意義

(財) ソルト・サイエンス研究財団 平成 20 年度医学分野プロジェクト研究発足会議

「生体における K^+ 輸送とその制御機構」. 2008 年 5 月 23 日 (東京) .

今泉祐治【招待講演】

細胞から 1 分子までをマルチ高速蛍光イメージングで見る

(株) ニコンインテックス・ニコン蛍光イメージングセミナー. 2008 年 5 月 29 日 (京都) .

鈴木良明、山村寿男、池田知佳子、大矢 進、今泉祐治

全反射蛍光顕微鏡を用いた BK チャネル α サブユニット 1 分子動態の可視化解析

第 113 回日本薬理学会近畿部会. 2008 年 6 月 20 日 (岡山) ; B-11.

加藤大樹、山村寿男、大矢 進、竹島 浩、今泉祐治

血管平滑筋の筋張力調節機構における RyR3 の機能解明

第 50 回平滑筋学会総会. 2008 年 7 月 3 日 (弘前) ; O-06.

大野晃稔、大矢 進、山村寿男、今泉祐治

ラット扁桃体における BK チャネル発現の性差

第 31 回日本神経科学大会. 2008 年 7 月 11 日 (東京) ; P3-a06.

山村寿男、水谷浩也、村松 真、大矢 進、今泉祐治

松果体細胞に発現する大コンダクタンス Ca^{2+} 活性化 K^+ チャネルの機能解析

第 31 回日本神経科学大会. 2008 年 7 月 11 日 (東京) ; O2-F09.

水谷浩也、村松 真、山村寿男、大矢 進、今泉祐治

ニコチンによる神経細胞内 Ca^{2+} シグナル調節機構のイオン機構と神経保護作用

第 23 回平成 19 年度助成研究発表会. 2008 年 7 月 24 日 (東京) ; 147.

山村寿男、今泉祐治

ナトリウム-カルシウム交換系を分子基盤とした食塩感受性高血圧治療薬の探索

平成 19 年度名古屋市立大学特別研究奨励費研究成果発表会.

2008 年 8 月 28 日 (名古屋) ; C-37.

船橋賢司、山村寿男、大矢 進、今泉祐治

軟骨肉腫細胞株 (OUMS-27) におけるイオンチャネル機能解析

生体機能と創薬シンポジウム 2008. 2008 年 9 月 6 日 (東京) ; P-4.

大野晃稔、大矢 進、山村寿男、今泉祐治

精管平滑筋における男性ホルモンによる BK チャネル発現・機能への影響
生体機能と創薬シンポジウム 2008. 2008 年 9 月 6 日 (東京) ; P-5.

大矢 進、丹羽里実、柳 文乃、山村寿男、一色健吾、柳田哲哉、菊池松夫、成田 寛、今泉祐治

中コンダクタンス Ca^{2+} 活性化 K^{+} チャネル新規スプライスバリエーションの機能解析と細胞内分布

特定領域研究「生体膜トランスポートソームの分子構築と生理機能」
平成 20 年度第 1 回班会議. 2008 年 9 月 24 日 (淡路) ; P1-16.

山村寿男、大矢 進、今泉祐治

血管平滑筋で発生する Ca^{2+} スパークとその分子基盤の TIRF 画像解析
特定領域研究「生体膜トランスポートソームの分子構築と生理機能」
平成 20 年度第 1 回班会議. 2008 年 9 月 24 日 (淡路) ; P1-17.

今泉祐治

BK チャネルと機能協関分子の 1 分子可視化と局所 Ca^{2+} 動態解析
特定領域研究「生体膜トランスポートソームの分子構築と生理機能」
平成 20 年度第 1 回班会議. 2008 年 9 月 25 日 (淡路) ; A02-公募 4.

鈴木良明、山村寿男、池田知佳子、大矢 進、今泉祐治

全反射蛍光顕微鏡を用いた BK チャネルの 1 分子動態の可視化解析
特定領域研究「生体膜トランスポートソームの分子構築と生理機能」
平成 20 年度第 1 回班会議. 2008 年 9 月 25 日 (淡路島) ; P2-10.

村松 真、水谷浩也、山村寿男、大矢 進、今泉祐治

松果体細胞における BK チャネル活性を介した Ca^{2+} オシレーションの制御
特定領域研究「生体膜トランスポートソームの分子構築と生理機能」
平成 20 年度第 1 回班会議. 2008 年 9 月 25 日 (淡路島) ; P2-11.

大矢 進

血管老化の予防と薬物治療
名古屋市生涯学習センター主催「大学連携講座」. 2008 年 10 月 15 日 (名古屋).

今泉祐治【他大学講義】

創薬ターゲットとしてのイオンチャネル
名古屋工業大学・薬科学特論. 2008 年 11 月 7 日 (名古屋).

今泉祐治【他大学講義】

不整脈とイオンチャネル
名古屋工業大学・薬科学特論. 2008 年 11 月 7 日 (名古屋).

大矢 進

オーダーメイド医薬品—個別化薬物療法が実現する時代—

平成20年度名古屋市立大学市民公開講座. 2008年11月8日 (名古屋).

村松 真、水谷浩也、山村寿男、大矢 進、今泉祐治

松果体細胞で発生する Ca^{2+} オシレーションに対する BK チャネルの寄与

第 114 回 日本薬理学会近畿部会. 2008 年 11 月 14 日 (神戸) ; A-11.

山村寿男、大矢 進、今泉祐治

血管平滑筋細胞で発生する Ca^{2+} スパークに関与する分子群の TIRF 画像解析

平成 20 年度生理研研究会「イオンチャネル・トランスポーターと心血管機能 : 学際的取り組みによる新戦略」. 2008 年 11 月 19 日 (岡崎).

加藤大樹、山村寿男、大矢 進、竹島 浩、今泉祐治

ドミナントネガティブ RyR3 の血管平滑筋における発現と機能

第 18 回 日本循環薬理学会. 2008 年 11 月 21 日 (千葉) ; Y-16.

大矢 進、丹羽里実、柳 文乃、仲村恵梨奈、山村寿男、今泉祐治

中コンダクタンスカルシウム活性化カリウムチャネルスプライスバリエントの発現・機能解析

平成 20 年度日本薬学会東海支部例会. 2008 年 12 月 6 日 (静岡) ; B-20.

【病態生化学分野】

(原報)

Nogi, T., Sangawa, T., Tabata, S., Nagae, M., Tamura-Kawakami, K., Beppu, A., Hattori, M., Yasui, N., and Takagi, J.

Novel affinity tag system using structurally defined antibody-tag interaction: application to single-step protein purification.

Protein Sci. **17**, 2120-2126 (2008)

(総説・著書・総合論文など)

Mitsuharu Hattori.

C-terminal region of Reelin.

Reelin Glycoprotein: Structure, Biology, and Roles in Health and Disease. 49-57 Springer (2008).

(特許申請)

なし

(学会発表)

Hattori, M.

"The enigma of Reelin functions in the developing and adult brain"

Wokshop on Receptor-Trafficking and Cell Biology of Neurons. 2008年2月26日
Asilomar Conference Center, CA, USA.

Takayuki Uchida, Terumasa Hibi, Takaki Miyata, Kazunori Nakajima, and Mitsuharu Hattori

Where Does Reelin Work? Localization of Functional Reelin Receptors in the Developing Mouse Brain as Revealed by Reelin-Alkaline Phosphatase Fusion Probe

2008年3月24日 CDB Symposium 2008 "Turning Neurons into a Nervous System" (神戸)

Yoshimi Nakano, Takao Kohno, Terumasa Hibi, Kazunori Nakajima, and Mitsuharu Hattori

Functions of The Highly Conserved C-terminal Region of Reelin and Its Regulation by Proteolysis

2008年3月24日 CDB Symposium 2008 "Turning Neurons into a Nervous System" (神戸)

Takayuki Uchida, Atsushi Baba, Terumasa Hibi, Takaki Miyata, Kazunori Nakajima, and

Mitsuharu Hattori

Regulated expression and downregulation of functional Reelin receptors indicates complex action of Reelin during brain development

2008年5月23日 Cortical Development Meeting 2008 (ギリシャ・クレタ島) P38

Yoshimi Nakano, Terumasa Hibi, Takao Kohno, Atsushi Baba, and Mitsuharu Hattori

Function of the highly conserved C-terminal Region of Reelin: A knock-in study

2008年5月23日 Cortical Development Meeting 2008 (ギリシャ・クレタ島) P63

服部光治

リーリンによる脳の層構造形成制御の分子機構

平成20年度生理学研究所研究会「シナプス可塑性の分子的基盤」2008年6月5日生理学研究所

河野孝夫、服部光治

脳の層構造形成を司る分泌蛋白質リーリンの新規分解機構と、その生理的意義の解明

2008年7月5日 第56回日本薬学会東海支部大会 (名古屋)

日比輝正、水谷真人、馬場 敦、服部光治

リーリン受容体 ApoER2 スプライシングバリエーションに対するリーリンの結合能の差異

2008年7月5日 第56回日本薬学会東海支部大会 (名古屋)

大島健一、酒井秀行、服部光治

神経細胞におけるスフィンゴミエリン合成酵素の局在制御機構の解析

2008年7月5日 第56回日本薬学会東海支部大会 (名古屋)

石井萌、松田幸江、馬場敦、鈴木健裕、堂前直、服部光治

難読症関連遺伝子 KIAA0319 は神経突起の異常な分岐を誘導する

2008年7月10日 第31回日本神経科学大会 (東京) P1-g06

馬場敦、赤木浩士郎、服部光治

Fyn の酵素活性は細胞膜上における Ephrin-A の量を調節する

2008年7月10日 第31回日本神経科学大会 (東京) P2-g14

内田貴之、馬場敦、宮田卓樹、仲嶋一範、服部光治

リーリンとアルカリフォスファターゼの融合タンパク質を用いた、リーリン受容体の機能的発現部位の決定

2008年7月10日 第31回日本神経科学大会 (東京) P1-g01

中野良美、河野孝夫、日比輝正、馬場敦、仲嶋一範、御子柴克彦、服部光治

リーリン Δ C-FLAG ノックインマウスの表現型解析

2008年7月10日 第31回日本神経科学大会 (東京) P1-f19

大島健一、高柳麻衣、酒井秀行、服部光治

神経細胞におけるスフィンゴミエリン合成酵素の局在及び機能解析

2008年12月9日 BMB2008 (神戸) 1P-0121

日比輝正、服部光治

リーリン受容体 ApoER2 の二つのスプライシングバリエントにおける機能的差異

2008年12月9日 BMB2008 (神戸) 1P-0962

【薬物動態制御学】

(原報)

Katsuhisa Inoue, Yasuhiro Nakai, Sayaka Ueda, Shunsuke Kamigaso, Kin-ya Ohta, Mai Hatakeyama, Yayoi Hayashi, Masaki Otagiri, and Hiroaki Yuasa
Functional characterization of PCFT/HCP1 as the molecular entity of the carrier-mediated intestinal folate transport system in the rat model.
Am. J. Physiol., **294**, G660-G668 (2008).

Nami Fujimoto, Katsuhisa Inoue, Yayoi Hayashi, and Hiroaki Yuasa
Effect of glycerol-related compounds on carrier-mediated glycerol uptake in HCT-15 human colon cancer cell line.
Drug Metab. Pharmacokinet., **23**, 216-220 (2008).

Yuriko Ohgusu, Kin-ya Ohta, Megumi Ishii, Takahiro Katano, Kimihiko Urano, Jun Watanabe, Katsuhisa Inoue, and Hiroaki Yuasa
Functional characterization of human aquaporin 9 as a facilitative glycerol carrier.
Drug Metab. Pharmacokinet., **23**, 279-284 (2008).

(総説・著書・総合論文など)

湯浅博昭

消化管吸収の評価法.

「分子薬物動態学」, 杉山雄一, 楠原洋之編, 南山堂, pp. 447-459 (2008).

Hiroaki Yuasa

Drug absorption from the colon in situ.

"Drug Absorption Studies: In Situ, In Vitro and In Silico Models",
ed by Carsten Ehrhardt, and Kwang-Jin Kim, Springer, pp. 77-88 (2008).

(学会発表)

Misato Sugiura, Katsuhisa Inoue, Yasuhiro Nakai, Naoki Abe, Kin-ya Ohta, Mai Hatakeyama, Yayoi Hayashi, and Hiroaki Yuasa

Functional characteristics of human proton-coupled folate transporter/heme carrier protein 1 (hPCFT/HCP1) heterologously expressed in mammalian cells.

Pan-Pacific International Partnership Conference on Pharmaceutical and Life Sciences.

2008年2月22日 (Nagoya, Japan) ; P25.

栗原弘充, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭, 畠山 舞, 林 弥生

ラット小腸一回灌流系における PCFT 介在性 folate 輸送の解析.

日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 28 日 (横浜) ; 28PE-am199.

湯浅博昭, 杉浦弥里, 井上勝央, 太田欣哉, 畠山 舞, 林 弥生

hPCFT による folate/methotrexate 輸送に対する膜電位の影響: hPCFT 安定発現

MDCKII 細胞刷子縁膜小胞での検討.

日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 28 日 (横浜) ; 28PE-am201.

井上勝央, 向出容子, 太田欣哉, 湯浅博昭

ヒト由来マクロファージ細胞における guanine の輸送解析.

日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 28 日 (横浜) ; 28PE-am206.

太田欣哉, 井上勝央, 今村勇一郎, 奥平典子, 渥美 亮, 湯浅博昭

ラット MATE (multidrug and toxin extrusion) 1 を介したフルオロキノロン系抗菌剤の輸送の解析.

日本薬剤学会第 23 年会. 2008 年 5 月 22 日 (札幌) ; 22-5-9.

今村勇一郎, 奥平典子, 渥美 亮, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭

ヒト MATE1 発現系におけるフルオロキノロン抗菌剤の輸送解析.

日本薬剤学会第 23 年会. 2008 年 5 月 21 日 (札幌) ; P-20.

高橋絢子, 畠山 舞, 林 弥生, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭

小腸に存在する転写因子による葉酸/H⁺共輸送担体 (PCFT) の発現制御.

第 23 回日本薬物動態学会年会. 2008 年 10 月 30 日 (熊本) ; 30D17-1.

石井めぐみ, 太田欣哉, 片野貴大, 浦野公彦, 渡辺 淳, 井上勝央, 湯浅博昭

ヒトアクアポリン 10 の促進拡散型グリセロール輸送担体としての機能解析.

第 23 回日本薬物動態学会年会. 2008 年 10 月 30 日 (熊本) ; 30PE-75.

保嶋智也, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭

蛍光性色素 DAPI を用いた MATE 輸送機能の迅速評価法.

第 23 回日本薬物動態学会年会. 2008 年 10 月 31 日 (熊本) ; 31B11-5.

太田欣哉, 井上勝央, 今村勇一郎, 奥平典子, 渥美 亮, 湯浅博昭

ヒト MATE を介したフルオロキノロンの促進拡散型輸送の解析.

第 23 回日本薬物動態学会年会. 2008 年 10 月 31 日 (熊本) ; 31PE-93.

浦野公彦, 片野貴大, 渡辺 淳, 湯浅博昭

ヒト唾液中へのカフェイン排泄の薬物動態学的解析による全身クリアランスの算出.

第 53 回日本唾液腺学会. 2008 年 12 月 6 日 (東京) .

山本俊輔, 村田友昭, 井上勝央, 太田欣哉, 湯浅博昭

ラット小腸に発現する新規核酸塩基トランスポーターの同定と機能解析.

平成 20 年度日本薬学会東海支部例会. 2008 年 12 月 6 日 (静岡) ; D-21.

山本俊輔, 井上勝央, 太田欣哉, 湯浅博昭

ラット小腸に発現する新規 riboflavin トランスポーターの同定と機能解析.

第 81 回日本生化学会大会, 2008 年 12 月 12 日 (神戸) ; 4P-0278 (4T7-4).

【病態解析学分野】

(原報)

Jie Dong, Naoki Ishimori, Beverly Paigen, Hiroyuki Tsutsui, Satoshi Fujii
Role of modulator recognition factor 2 in adipogenesis and leptin expression in 3T3-L1 cells.
Biochem. Biophys. Res. Commun., **366**, 551-555, (2008).

Tetsuya Mishima, Kazuya Iwabuchi, Satoshi Fujii, Shinya Tanaka, Hisako Ogura, Keiko Watano-Miyata, Naoki Ishimori, Yasuhiro Andoh, Yukihito Nakai, Chikako Iwabuchi, Manabu Ato, Akira Kitabatake, Hiroyuki Tsutsui, Kazunori Onoé
Allograft inflammatory factor-1 augments macrophage phagocytotic activity and accelerates the progression of atherosclerosis in ApoE^{-/-} mice.
Int. J. Mol. Med., **21**, 181-187, (2008).

Yuki Sato, Jie Dong, Shogo Imagawa, Naoki Ishimori, Tomoo Furumoto, Hiroyuki Tsutsui, Burton E. Sobel, Satoshi Fujii
Impact of statins on modulation by insulin of expression of plasminogen activator inhibitor type-1.
Coron. Artery Dis., **19**, 355-361, (2008).

(総説・著書・総合論文など)

藤井 聡

抗凝療法の現状と今後の展開 3 静脈血栓塞栓症に対する抗凝固療法—薬剤特性—
International Review of Thrombosis 2008; 3 (suppl):31-35

藤井 聡

心不全発症予防のための冠血管疾患管理:薬物管理 心不全のディジーズマネジメント
看護技術 2008; 54: 1245-1249

藤井 聡

回復期から慢性期の薬物管理:薬の使い方と病期により異なる期待する薬効 心不全の
ディジーズマネジメント *看護技術* 2008; 54: 1298-1303

藤井 聡

着任挨拶 名古屋市立大学薬友会誌第57号 2008年3月15日

藤井 聡、水上 元

名古屋市立大学大学院薬学研究科のリカレント教育について 名古屋市立大学薬友会誌第57号 2008年3月15日

樋本紀夫, 秋田谷龍男, 坂巻弘之

物理系薬剤学 (共訳) 「FASTtrack Physical Pharmacy」 D. Attwood, A. T. Florence 著, 共立出版 pp1-184, (2008).

(特許申請)

該当なし

(学会発表)

Fujii S. 【依頼講演】

Interaction between inflammation and fibrinolysis and its pharmacological control.

Pan-Pacific International Partnership Conference on Pharmaceutical and Life Sciences (The 4th US-Japan Joint Conference) (生命薬科学環太平洋国際パートナーシップ会議) 2008. 2. 22 (Nagoya, Japan)

Fujii S. 【依頼講演】

Thrombotic disorders in metabolic syndrome.

5th Congress of the Asian-Pacific society on thrombosis and haemostasis. 2008. 9. 19 (Singapore)

藤井 聡 【依頼講演】

血栓症治療薬の現状

日本薬学会第128年会 2008年3月26日 (横浜)

藤井 聡 【依頼講演】

PAI-1の発現調節、機能とその臨床応用の展望

第9回 Pharmaco-hematology Symposium 2008年6月20日 (東京)

Furumoto T, Fujii S, Sobel B, Tsutsui H. 【依頼講演】

PAI-1 is the Principal Adipocytokine and New Therapeutic Target in Mets: Novel Marker of Abdominal Fat and Initiator of Atherosclerosis.

第72回日本循環器学会 2008年3月29日 (福岡). Circ J 2008; 72 (Supple I): 30

藤井 聡 磯貝 善蔵 【依頼講演】

創傷治癒モデル動物と褥瘡の病態との関連性

第10回日本褥瘡学会学術集会 2008. 8. 29 (神戸)

藤井 聡

くすりを創る、マウスから学ぶ、病気と闘う

名古屋市立大学薬学部平成20年度オープンキャンパス 平成20年8月4日 (名古屋)

藤井 聡

臨床薬剤師への教育と研究「医師が望むこれからの薬剤師」

文部科学省 平成20年度サイエンスパートナーシップ・プロジェクト事業 講座型学習
活動プランA 2008.8.8 (名古屋)

藤井 聡【依頼講演】

平成20年度 診療ガイドライン薬剤コース 「高血圧症」

愛知県女性薬剤師会研修会 2008.9.7 (名古屋)

藤井 聡

メタボリックシンドロームと動脈硬化の薬物治療

文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業委託」地域—大学連携
による地域医療ニーズに対応した薬剤師リカレント学習支援プログラム 三公
立連携薬剤師生涯学習支援講座 2008.12.04 (名古屋)

Ryu Miyagawa, Yuki Sato, Tomomi Nakamura, Satoshi Fujii

INSULIN REGULATES PLASMINOGEN ACTIVATOR INHIBITOR TYPE-1
EXPRESSION IN HEPATOCYTES AND IN MICE LIVER THROUGH
STATIN-SENSITIVE PATHWAY: IMPLICATIONS FOR CLINICAL EFFECTS

Pan-Pacific International Partnership Conference on Pharmaceutical and Life Sciences (The 4th
US-Japan Joint Conference) (生命薬科学環太平洋国際パートナーシップ会議) 2008. 2.
22 (Nagoya, Japan)

樋本 紀夫, 駒田 淳子, 秋田谷 龍男, 藤井 聡, 吉川 研一

ペプチドによるDNAの凝縮構造形成と遺伝子デリバリー

日本薬学会第128年会 3月28日 (横浜)

秋田谷 龍男, 樫本 紀夫, 藤井 聡, 春名 光昌, 神戸 俊夫, 吉川 研一

キトサンの鎖長で異なる長鎖DNA単分子凝縮体形成の On/Off性と秩序構造

日本薬学会第128年会 3月28日 (横浜)

Ohmura K, Ishimori N, Ohmura Y, Fujii S, Tsutsui H.

Natural Killer T Cells are Involved in Macrophage Infiltration in Visceral Adipose Tissue and Glucose Intolerance in Diet-Induced Obese Mice.

第72回日本循環器学会 2008年3月28日 (福岡). Circ J 2008; 72 (Supple I): 203

Noda Y, Hazemoto N, Fujii S.

Poly(lactic-co-glycolic acid) Nanospheres Containing Protease Inhibitors, Camostat Mesilate and Nafamostat Mesilate: Therapeutic Potential For Treating Atherosclerosis

第72回日本循環器学会 2008年3月28日 (福岡). Circ J 2008; 72 (Supple I): 400

Fujii S, Urasawa K, Kawashima N, Tsutsui H.

Pravastatin and Atorvastatin Were Equivalent in Reducing Inflammatory Markers in Acute Coronary Syndrome Despite Differences in Lowering LDL: PROVE-J Study

第72回日本循環器学会 2008年3月28日 (福岡). Circ J 2008; 72 (Supple I): 413

Fujii S, Urasawa K, Kawashima N, Andoh Y, Tsutsui H.

Dysregulated Inflammation by NKT Cell-Mediated Pathway of Accelerated Atherogenesis in Unstable Angina may be Amenable to Statin Therapy

第72回日本循環器学会 2008年3月28日 (福岡). Circ J 2008; 72 (Supple I): 413

Sato Y, Dong J, Imagawa S, Tsutsui H, Fujii S.

Insulin Regulates Plasminogen Activator Inhibitor 1 Expression in Hepatocytes and in Mice Liver Through Statin-Sensitive Pathway 第72回日本循環器学会 2008年3月30日 (福岡).

Circ J 2008; 72 (Supple I): 506

Satoh H, Fujii S, Tsutsui H.

Do JCD, IDF and NCEP Criteria of Metabolic Syndrome Reliably Predict Clinical Cardiovascular Events? : 3-Year Cohort Study of 3,343 Japanese Men
第72回日本循環器学会 2008年3月30日 (福岡). Circ J 2008; 72 (Supple I): 326

Furumoto T, Fujii S, Goto D, Tsutsui H.

Daidzein, Soy Phytoestrogen, Selectively Ameliorates Obesity-Related Hypertension in Mice and Humans Without Affecting Other Metabolic Derangements

第72回日本循環器学会 2008年3月28日 (福岡). Circ J 2008; 72 (Supple I): 594

水野晃治、米田雅彦、輪千浩史、瀬山義幸、藤井聡、磯貝善蔵

創傷治癒過程におけるTGF- β 活性の細胞外マトリックスによる制御機構 第40回日本結合組織学会学術大会・第55回マトリックス研究会大会合同学術集会 2008年5月30日

宮川隆, 中村友美, 岩城壮一郎, 野田康弘, 藤井聡

HepG2細胞におけるインスリンと酸化ストレスのPAI-1産生への影響の解析: メタボリックシンドロームにおける血栓形成傾向への関与の解析 平成20年度日本薬学会東海支部例会. 2008年7月5日 (名古屋) ; D-12.

Satoshi Fujii, Ryu Miyagawa, Soichiro Iwaki, Tomomi Nakamura, Yasuhiro Noda.

Pathobiological Aspects of Thrombotic Tendency in Metabolic Syndrome and a Potential Favorable Action of Oligonol as an Antioxidant.

Functional Polyphenol Symposium 2008年7月25日 (Sapporo, Japan)

水野晃治、米田雅彦、輪千浩史、瀬山義幸、藤井聡、磯貝善蔵

創傷治癒を例としたTGF- β 活性の細胞外マトリックスによる制御機構

Cardiovascular Medicine 21 第8回フォーラム 2008年8月2日 (東京)

宮川 隆, 中村友美, 岩城壮一郎, 野田康弘, 藤井 聡

生活習慣病における血栓準備状態の病態解析: PAI-1 と酸化ストレスの関係
第6回血液・血栓オルビス. 2008年8月9-10日 (東京).

野田 康弘、藤井 聡、永田 実

ヨウ素製剤の滲出液中における反応性の解析

第10回日本褥瘡学会学術集会 2008. 8. 30 (神戸)

Furumoto T, Fujii S, Tsutsui H.

The difference in therapeutic impact according to antihypertensive medicine for central aortic pressure.

62nd High Blood Pressure Research Conference 2008 of the American Heart Association. Omni Hotel at CNN Center September 17 - 20, 2008 (Atlanta, USA)

Dong J, Ishimori N, Paigen B, Tsutsui H, Fujii S.

Modulator recognition factor (Mrf) 2 regulates adipocyte differentiation and leptin expression in 3T3-L1 adipose cells: Implications for fat cell derived modulator of vascular pathophysiology.

第31回日本高血圧学会 2008年10月11日 (札幌)

Furumoto T, Goto D, Fujii S, Tsutsui H.

Daidzein, soy phytoestrogen, selectively ameliorates obesity-related hypertension in mice and humans without affecting other metabolic derangements"

8th International Symposium on the Role of Soy in Health Promotion and Chronic Disease Prevention and Treatment. 2008年11月11日 (Tokyo, Japan)

Furumoto T, Fujii S, Tsutsui H.

Increased plasma concentrations of N-terminal pro brain natriuretic peptide is amore sensitive marker of subclinical diastolic dysfunction and arterial remodeling in hypertension: analytical performance comparison with BNP.

Scientific Session of the American Heart Association. 2008. 11. 10 (New Orleans, USA)

宮川:隆、中村友美、岩城壮一郎、野田康弘、藤井 聡

生活習慣病における血栓準備状態の病態解析：PAI-1と酸化ストレスの関係

第31回日本血栓止血学会学術集会 2008年11月22日 (大阪)

Ogura h, Andoh Y, Iwabuchi K, Satoh M, Fujii S, Onoe K.

A collaborative role of NK cells with NKT cells in the aggravation of atherosclerosis induced by lipopolysaccharide administration.

第38回日本免疫学会総会 2008年12月1日 (京都)

Tatsuo Akitaya, Asako Seno, Tonau Nakai, Norio Hazemoto, Shizuaki Murata
Folding Transition of a Single Giant Duplex DNA Chain: Weak Interaction Induces an ON/OFF
Switch, whereas Strong Interaction Causes Gradual Change.
Joint Meeting of the Biophysical Society 52nd Annual Meeting & 16th International Biophysics
Congress (IUPAB). 2008 年 2 月 2-6 日 (Long Beach, USA).

岩城壮一郎

酵母長鎖塩基キナーゼ Lcb4 において見られる細胞膜-ER 間新規輸送経路
第 98 回薬学談話会. 2008 年 5 月 7 日 (名市大).

藤井 聡

健康の回復・維持・増強のための機能性食品
名工大・名市大 合同テクノフェア 2008年11月5日 (名古屋)

藤井 聡

細胞遊走の制御因子としてのPAI-1
平成20年6月10日 国立長寿医療センター研究所 (大府)

藤井 聡【依頼講演】

アテローム血栓症：最近の薬に強くなろう
NTT東日本札幌病院 第5回循環器実地臨床セミナー 平成20年11月28日 (札幌)

【医薬品代謝解析学】

(原報)

Enya Kazuaki, Hidetoshi Hayashi, Takemasa Takii, Nobumichi Ohoka, Shinya Kanata, Takashi Okamoto and Kikuo Onozaki.

The interaction with Sp1 and reduction in the activity of histone deacetylase 1 are critical for the constitutive gene expression of IL-1 α in human melanoma cells.

J. Leuk. Biol., **83**(1), 190-199 (2008).

Tomohiro Arakawa, Takanori Yamamura, Takayuki Hattori, Hidetoshi Hayashi, Akiko Mori, Ayako Yoshida, Chiharu Uchida, Masatoshi Kitagawa and Kikuo Onozaki.

Contribution of extracellular signal-regulated kinases to the IL-1-induced growth inhibition of human melanoma cells A375.

Int. Immunopharmacol., **8**(1), 80-89 (2008).

Yu Takahashi, Nobumichi Ohoka, Hidetoshi Hayashi and Ryuichiro Sato.

TRB3 suppresses adipocyte differentiation by negatively regulating PPAR γ transcriptional activity.

J. Lipid Res., **49**(4), 880-892 (2008).

Miki Shizu, Yuka Itoh, Ryohei Sunahara, Satomi Chujo, Hidetoshi Hayashi, Yuko Ide, Takemasa Takii, Masaya Koshiko, Sang Woon Chung, Kazuichi Hayakawa, Keiji Miyazawa, Kunitaka Hirose and Kikuo Onozaki

Cigarette smoke condensate up-regulates the gene and protein expression of proinflammatory cytokines in human fibroblast-like synoviocyte line.

J. Interferon Cytokine Res., **28**(8), 509-521 (2008)

(総説・著書・総合論文など)

(学会発表)

Satoshi Sakai, Nobumichi Ohoka, Makoto Nakanishi, Kikuo Onozaki, Hidetoshi Hayashi
Functional analysis of a pseudokinase, TRB3 during the M phase

Pan-Pacific International Partnership Conference on Pharmaceutical and Life Sciences. The 4th
US-Japan Joint Conference.

2008年2月22, 23日(名古屋) ; P13.

高橋 裕, 大岡伸通, 井上 順, 八村敏志, 林 秀敏, 佐藤隆一郎

脂肪細胞分化過程における新規小胞体ストレス応答因子 TRB3 の機能解析

日本農芸化学会 2008 年度大会. 2008 年 3 月 28 日 (名古屋) ; 3A13a02.

金田伸弥, 塩谷和明, 大岡伸通, 瀧井猛将, 林 秀敏, 小野寄菊夫, 岡本 尚

メラノーマ細胞からの構成的インターロイキン 1 α 産生における HDAC1 の関与

日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 28 日 (横浜) ; 28I-pm06.

森田陽子, 金丸美咲, 酒井 聡, 小野寄菊夫, 林 秀敏

制御性 T 細胞の分化および機能に及ぼす外的ストレスの影響

日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 28 日 (横浜) ; 28I-pm11.

中條里美, 砂原良平, 伊藤友香, 瀧井猛将, 林 秀敏, 早川和一, 小野寄菊夫
タバコと関節リウマチに関する研究
日本薬学会第128年会, 2008年3月28日(横浜); 28I-pm11.

林 秀敏 【他大学講義】
小胞体ストレスの制御と疾患
山口大学大学院医学系研究科 特別専門講義, 2008年4月11日(宇部).

酒井 聡, 大岡伸通, 丹伊田浩行, 中西 真, 小野寄菊夫, 林 秀敏
細胞周期M期における pseudokinase TRB3 の役割
第72回日本生化学会中部支部例会, 2008年5月24日(岐阜); 10.

Hidetoshi Hayashi, Satoshi Sakai, Yuko Ide, Nobumichi Ohoka, Yuka Ito, Yuko Morikawa, Kikuo Onozaki
TGF-beta signal is inhibited by stress-inducible pseudokinase TRB3
the 28th Sapporo Cancer Seminar, 2008年6月26, 27日(札幌); P-4.

西仲 駿, 森田陽子, 酒井 聡, 小野寄菊夫, 林 秀敏
ストレス誘導性 pseudokinase TRB3 のT細胞分化に与える影響
第54回日本薬学会東海支部大会, 2008年7月5日(名古屋); C-13.

高橋 裕, 大岡伸通, 林 秀敏, 佐藤隆一郎
小胞体ストレス誘導分子 TRB3 の脂肪細胞分化過程における機能解析
第40回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 2008年7月11日(つくば); 178.

中條里美, 岡本翔佑, 砂原良平, 伊藤友香, 瀧井猛将, 林 秀敏, 早川和一, 小野寄菊夫
タバコと関節リウマチに関する研究
フォーラム2008: 衛生薬学・環境トキシコロジー,
2008年10月17, 18日(熊本); P-134.

西仲 駿, 森田陽子, 酒井 聡, 小野寄菊夫, 林 秀敏
新規ストレス誘導性分子 TRB3 によるT細胞分化制御
フォーラム2008: 衛生薬学・環境トキシコロジー,
2008年10月17, 18日(熊本); P-082.

Satoshi Sakai, Hiroyuki Niida, Makoto Nakanishi, Kikuo Onozaki, Hidetoshi Hayashi
Functional analysis of a pseudokinase, TRB3 during the M phase
第67回日本癌学会総会, 2008年10月28日(名古屋); P-1219.

Hidetoshi Hayashi, Satoshi Sakai, Yasumichi Inoue, Kikuo Onozaki
Regulation of BMP signaling by acetylation
第67回日本癌学会総会, 2008年10月28日(名古屋); O-184.

Hidetoshi Hayashi, Kikuo Onozaki
Effect of a stress inducible pseudokinase TRB3 on the T cell differentiation
第38回日本免疫学会総会, 2008年12月1日(京都); 1-A-W1-12-P.

荒川友博, 林 秀敏, 瀧井猛将, 小野寄菊夫
インターロイキン1によるヒトメラノーマ細胞増殖抑制機構への ERK1/2 経路の関与
平成20年度日本薬学会東海支部例会, 2008年12月6日(静岡); C-16.

中田佳宏, 酒井 聡, 大岡伸通, 井上靖道, 小野寄菊夫, 林 秀敏

小胞体ストレス誘導性細胞死における pseudokinase TRB3 の作用
平成 20 年度日本薬学会東海支部例会, 2008 年 12 月 6 日 (静岡) ; C-17.

清武千恵子, 高橋佑輔, 伊藤友香, 井上靖道, 小野寄菊夫, 林 秀敏
骨形成因子 (BMP) のシグナル分子 Smad1 のアセチル化の意義
平成 20 年度日本薬学会東海支部例会, 2008 年 12 月 6 日 (静岡) ; C-18.

井上万由美, 朴 佳栄, 荒川友博, 小野寄菊夫, 斉藤昌之, 林 秀敏
脂肪細胞分化に及ぼす TGF β の効果
平成 20 年度日本薬学会東海支部例会, 2008 年 12 月 6 日 (静岡) ; C-19.

森川裕子, 酒井 聡, 井手佑子, 伊藤友香, 大岡伸通, 小野寄菊夫, 林 秀敏
 β 細胞機能に及ぼす TGF β の影響
平成 20 年度日本薬学会東海支部例会, 2008 年 12 月 6 日 (静岡) ; C-20.

大岡伸通, 加藤省吾, 林 秀敏, 佐藤隆一郎
核内受容体 ROR α による脂肪細胞分化制御の機構
第 81 回日本生化学会大会・第 31 回日本分子生物学会年会合同大会.
2008 年 12 月 9 日 (神戸) ; 1T15-1 (1P-364).

酒井 聡, 大岡伸通, 丹伊田浩行, 小野寄菊夫, 中西 真, 林 秀敏
G2/M 移行期における pseudokinase TRB3 の役割
第 81 回日本生化学会大会・第 31 回日本分子生物学会年会合同大会.
2008 年 12 月 10 日 (神戸) ; 2P-464.

荒川友博, 林 秀敏, 瀧井猛将, 小野寄菊夫
インターロイキン 1 によるヒトメラノーマ細胞増殖抑制機構への ERK1/2 経路の関与
第 81 回日本生化学会大会・第 31 回日本分子生物学会年会合同大会.
2008 年 12 月 12 日 (神戸) .

【中枢神経機能薬理学分野】

(原報)

Hideki Ono, Yuko Nagano, Noriaki Matsunami, Shinichi Sugiyama, Shohei Yamamoto and Mitsuo Tanabe

Oseltamivir, an anti-influenza virus drug, produces hypothermia in mice: Comparison among oseltamivir, zanamivir and diclofenac.

Biol Pharm Bull., **31**, 638-642 (2008).

Keiko Takasu, Hideki Ono and Mitsuo Tanabe

Gabapentin produces PKA-dependent presynaptic inhibition of GABAergic synaptic transmission in locus coeruleus neurons following partial nerve injury in mice.

J Neurochem., **105**, 933-942 (2008).

Mitsuo Tanabe, Keiko Takasu, Sachiko Yamaguchi, Daisuke Kodama and Hideki Ono

Glycine transporter inhibitors as a potential therapeutic strategy for chronic pain with memory impairment.

Anesthesiology, **108**, 929-937 (2008).

Mitsuo Tanabe, Takuhiro Murakami and Hideki Ono

Zonisamide suppresses pain symptoms of formalin-induced inflammatory and streptozotocin-induced diabetic neuropathic pain.

J Pharmacol Sci., **107**, 213-220 (2008).

Mitsuo Tanabe, Masako Hashimoto and Hideki Ono

I₁-imidazoline receptor-mediated reduction of muscle rigidity in the reserpine-treated murine model of Parkinson disease.

Eur. J. Pharmacol., **589**, 102-105 (2008).

(総説・著書・総合論文など)

Mitsuo Tanabe, Keiko Takasu, Yuichi Takeuchi and Hideki Ono

Mini-Review: Pain relief by gabapentin and pregabalin via supraspinal mechanisms after peripheral nerve injury.

小野秀樹

2008年版実習に行く前の覚える医薬品集 (分担執筆)

廣川書店, (2008).

(学会発表)

兒玉大介, 小野秀樹, 田辺光男

Deficiency of hippocampal long-term potentiation after peripheral nerve injury and its relation with the extracellular glycine level regulated by glycine transporter 1.

Pan-Pacific International Partnership Conference on Pharmaceutical and Life Sciences (The 4th US-Japan Joint Conference). 2008年2月22日 (名古屋); P34.

斎藤一也, 小野秀樹, 田辺光男

神経因性疼痛モデルマウスにおいて上位中枢の NO 産生阻害は下行性ノルアドレナリン神経系を介して機械アロディニアを抑制する

第81回日本薬理学会年会. 2008年3月17日 (横浜); P1I-05.

高須景子, 小野秀樹, 田辺光男

神経因性疼痛モデルマウスにおける PKA に依存した gabapentin による青斑核 GABA 性シナプス伝達の抑制

第81回日本薬理学会年会. 2008年3月17日 (横浜); E1E5-5.

山本昇平, 田辺光男, 小野秀樹

機械侵害刺激後に持続する脊髄運動ニューロン後発射活動にジヒドロピリジン感受性L型 Ca²⁺チャネルが関与する

第81回日本薬理学会年会. 2008年3月18日 (横浜); P2I-25.

岩崎 紘, 小野秀樹, 田辺光男

線条体 GABA 性シナプス伝達に対するノルアドレナリンのシナプス前部の α_2 -アドレナリン受容体を介する抑制作用

第81回日本薬理学会年会. 2008年3月18日 (横浜); P2I-28.

藤沢智子, 山本昇平, 田辺光男, 坂本 貴, 三島 敏, 小野秀樹

ブラジル産プロボリスの神経因性疼痛予防作用

第 81 回日本薬理学会年会. 2008 年 3 月 18 日 (横浜) ; P2I-53.

重歳絵己子, 山本昇平, 田辺光男, 小野秀樹

脊髄損傷からの回復における下行性セロトニン神経機能の評価

第 81 回日本薬理学会年会. 2008 年 3 月 18 日 (横浜) ; P2I-73.

田辺光男, 大野 琴, 本多基子, 小野秀樹

マウス脊髄損傷モデルで発症する機械痛覚過敏に対する gabapentin や pregabalin の緩解作用

第 81 回日本薬理学会年会. 2008 年 3 月 18 日 (横浜) ; P2I-74.

宮坂絵理, 山本昇平, 小野秀樹, 田辺光男

ラット脊髄後角における C-線維誘発性フィールドポテンシャルの長期増強に対する脊髄灌流適用した gabapentin の抑制作用

第 81 回日本薬理学会年会. 2008 年 3 月 19 日 (横浜) ; P3I-04

大野 琴, 山本昇平, 田辺光男, 小野秀樹

ピオグリタゾン はマウス脊髄損傷により引き起こされる後肢運動機能障害や機会アロディニアを緩解する

第 81 回日本薬理学会年会. 2008 年 3 月 19 日 (横浜) ; P3I-48

小野秀樹, 永野裕子, 松並範晃, 杉山慎一, 山本昇平, 田辺光男

抗インフルエンザウイルス薬リン酸オセルタミビル (タミフル) のマウス体温低下作用 : ザナミビル (リレンザ) およびジクロフェナクとの比較

日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 27 日 (横浜) ; 27PW-am006.

小野秀樹

慢性痛の治療薬

名古屋市立大学薬剤師生涯教育講座. 2008 年 5 月 15 日 (名古屋) .

小野秀樹

抗うつ薬による鎮痛作用メカニズムの解析

塩野義製薬セミナー. 2008年5月29日(塩野義油日ラボラトリー).

田辺光男, 新田あずさ, 小野秀樹

マウス海馬スライスにおける *in vitro* 虚血後の興奮性シナプス伝達回復におけるストリキニン感受性グリシン受容体の役割

第31回日本神経科学大会. 2008年7月9日(東京); P1-u08.

兒玉大介, 小野秀樹, 田辺光男

神経因性疼痛モデルマウスにおける海馬 CA1 領域の長期増強現象の障害と細胞外グリシンによる NMDA 電流調節との関連

第81回日本神経科学大会. 2008年7月10日(東京); P2-b01.

田辺光男, 高須景子, 小野秀樹

脊髄後角の一次求心性神経終末の HCN チャネルが神経因性疼痛維持に関与する

第30回日本疼痛学会. 2008年7月20日(福岡); 0-8.

小野秀樹

神経障害性の痛みとその治療薬

知多ファーマシューティカルケア研究会. 2008年8月20日(名古屋).

小野秀樹, 木村和哲, 田辺光男

抗インフルエンザ薬および帯状疱疹治療薬の重大な精神神経系副作用に関する研究—リン酸オセルタミビル(タミフル)のマウス体温低下作用—

平成19年度 名古屋市立大学 特別研究奨励費 研究成果発表会. 2008年8月28日(名古屋).

田辺光男

Gabapentin の鎮痛効果の最前線

第29回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム. 2008年8月29日(富山).

小野秀樹

薬・医・看護系大学連携のめざすもの

文部科学省戦略的大学連携支援事業「6年制薬学教育を主軸とする薬系・医系・看護系大学による広域総合教育連携」キックオフシンポジウム. 2008年10月4日(名古屋).

田辺光男

慢性疼痛の病態解明および治療薬の作用機序解明を目指した神経伝達調節レベルの電気生理学的研究

第3回痛み研究者の集い. 2008年10月12日(京都).

小野秀樹【依頼講義】

痛みのしくみとくすり

桑名高校. 2008年10月20日(桑名).

田辺光男, 高須景子, 小野秀樹

PKA-dependent inhibition of GABAergic synaptic transmission by gabapentin in locus coeruleus neurons in neuropathic conditions and its behavioral evidence

Society for Neuroscience 38th Annual Meeting 2008.

2008年11月15日(Washington, DC).

田辺光男【招待講演】

Pharmacological studies on pain using behavioral and electrophysiological methods

NEURAL PLASTICITY AND PAIN: EAST MEETS EAST. A collaborative pain research symposium hosted by the Pain Mechanisms Labs, Wake Forest University Baptist, Medical Center. 2008年11月21日(Graylyn International Conference Center,

Winston-Salem, NC, USA).

小野秀樹【依頼講演】

脳内の痛覚抑制機構と鎮痛薬の作用

名古屋市立大学ー健康科学講座ー オープンカレッジ. 2008年11月21日(名古屋).

【感染症制御学分野】

(原報)

Yasuhiro Maeda, Tetsuya Ito, Hironori Ohmi, Kyoko Yokoi, Yoko Nakajima, Akihito Ueta, Yukihisa Kurono, Hajime Togari, Naruji Sugiyama

Determination of 3-hydroxyisovalerylcarnitine and other acylcarnitine levels using liquid chromatography–tandem mass spectrometry in serum and urine of a patient with multiple carboxylase deficiency.

J. Chromatogr. B, **870**, 154-159 (2008)

(学会発表)

Hiromi Nakayama, Yasuhiro Maeda, Tetsuya Ito, Hajime Togari, Naruji Sugiyama, Yukihisa Kurono

KINETIC STUDY ON METHYLESTERIFICATION OF DICARBOXYLIC ACYLCARNITINES IN ACIDIC METHANOL SOLUTION

Pan-Pacific International Partnership Conference on Pharmaceutical and Life Sciences
(The 4th US-Japan Joint Conference)

2008年2月22日 (Nagoya, Japan); P29

長尾麻以、前田康博、伊藤哲哉、横井暁子、中島葉子、植田昭仁、黒野幸久、戸苺 創、杉山成司

HPLC-MS/MS によるメチルマロン酸血症及びプロピオン酸血症患者のアシルカルニチンプロファイル

日本薬学会第128年会. 2008年3月28日 (横浜) ; 28PE-am082

Nakajima Y, Ito T, Yokoi K, Ohmi H, Nagao M, Maeda Y, Kurono Y, Sugiyama N, Togari H

Quantification of 3-Hydroxyisovalerylcarnitine by high performance liquid chromatography tandem mass spectrometry in two patients with holocarboxylase synthetase deficiency

Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism (SSIEM) 44th annual symposium
2008年9月2-5日 (Lisbon, Portugal) ; 086-P

大参寛典、前田康博、伊藤哲哉、中島葉子、横井暁子、黒野幸久、戸苺 創、杉山成司
HPLC-MS/MS による安息香酸服用患者におけるベンゾイルカルニチンおよび馬尿酸同時定量

第33回日本医用マススペクトル学会年会. 2008年9月26日 (東京) ; P17

長尾麻以、前田康博、伊藤哲哉、中島葉子、横井暁子、黒野幸久、戸苺 創、杉山成司
メチルマロン酸血症患者の肝移植中におけるアシルカルニチンの挙動

第50回日本先天代謝異常学会. 2008年11月7日 (米子) ; A-28

【臨床薬学教育研究センター】

(原報)

Chigusa Kikuchi, Junko Kajikuri, Yoshimasa Watanabe, Takeo Itoh

Effect of chronic administration of pravastatin on enhanced vascular superoxide production in a type 2 diabetes rat model.

Nagoya. Med. J., **49**, 95-110 (2008)..

池田義明, 羽田勝彦, 加藤知次, 平石弥生, 前田 徹, 新美博之, 水野恵司, 田中祐佳, 宮田完志, 斉藤寛子, 長谷川信策

がん化学療法支援システムの構築とその評価.

日本病院薬剤師会雑誌, **44**(1),117-120 (2008).

首代みどり, 藤井希織, 黒田純子, 丹羽里実, 水野裕之, 鰐部昌彦, 前田 徹, 木村和哲, 小松弘和, 長谷川信策

抗がん剤適正使用推進に向けた調製支援システムの構築と評価.

癌と化学療法, **35**(10),1717-1720 (2008).

(総説・著書・総合論文など)

木村和哲

モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい薬局実習テキスト

実務実習テキスト作成研究会編, じほう, (2008).

木村和哲

薬学生のための実務実習事前学習テキスト実技編

薬学生実務実習研究会編, じほう, (2008).

木村和哲, 坂田浩一, 森田辰男

勃起障害・性腺機能低下症

「病気と薬 パーフェクト BOOK 2008」横田千津子監修, 南山堂 pp1050-1056, (2008).

木村和哲

2008 年版 実習に行く前の覚える医薬品集

平野和行編, 廣川書店, (2008).

菊池千草

「若手薬剤師のための講習会」を終えて

薬苑, 553, 50-51 (2008) .

菊池千草

ワークショップ「薬学教育における PBL 導入の意義」に参加して

「新しい医学教育の流れ '08 冬」岐阜大学医学教育開発センター編, 三恵社 pp33-34,
(2008) .

(学会発表)

Yuko Abe, Yuji Hotta, Kana Okumura, Chigusa Kikuchi, Toru Maeda, Kazunori Kimura
The Effect of Ischemia on Erectile Function in a Rabbit Model.

Pan-Pacific International Partnership Conference on Pharmaceutical and Life Sciences.

The 4th US-Japan Joint Conference (2008).

2008 年 2 月 22 日 (Nagoya, Japan) .

Yuko Abe, Yuji Hotta, Kazunori Kimura

Changes of Endothelial Function Followed by Focal Arterial Occlusion in Isolated Rabbit
Penile Erectile Tissue.

Joint Meeting of the European (ESSM) and International (ISSM) Societies for Sexual Medicine.

2008年12月7-11日 (Brussels, Belgium) .

Yuji Hotta, Yuko Abe, Kazunori Kimura

The Probability of Chronic Vardenafil Administration as a New Therapy for Arteriogenic ED.

Joint Meeting of the European (ESSM) and International (ISSM) Societies for Sexual Medicine.

2008年12月7-11日 (Brussels, Belgium) .

木村和哲, 阿部裕子, 堀田祐志

「陰茎虚血モデルを用いた動脈性 ED の病態解明」

日本性機能学会－第 19 回学術総会－卒後・生涯教育プログラム, 2008 年 (秋田市?) .

前田 徹, 杉谷真里, 中島葉子, 伊藤哲哉, 木村和哲

オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症の女兒における O T C 遺伝子変異の研究

日本薬学会第 128 年会. 2008 年 3 月 28 日 (横浜市) ; 28PW-am229.

堀田祐志, 菊池千草, 前田徹, 木村和哲

ラットの内腸骨動脈結紮による陰茎海綿体への影響

日本薬学会 128 年会. 2008 年 3 月 26 日 (横浜市) ; 26LA-pm010.

阿部裕子, 伊藤亜由美, 菊池千草, 前田徹, 木村和哲

陰茎海綿体における虚血のもたらす影響

日本薬学会 128 年会. 2008 年 3 月 26 日 (横浜市) ; 26LA-pm09.

木村和哲, 菊池千草, 前田徹

名古屋市立大学薬学部における早期体験学習「透析施設での患者面談」の試み

日本薬学会 128 年会. 2008 年 3 月 27 日 (横浜市) ; 27PE-am010.

菊池千草, 梶栗潤子, 渡邊義将, 伊藤猛雄, 木村和哲

2型糖尿病ラットモデルにおける血管のスーパーオキシド産生増加に対するプラバスタチンの慢性投与効果

日本薬学会 128 年会. 2008 年 3 月 28 日 (横浜市) ; 28PW-pm139.

奥村加奈, 堀田祐志, 阿部裕子, 服部真由子, 木村和哲

慢性腎不全に伴う勃起機能障害の病態解明とその治療法の検索

第 19 回愛知腎臓財団助成研究発表会. 2008 年 6 月 (名古屋市).

木村和哲, 堀田祐志, 阿部裕子, 菊池千草, 前田 徹

内腸骨動脈結紮による陰茎海綿体の各種 NOS 遺伝子の発現変動と勃起機能への影響

第 18 回日本性機能学会中部総会. 2008 年 7 月 (神戸市).

木村 和哲, 小野 秀樹, 平嶋 尚英, 藤井 聡, 黒野 幸久

医療現場と結びついた臨床薬剤師養成教育プログラムの開発

平成 19 年度特別研究奨励費 研究成果報告会. 2008 年 8 月 (名古屋市).

奥村加奈, 前田 徹, 菊池千草, 吉田篤博, 木村和哲

CKD 予防に対する薬剤師の関わり — 蛋白尿陽性患者における服薬指導とその重要性 —

日本医療薬学会第 18 回年会. 2008 年 10 月 20 日 (札幌市) ; 20-P3-427.

森 章哉, 平石弥生, 木村謙吾, 関戸いづみ, 田中佑佳, 羽田勝彦, 加藤知次, 前田 徹, 新美博之, 水野恵司, 池田 義明

愛知県オンコロジー研究会の取り組み～L E E D療法の副作用解析に基づく患者パンフレットの作成～

日本医療薬学会第 18 回年会. 2008 年 10 月 21 日 (札幌市) 20-P2-307.

菊池千草, 前田 徹, 木村和哲

大学と保険薬局が連携して解決すべき長期実務実習の問題点の検討

日本医療薬学会第 18 回年会. 2008 年 10 月 21 日 (札幌市) ; 21-H-09.

菊池千草, 岩淵愛, 大津史子, 奥村算浩, 加藤潤, 中村真紀子, 守谷みのり, 川村勝美, 浅井宏樹, 長谷川信策

若手薬剤師の意見を聞こう—若手薬剤師のための講習会の開催—

第 41 回東海薬剤師学術大会. 2008 年 12 月 7 日 (愛知県知多郡東浦町) ; P-7.

5 科学研究費等補助金

平成20年度

(代表)					
所属分野名	補職名	氏名	研究種目	研究課題名	金額 (千円)
病態生化学	准教授	服部 光治	特定領域	巨大分泌蛋白質リリーンによる、脳のレイヤー構造形成制御の分子機構	14,300
生命分子構造学	准教授	水島 恒裕	特定領域	新規シャペロンDmp1/2の構造解析を基盤としたプロテアソームの分子集合機構	3,600
遺伝情報学	教授	星野 真一	特定領域	G蛋白質GSPT1のトリプレットリピート増幅が引き起こす胃癌発症のメカニズム	3,900
精密有機反応学	教授	樋口 恒彦	特定領域	分子内反応補助基の協奏的効果による酵素類似触媒の高度機能化	1,900
生命分子構造学	准教授	水島 恒裕	特定領域	X線結晶構造解析による26Sプロテアソーム蛋白質分解酵素複合体の構造及び機能解析	3,100
遺伝情報学	助教	細田 直	特定領域	G蛋白質によって制御される翻訳終結と共役したmRNA動態	2,500
細胞分子薬効解析学	教授	今泉 祐治	特定領域	トランスポートソームにおけるイオンチャネル局在と関連分子間協働の可視化解析	3,400
精密有機反応学	教授	樋口 恒彦	基盤 (A)	化学進化的合成化学による医薬機能分子の汎用性ある効率的創製	18,200
生体超分子システム解析学	教授	平嶋 尚英	基盤 (B)	非興奮性分泌細胞の開口放出におけるモバイルアクティブゾーンの生成機構と機能	3,800
細胞分子薬効解析学	教授	今泉 祐治	基盤 (B)	カルシウム活性化カリウムチャネルの新たな分子機能と創薬の新展開	8,000
薬化学	教授	宮田 直樹	基盤 (B)	エピジェネティックに遺伝子発現を制御する医薬品候補化合物の創製	7,500
薬化学	准教授	中川 秀彦	基盤 (C)	神経変性疾患関連凝集体生成機構と活性酸素酸化物誘発ニトロ化ストレスの基礎的研究	700
薬品合成化学	教授	青山 豊彦	基盤 (C)	芳香環の環拡大反応を鍵反応とする7員環縮合複素環化合物の新規構築法	1,100
生体防御機能学	講師	瀧井 猛将	基盤 (C)	結核菌生菌の宿主細胞傷害活性におけるインターロイキン1関連シグナル調節機構の解析	1,100
病院薬理学	教授	木村 和哲	基盤 (C)	外傷による動脈性物起障害の病態解明-新しい薬物療法の確立をめざして-	700
コロイド高分子物性学	准教授	山中 淳平	基盤 (C)	熱アニーリングによる高品質コロイド結晶材料の作成	1,600
機能分子構造学	准教授	池田 慎一	基盤 (C)	ニッケル触媒による新規溝呂木ヘック型ドミノ反応の開発	1,200
生体防御機能学	教授	小野崎菊夫	基盤 (C)	インターロイキン1の作用発現とその制御に関する研究	1,300
分子生物薬学	准教授	長田 茂宏	基盤 (C)	ヒストン関連因子の機能的相互作用の解析および細胞がん化における意義	1,200
中枢神経機能薬理学	教授	小野 秀樹	基盤 (C)	脊髄損傷の電気生理学的機能評価法の確立と薬効評価	1,800
薬物動態制御学	教授	湯浅 博昭	基盤 (C)	HCT-15細胞型Na ⁺ 依存性グリセロールトランスポーターの同定と輸送機能解明	1,500
中枢神経機能薬理学	准教授	田邊 光男	基盤 (C)	慢性疼痛治療における神経伝達調節レベルの薬効評価に基づいた創薬基盤の創設研究	1,600
精密有機反応学	教授	樋口 恒彦	萌芽	新概念に基づく高い効率を目指した光駆動一方向回転分子の開発	1,400
遺伝情報学	助教	細田 直	萌芽	ナンセンスコドン介在型mRNA分解の新たな生理的意義	1,100
病態解析学	教授	藤井 聡	萌芽	メタボリックシンドローム病態形成にはたすNKT細胞の役割	1,600
細胞分子薬効解析学	講師	山村 寿男	若手 (B)	痙攣性疾患治療薬としてのカルシウム活性化カリウムチャネル開口薬の探索	1,300
生命分子構造学	助教	水島 恒裕	若手 (B)	ユビキチンリガーゼSCF-Fbs複合体構造解析による糖蛋白質分解品質管理機構解析	900
精密有機反応学	助教	加藤 信樹	若手 (B)	酵素モデルを用いた環境調和型触媒的アミド化反応の開発	1,300
精密有機反応学	准教授	梅澤 直樹	若手 (B)	タンパク質の特異的蛍光ラベル化法の開発とそのバイオイメージングへの応用	1,300
病態生化学	助教	馬場 敦	若手 (B)	脳形成を司る分泌蛋白質リリーンの、分布と機能部位を制御する分子メカニズム	1,900
分子生物薬学	准教授	西塚 誠	若手 (B)	生命維持およびインスリン感受性制御に関与するfad104の機能解析	1,700
薬物動態制御学	助教	井上 勝央	若手 (B)	破骨細胞における薬酸トランスポーターの同定と輸送機構の解析	2,000
生薬学	講師	牧野 利明	若手 (B)	漢方薬による副作用発症機序とトランスポーターとの関連	2,200
遺伝情報学	教授	星野 真一	新学術領域	mRNA 3'末端プロセッシングを標的とした遺伝子発現調節・RNA品質管理機構の解明	15,200
生体防御機能学	助教	伊藤 佐生智	若手 (B)	血液細胞間クロストークに着目した長期透析合併症の予防法の確立	1,000

6 学外との共同研究等

6. 学外との共同研究等

■ 共同研究

宮田 直樹、鈴木 孝禎

「新規生理活性化合物の創製研究」
(小野薬品工業株式会社)

宮田 直樹、鈴木 孝禎

「新規HDAC阻害の創製」
(理化学研究所)

樋口 恒彦、梅澤 直樹

「ヒストン脱メチル化酵素 LSD1 阻害剤」
(独立行政法人理化学研究所)

平嶋 尚英

「アクティブゾーン蛋白質 ELKS のマスト細胞脱顆粒における役割」
(富山大学医学部)

平嶋 尚英

「バイオサーファクタントの抗アレルギー活性の研究」
(東洋紡績株式会社、産業技術総合研究所)

山中 淳平

「高品質コロイド単結晶を用いた分光素子および超小型分光光度計の開発」
(物質・材料研究機構、富山大学、富士化学株式会社、株式会社 TAK システムイニシアティブ)

加藤 晃一、水島 恒裕

「ヒト IgG1 とヒト Fc γ 受容体 III a との結合状態の構造解析」
(協和発酵工業株式会社 バイオフロンティア研究所)

加藤 晃一、栗本 英治

「味覚変調蛋白質の立体構造形成と機能発現に関する研究」
(味の素株式会社ライフサイエンス研究所)

加藤 晃一、水島 恒裕、山口 芳樹、栗本 英治、坂田 絵理

「ユビキチンプロテアソームシステムの構造生物学」
(東京都臨床医学総合研究所、東京大学大学院薬学系研究科)

加藤 晃一、高橋 禮子、山口 芳樹、矢木 宏和

「ウイルスや宿主細胞が発現する糖鎖の迅速解析、糖鎖とタンパク質の三次元構造と相互作用解析」
(中部大学生命健康科学部)

加藤 晃一、山口 芳樹、神谷 由紀子
「NMRを利用した細胞内レクチンの糖鎖認識機構の構造生物学的解析」
(理化学研究所中央研究所)

加藤 晃一、山口 芳樹
「自己組織化中空錯体へのタンパク質包接と構造解析」
(東京大学大学院工学系研究科)

加藤 晃一、栗本 英治
「自己組織化ナノ内面の化学」
(東京大学大学院工学系研究科)

加藤 晃一、山口 芳樹
「NMRを利用した糖タンパク質および糖鎖認識タンパク質の構造生物学的解析」
(国立医薬品食品衛生研究所)

加藤 晃一、矢木 宏和
「植物細胞を利用して調製した糖タンパク質のN型糖鎖の構造解析」
(Chung-Ang University)

山口 芳樹、栗本 英治
「920MHz 超高磁場NMR装置を用いたタンパク質・複合糖質の構造解析」
(分子科学研究所分子スケールナノサイエンスセンター)

水上 元、牧野 利明
「クエルセチン配糖体の消化管吸収性およびその機序に関する基礎研究」
(三栄源エフエフアイ株式会社)

水上 元、牧野 利明
「附子の品質評価に関する研究」
(クラシエ薬品株式会社)

水上 元、牧野 利明
「聚精丸加減方の作用の解析」
(イスクラ産業株式会社)

今泉 祐治、大矢 進
「前立腺肥大症の細胞増殖機構の解明」
(大鵬薬品工業株式会社, 名古屋市立大学大学院医学研究科腎・泌尿器科学分野)

大矢 進
「遺伝子導入によるイオンチャネル発現細胞の作成」
(有限会社チャネロサーチテクノロジー)

大矢 進
「イオンチャネル発現細胞系の開発と創薬スクリーニングへの応用1」

(有限会社チャネロサーチテクノロジー)

湯浅 博昭、井上 勝央

「キノロンの腎排泄に関与するトランスポーターの検討」

(第一三共株式会社 薬物動態研究所)

小野 秀樹、田辺 光男

「神経障害性疼痛治療薬の作用メカニズム検討」

(塩野義製薬株式会社)

■ 連携研究

中川 秀彦

「抗プリオン活性化化合物に関する研究」

(広島大学大学院医歯薬学総合研究科、武蔵野大学薬学部、東北大学大学院医学系研究科、北海道大学大学院獣医学研究科、明治大学理学部)

中川 秀彦

「光制御型 NO 放出化合物に関する研究」

(東邦大学理学部)

中川 秀彦

「部位特異的酸化ストレスプローブとがんに関する研究」

(富山大学大学院医学薬学研究部)

中川 秀彦

「部位特異的酸化ストレスプローブと腎臓に関する研究」

(筑波技術大学保健科学部附属東西医学統合医療センター)

樋口 恒彦

「電場形成分子—色素複合体の Stark 分光学による電場評価」

(橋本 秀樹 教授 大阪市立大学 大学院理学研究科)

樋口 恒彦

「車両等工業製品の合成 DNA による汎用性の高い標識化」

(日産自動車 (株)、オペロンバイオテクノロジー (株))

樋口 恒彦、梅澤 直樹

「 γ -セクレターゼ阻害剤と酵素機能探索分子」

(東京大学大学院薬学研究科)

樋口 恒彦

「ヘム-チオレート錯体の放射光を用いた X 線分光学研究」

(泉 康雄 講師、千葉大学 大学院理学研究科)

樋口 恒彦

「シトクロム P450, NO 合成酵素モデル錯体の無機小分子との反応に関する物理化学」
(Rudi van Eldik 教授、エルランゲン大学 (ドイツ))

樋口 恒彦

「シトクロム P450, NO 合成酵素モデル錯体酸化活性種の共鳴ラマン分光学」
(Jim Kincaid 教授 Marquette University (米国))

樋口 恒彦、梅澤 直樹

「ペプチドアレイを用いたプロテインキナーゼ活性の網羅的検出」
(九州大学大学院工学研究院)

樋口 恒彦、梅澤 直樹

「ヒスタグ染色試薬を用いた電気泳動ゲルの蛍光染色」
(同仁化学研究所)

平嶋 尚英

「FRET を用いたリン脂質非対称分布の測定法の開発」
(三井造船株式会社)

田中 正彦

「小脳発達研究における GABA 作動性神経細胞可視化技術の応用」
(群馬大学大学院医学系研究科)

田中 正彦

「小脳発達における myosin Va の役割の研究」
(名古屋大学環境医学研究所)

山中 淳平

「荷電コロイド 2 成分混合系の相挙動」
(ブリストル大学)

山中 淳平

「微小重力下での荷電コロイド結晶の生成」
(物質・材料研究機構、富山大学、富士化学株式会社、株式会社 TAK システムイニシアティブ)

山中 淳平

「複合部材の開発」
(富士化学株式会社、京セラ株式会社)

加藤 晃一、山口 芳樹

「耐熱性カビプロテインジスルフィドイソメラーゼの NMR による高次構造解析」
(株式会社豊田中央研究所)

加藤 晃一

「安定同位体利用NMR法による複合糖質の構造解析技術の開発」
(理化学研究所ゲノム科学総合研究センター)

加藤 晃一、栗本 英治

「免疫系レセプター分子のNMR構造解析」
(九州大学生体防御医学研究所)

加藤 晃一、山口 芳樹、坂田 絵理

「マシヤド・ジョセフ病原遺伝子産物 ataxin-3 の高次構造解析」
(The Scripps Research Institute)

加藤 晃一、高橋 禮子、矢木 宏和

「N型硫酸化糖鎖の構造解析」
(愛知県がんセンター分子病態学部)

加藤 晃一、山口 芳樹

「ペプチド：N-グリカナーゼの構造解析」
(大阪大学大学院医学系研究科)

加藤 晃一、栗本 英治

「プレフォルディンとシャペロニンの相互作用解析」
(東京農工大学大学院工学研究科)

加藤 晃一、水島 恒裕、神谷 由紀子

「タンパク質の細胞内における品質管理・輸送に関わる糖鎖認識タンパク質の構造・機能解析」
(高エネルギー加速器研究機構)

加藤 晃一、高橋 禮子、山口 芳樹、矢木 宏和

「グルクロン酸含有糖鎖の多次元 HPLC マップの開発と応用」
(立命館大学糖鎖工学センター)

加藤 晃一、山口 芳樹、高橋 禮子、神谷 由紀子

「カーゴレセプターの構造と機能に関する研究」
(東京大学新領域創成科学研究科)

加藤 晃一、山口 芳樹、栗本 英治、神谷 由紀子

「プロテインジスルフィドイソメラーゼの立体構造変化に関する研究」
(慶応大学理工学部、九州大学生体防御医学研究所)

加藤 晃一、水島 恒裕、神谷 由紀子

「カーゴレセプターの分子認識に関する研究」
(University of Basel)

加藤 晃一、栗本 英治、神谷 由紀子

「コラーゲン特異的分子シャペロン Hsp47 および小胞体関連分解に関わる酵素・レクチンの構造・機能解析」
(京都大学再生医科学研究所)

加藤 晃一、神谷 由紀子
「血液凝固因子欠損症の原因遺伝子産物 MCFD2 の高次構造解析」
(University Medical School, Geneva、University Hospital, Geneva)

加藤 晃一、山口 芳樹
「アミロイド β ペプチドとガングリオシド GM1 の相互作用解析」
(国立長寿医療センター研究所)

加藤 晃一、山口 芳樹
「ペルオキシソーム膜形成因子 pex19p のNMR解析」
(理化学研究所播磨研究所、京都大学大学院薬学研究科)

加藤 晃一、山口 芳樹、栗本 英治、高橋 禮子
「オステオポンチンのNMRによる動的な高次構造解析」
(北海道大学遺伝子病制御研究所)

加藤 晃一、山口 芳樹、坂田 絵理
「パーキンソン病原因遺伝子産物 α -synuclein のNMRによる動的構造解析」
(東京大学大学院薬学系研究科、東京都精神医学総合研究所)

加藤 晃一、水島 恒裕、栗本 英治、坂田 絵理
「ユビキチンリガーゼ HOIL-1 の高次構造解析」
(大阪市立大学大学院医学研究科)

加藤 晃一、山口 芳樹、高橋 禮子
「糖鎖ライブラリーを活用した新規マイクロアレーの開発」
(株式会社医学生物学研究所、株式会社グライエンス、藤田保健衛生大学総合医科学研究所)

加藤 晃一、高橋 禮子、矢木 宏和
「カタユウレイボヤの糖鎖プロファイリングおよび糖鎖の機能解析」
(兵庫県立大学理学研究科)

加藤 晃一、矢木 宏和
「質量分析装置を用いたプロテオミクス解析」
(京都学園大学バイオ環境学部)

加藤 晃一、高橋 禮子、矢木 宏和
「ウミガメの卵黄に含まれる糖鎖の構造解析」
(Johns Hopkins University)

加藤 晃一、山口 芳樹

「RNA アプタマーと IgG の相互作用解析」
(東京大学医科学研究所、千葉工業大学工学部、株式会社リボミック)

加藤 晃一、矢木 宏和
「IgE に結合している N 型糖鎖の構造解析」
(University of Alabama)

加藤 晃一、矢木 宏和
「カイコを利用して発現した糖タンパク質の N 型糖鎖の構造解析」
(九州大学生体防御医学研究所、静岡大学農学部)

加藤 晃一、高橋 禮子、矢木 宏和
「糖鎖-糖鎖相互作用にかかわる N 型糖鎖の構造解析」
(University of Washington)

加藤 晃一、山口 拓実、山口 芳樹、矢木 宏和、神谷 由紀子
「NMR を利用した N 型糖鎖の立体構造解析」
(マックス・プランク生物物理化学研究所)

加藤 晃一、矢木 宏和
「質量分析装置を用いた糖鎖の構造解析」
(Academia Sinica)

加藤 晃一、栗本 英治
「中性子回折によるタンパク質の結晶構造解析」
(独立行政法人 日本原子力研究開発機構)

加藤 晃一、栗本 英治
「中性子小角散乱測定によるタンパク質複合体の構造解析」
(京都大学原子炉研究所)

加藤 晃一、栗本 英治
「ソバアレルゲンタンパク質の高次構造解析」
(国立衛生研究所)

加藤 晃一、神谷 由紀子
「血液凝固因子欠損症の原因遺伝子産物 ERGIC-53 と MCFD2 の相互作用解析」
(大阪大学大学院工学研究科)

加藤 晃一、神谷 由紀子
「レクチン型分子シャペロンの分子認識に関する研究」
(北海道大学大学院薬学研究科)

加藤 晃一、神谷 由紀子
「小胞体関連分解に関わるレクチンの分子認識と機能発現に関する研究」
(University of California, San Francisco, Howard Hughes Medical Institute)

今川 正良
「脂肪細胞分化の分子機構」
(名古屋市立大学大学院医学研究科)

今川 正良
「脂肪細胞分化の分子機構」
(大阪大学微生物研究所附属遺伝情報実験センター)

今川 正良
「脂肪細胞分化の分子機構」
(東京大学大学院農学生命科学研究科)

今川 正良
「脂肪細胞分化の分子機構」
(独立行政法人 家畜改良センター)

今川 正良
「脂肪細胞分化の分子機構と糖尿病治療薬の開発」
(日水製薬株式会社)

長田 茂宏
「肝化学発がん初期過程における腫瘍マーカー陽性前駆細胞誘導機構の解明」
(弘前大学大学院医学系研究科)

水上 元、牧野 利明
「漢方薬の副作用発症機序に関する研究」
(株式会社ツムラ)

水上 元、牧野 利明
「小太郎漢方製薬株式会社」
(株式会社ツムラ)

小野寄菊夫、瀧井猛将
「ポリオウイルス用いた新たな結核ワクチンの開発」
(独立行政法人国立病院機構近畿中央胸部疾患センター臨床研究センター、東京大学大学院医学系研究科、自治医科大学)

瀧井猛将、小野寄菊夫
「結核菌の病原性の研究」
(国立感染症研究所ハンセン病研究センター、Dept. Microbiology, Immunology and Pathology, Colorado State Univ.、Dept. Pathobiology, School of Public Health and Community Medicine, Univ. Washington)

瀧井猛将、小野寄菊夫
「*M. bovis* BCG 亜株間の遺伝学的、生化学的、免疫学的な差異に関する研究」

(国立感染症研究所、日本ビーシージー (株) 中央研究所、大阪市立大学)

瀧井猛将、千葉 拓、小野寄菊夫

「新たな抗結核薬の探索」

((財) 結核予防会結核研究所、金城学院大学薬学部)

小野寄菊夫、林 秀敏、瀧井猛将

「インターロイキン1による細胞増殖制御に関する研究」

(東京大学医科学研究所、東京慈恵会医科大学、浜松医科大学)

小野寄菊夫、林 秀敏、瀧井猛将

「性ホルモンと関節リウマチに関する研究」

(北里大学医学部、聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター、理化学研究所、キッセイ薬品 (株)、名古屋市立大学医学研究科)

小野寄菊夫、林 秀敏、瀧井猛将

「喫煙と関節リウマチに関する研究」

(金沢大学大学院自然科学研究科、キッセイ薬品 (株)、名古屋市立大学医学研究科)

小野寄菊夫、林 秀敏

「性ホルモンと HIV 増殖に関する研究」

(名古屋市立大学医学研究科)

小野寄菊夫

「微生物を用いた IL-1 の大量発現系の開発に関する研究」

(鹿児島大学農学部)

伊藤佐生智、瀧井猛将、小野寄菊夫

「黄色ブドウ球菌の免疫回避機構」

(星薬科大学)

星野 真一

「翻訳終結と共役したポリ (A) 鎖分解の構造生物学的解析」

(東京大学大学院薬学系研究科)

星野 真一

「ナンセンス変異型 RNA 分解機構における熱ショック蛋白質の役割に関する研究」

(東京医科歯科大学)

星野 真一

「ポリ (A) 鎖結合蛋白質の多量体形成機構の解析」

(東京大学大学院薬学系研究科)

星野 真一

「mRNA ポリ (A) 鎖分解酵素によるストレスキナーゼの活性化制御」

(東京大学大学院薬学系研究科)

星野 真一

「ポリ(A)鎖分解酵素の構造生物学的解析」
(東京大学大学院薬学系研究科)

星野 真一

「RNA結合蛋白質 Lark による Period1 の発現制御と体内時計の調節」
(三菱化学生命科学研究所)

星野 真一

「ノンストップ mRNA 品質管理における Rack1 の役割」
(名古屋大学大学院理学研究科)

星野 真一

「Psi+プリオンの生物学的意義の解明」
(Georgia Tech)

星野 真一

「ポリ(A)鎖分解酵素 PAN の核外輸送機構の解析」
(University of the Basque Country)

今泉 祐治

「心血管系におけるイオンチャネルに関する分子薬理学的研究」
(カナダ・カルガリー大学運動生理学部 Wayne R. Giles 教授)

今泉 祐治

「リアノジン受容体に関する分子薬理学的研究」
(カナダ・カルガリー大学医学部 Wayne Chen 教授)

今泉 祐治

「リアノジン受容体に関するトランスポートソーム研究」
(京都大学大学院薬学研究科 竹島 浩教授)

今泉 祐治

「血液-脳関門のイオンチャネルに関する分子薬理学的研究」
(名古屋市立大学大学院医学研究科 浅井 清文教授)

今泉 祐治

「Na⁺-Ca²⁺交換輸送体に関する分子薬理学的研究」
(福岡大学医学部 岩本 隆宏教授)

服部 光治

「細胞内カルシウム動態を制御する分子機構の研究」
(理化学研究所)

服部 光治

「脳の層構造形成を司る巨大分泌タンパク質リーリンのトラフィックに関する研究」
(東京大学薬学部)

服部 光治
「脳の層構造形成を司る巨大分泌タンパク質リーリンの構造に関する研究」
(大阪大学蛋白質研究所)

服部 光治
「脳の層構造形成に関する研究」
(慶應義塾大学医学部)

服部 光治
「小脳におけるリーリン受容体の発現と、その制御に関する研究」
(名古屋大学医学部)

服部 光治
「リーリンの細胞内情報伝達に関する研究」
(理化学研究所脳総合研究センター)

藤井 聡
「高齢者ハイリスク心疾患患者における新たなバイオマーカーの探索」
(北海道大学大学院医学研究科循環病態内科)

藤井 聡
「メタボリックシンドロームの発症、進展にはたすNKT細胞の役割」
(北海道大学遺伝子病制御研究所、北海道大学大学院医学研究科循環病態内科)

藤井 聡
「メタボリックシンドロームの発症、進展にはたす線溶系の役割」
(アメリカ合衆国バーモント大学心臓血管研究所)

林 秀敏
「性ホルモンと関節リウマチに関する研究」
(北里大学医学部、北海道大学大学院薬学研究科、聖マリアンナ医科大学、愛知学院大学薬学部、キッセイ薬品)

林 秀敏
「ストレスと疾患」
(北海道大学大学院薬学研究科、山口大学大学院医学研究科、富山大学、東京大学大学院農学生命科学研究科、北海道大学大学院農学生命科学研究科、国立長寿医療センター研究所)

林 秀敏
「TGF β のシグナル伝達機構の解析」
(癌研究会癌研究所、筑波大学、浜松医科大学)

小野 秀樹、田辺 光男

「プロポリス成分の急性痛の治療効果，神経因性疼痛の治療・予防効果の研究」
(アピ株式会社)

7 新聞報道等

■ 新聞報道 等

名古屋市立大学薬学部

名市大・静岡県大・岐阜薬科大 薬学教育で連携

中日新聞朝刊 2008年1月24日

藤井 聡

血栓症治療薬の現状

Medicament News 2008年4月25日

牧野利明

臨床漢方薬理研究会～薬効解析から「存在とは何か」まで

漢方医薬新聞 No. 434 2008年5月5日

牧野利明

漢方医学の基礎知識、漢方の良さを知ろう！

中日新聞ショッパー北エリア板 No. 59 2008年6月26日

名古屋市立大学薬学部

女性薬剤師復帰後押し

中日新聞朝刊 2008年8月31日

水上 元

漢方の効能、科学で解明

朝日新聞朝刊 2008年12月6日

牧野利明

薬膳の素材について

A LIFE、東海テレビ 2008年12月14日

8 進路および就職状況

平成20年度学部卒業者の進路

進路状況

	就 職	進 学	そ の 他	未 定	合 計
男	7	43	1	1	52
女	11	31	0	1	43
合計	18	74	1	2	95

学部卒業者就職先一覧

産業及び職業分類	男	女	小計	市内	県内	県外
製造業	1		1			1
化学工業	1		1			1
武田薬品工業株式会社	1		1			1
卸売・小売業、飲食店	4	2	6	3		3
小売業、飲食店	4	2	6	3		3
株式会社アイファーマシーズ		1	1			1
株式会社ウォルナット		1	1	1		
株式会社くすりの福太郎	1		1			1
株式会社セイジョー	1		1	1		
株式会社中日エムエス	1		1	1		
中部薬品株式会社	1		1			1
医療、福祉	1	7	8	1	2	5
医療業	1	7	8	1	2	5
愛知県がんセンター		1	1	1		
出水病院		1	1			1
琴の浦リハビリテーションセンター		1	1			1
聖マリア病院		1	1			1
トヨタ記念病院		1	1		1	
松阪総合病院		1	1			1
三重大学医学部附属病院	1		1			1
八千代病院		1	1		1	
公務	1	2	3	1	1	1
地方公務	1	2	3	1	1	1
名古屋市職員		1	1	1		
豊田市役所	1		1		1	
農林水産消費安全技術センター		1	1			1
合計	7	11	18	5	3	10

平成20年度博士前期課程修了者の進路

進路状況

	就 職	進 学	そ の 他	未 定	合 計
男	23	7	0	2	32
女	37	3	0	0	40
合計	60	10	0	2	72

博士前期課程修了者就職先一覧

産業及び職業分類	男	女	小計	市内	県内	県外
製造業	10	14	24	2	1	21
化学工業	10	14	24	2	1	21
武田薬品工業株式会社	2		2			2
富山化学工業株式会社		1	1			1
小野薬品工業株式会社	1	2	3		1	2
科研製薬株式会社	1		1			1
持田製薬株式会社		1	1			1
株式会社新日本科学		1	1			1
佐藤製薬株式会社		1	1			1
大鵬薬品工業株式会社	2		2			2
マルホ株式会社		2	2			2
アステラス東海株式会社		1	1			1
三和化学研究所	1		1	1		
イーピーエス株式会社	1	2	3			3
東和薬品株式会社		1	1			1
東洋カプセル	1		1			1
田辺三菱製薬株式会社	1		1			1
大日本住友製薬株式会社		1	1			1
日本メナード化粧品株式会社		1	1	1		
精密機械器具	1	1	2		1	1
テルモ株式会社	1		1			1
株式会社メニコン		1	1		1	
情報通信		1	1			1
株式会社VSN		1	1			1
卸売・小売業、飲食店	1	6	7	3		4
小売業、飲食店	1	6	7	3		4
イオンリテール株式会社	1	2	3	1		2
イオン株式会社西日本カンパニー		1	1			1
たんぽぽ薬局		1	1			1
日本調剤株式会社		1	1	1		
株式会社スギヤマ薬品		1	1	1		
医療、福祉	4	11	15	2	7	6

医療業	4	11	15	2	7	6
名古屋市立大学病院	1		1	1		
一宮市立市民病院		1	1		1	
一宮西病院		1	1		1	
神崎中央病院		1	1			1
安城更生病院		1	1		1	
長崎大学医学部・歯学部附属病院		1	1			1
佐賀大学病院		1	1			1
栃木県芳賀赤十字病院	1		1			1
社会保険栗林病院	1		1			1
大同病院		1	1	1		
刈谷豊田総合病院	1	1	2		2	
公共学校共済中国中央病院		1	1			1
愛知県厚生農業協同組合連合会海南病院		1	1		1	
特定医療法人共和会共和病院		1	1		1	
公務	6	4	10	3	2	5
国家公務	3	0	3	0	0	3
(独)医薬品医療機械総合機構	1		1			1
厚生労働省検疫所	1		1			1
厚生労働省医薬食品局	1		1			1
地方公務	3	4	7	3	2	2
名古屋市	1	2	3	3		
愛知県		1	1		1	
春日井	1		1		1	
三重県	1		1			1
浜松市役所		1	1			1
その他	1		1			1
大阪大学医学部附属病院未来医療センター	1		1			1
合計	23	37	60	10	11	39

平成20年度博士後期課程修了者の進路

進路状況

	就職	進学	その他	未定	合計
男	3	0	1	0	4
女	2	0	1	0	3
合計	5	0	2	0	7

博士後期課程修了者就職先一覧

産業及び職業分類	男	女	小計	市内	県内	県外
製造業	1	2	3	0	0	3
化学工業	1	2	3	0	0	3
帝人株式会社	1		1			1
エーザイ株式会社		1	1			1
アストラス製薬株式会社		1	1			1
教育・学習支援業	2		2	1	1	
高等教育機関	2		2	1	1	
愛知学院大学歯学部	1		1	1		
生理学研究所研究員	1		1		1	
合計	3	2	5	1	1	3

9 薬学部在籍者名簿

9. 在籍者名簿

[2009年1月1日現在]

理事長(学長) : 西野 仁雄
副理事長 : 尾崎 憲三
理事 : 今川 正良
 : 小鹿 幸生
 : 向井 清史
理事(非常勤) : トヨタテクニカルディベロップメント株式会社常勤監査役
 : 青山 高美
 : 株式会社ノリタケカンパニーリミテド専務取締役
 : 土森 道雄
監事(非常勤) : 弁護士 高木 道久
 : 税理士 筒井 保司
総合情報センター長 : 鋤柄 増根

薬学研究科長・薬学部長 : 水上 元 (生薬学分野教授兼務)

分野名の後の()内は学部学科目名に対応する。

創薬生命科学専攻

医薬化学講座

薬化学分野(薬化学)

教授 : 宮田 直樹
准教授 : 中川 秀彦
講師 : 鈴木 孝禎
特任助教 : 津元 裕樹
大学院博士前期課程2年 : 浅場 智美, 猪狩 聡一, 池田 麻美子, 北村 千春,
 鈴木 信明, 菱川 和宏
大学院博士前期課程1年 : 家田 直哉, 上田 理恵, 太田 庸介, 浜田 翔平,
 松尾 和哉
卒業研究生4年 : 池沼 宏, 亀田 英里, 清家 雄, 永野 裕樹, 平野 達也,
 堀之内 妙子
卒業研究生3年 : 粕谷 侑輝, 河合 翔太, 田中 裕子

精密有機反応学分野(薬品製造化学)

教授 : 樋口 恒彦
准教授 : 梅澤 直樹
助教 : 加藤 信樹
大学院博士後期課程3年 : 鴨東 美絵
大学院博士前期課程2年 : 藪名香 宏介, 近藤 圭佑

大学院博士前期課程 1年：今村 優希, 野々垣 定紀, 則武 幸延, 松本 庸良
卒業研究生 4年：齋藤 俊輔, 鈴木 潤, 田口 知世, 野呂 侑加, 浜口 雄,
村山 季実子
卒業研究生 3年：北尾 考史, 渡辺 二規

薬品合成化学分野

教 授：青山 豊彦
准 教 授：近藤 和弘
大学院博士前期課程 1年：近藤 良祐, 曾根 良介
卒業研究生：稲葉 綾子, 大野 紗央, 櫻井 扶美恵, 横山 拓也,
小笹 弘貴, 梶田 梨恵
研 究 員：鶴見 佳織

機能分子構造学分野 (物理分析化学)

教 授：小田嶋 和徳
准 教 授：池田 慎一
講 師：白井 直洋
大学院博士前期課程 2年：大坪 加奈, 大山 祐佳里, 岡田 良美, 土田 恵理子,
松山 悠里子
卒業研究生：川戸 勇士, 佐野 円香, 吉岡 勇介, 小森 和紀,
水野 友絵

生命分子薬学講座

生体超分子システム解析学分野 (薬品分析化学)

教 授：平嶋 尚英
准 教 授：田中 正彦
助 教：田所 哲
客 員 准 教 授：古野 忠秀 (愛知学院大学)
大学院博士後期課程 1年：野村 英宏
大学院博士前期課程 2年：池谷 実穂, 小西 尋文, 笹井 雅夫, 関村 美穂,
西村 陽子, 星野 有香, 山下 真由
大学院博士前期課程 1年：朝岡 みなみ, 加川 恭子, 永井 弓子, 村田 麻美,
森田 陽介
卒業研究生 4年：加藤 愛, 坂田 真一, 末永 智宏, 鈴木 敬昌,
廣瀬 裕之
卒業研究生 3年：大橋 令, 蔭山 幸佑
研 究 員：伊納 義和 (愛知学院大学), 河村 文夫

コロイド高分子物性学分野 (薬品物理化学)

教 授：米勢 政勝
准 教 授：山中 淳平

講 師：宮田 勇
特 任 講 師：豊玉 彰子(薬工融合推進センター)
大学院博士後期課程 1年：村井 雅子
大学院博士前期課程 2年：小西 正晃，篠原 真里子，田中 昭良，藤岡 正剛，
吉澤 幸樹
卒 業 研 究 生：腰山 裕一，西口 隆洋，保田 彩衣，島田 友里奈，
松平 都和，森川 松次郎
研 究 員：恩田 佐智子，今井 宏起(富士化学株式会社)，
堀井 晴奈(富士化学株式会社)

生命分子構造学分野(薬品製造工学)

特 任 教 授：加藤 晃一
准 教 授：水島 恒裕
講 師：栗本 英治
特 任 助 教：金 相佑
客 員 教 授：山口 芳樹
大学院博士後期課程 2年：内海 真穂
大学院博士前期課程 2年：雨宮 瑛子，大野 恵里菜
大学院博士前期課程 1年：武本 映美，西尾 美穂，山本 雅洋，良川 須美
卒 業 研 究 生 4 年：金子 琢磨，富田 礼子，平野 貴志，文庫 有志
卒 業 研 究 生 3 年：宇野 剛，中川 由貴，山本 さよこ
研 究 員：矢木 宏和(日本学術振興会特別研究員)，
神谷 由紀子，山口 拓実，
オリビエ・セルブ(岡崎統合バイオサイエンスセンター)
坂田 絵理(東京都臨床医学総合研究所)，
尾崎 陽子，近藤 幸子，矢部 宇一郎(グライエンス)
高木 賢治(名古屋大学)，
千田 紀代美，服部 久美子，平松 佳永

分子生物薬学分野(微生物薬品学)

教 授：今川 正良
准 教 授：長田 茂宏
助 教：西塚 誠
大学院博士後期課程 3年：橋爪 博司
大学院博士後期課程 2年：大野 雅恵，河路 淳子，林 孝弘
大学院博士前期課程 2年：岸本 圭史，駒木根 潤，五味田 麗，鈴木 正憲，
高田 美紗，野崎 友里子，藤井 彩
大学院博士前期課程 1年：大橋 健吾，種村 妃紗，藤田 真由，前田 雄太，
吉見 千明
卒 業 研 究 生 4 年：伊佐 憲吾，大仲 優希，加藤 愛友美，前田 誠
卒 業 研 究 生 3 年：有江 瑞洋，落合なつき

構造薬学分野(放射薬品学)

准 教 授：畑野 研一郎
助 教：黒田 良孝
大学院博士後期課程2年：久井 周子
卒 業 研 究 生：北 晋次

医療機能薬学専攻

医療分子機能薬学講座

生薬学分野（生薬学）

教 授：水上 元
准 教 授：牧野 利明
助 教：寺坂 和祥
大学院博士後期課程3年：横井 寛，政田 さやか，林 克弘
大学院博士後期課程2年：小谷 仁司，鈴木 裕可，河野 桂子
大学院博士前期課程2年：加藤 革己，曾田 麻希子，永利 麻衣，山中 祐介
大学院博士前期課程1年：猪飼 真由美，上林 理絵，大脇 美紀，金丸 美咲，
中山 祥子
卒 業 研 究 生 4 年：岡本 隼己，染原 渉，服部 広，林 芳恵，原 直樹，
馬場 健寿
卒 業 研 究 生 3 年：島戸 陽太，吉田 貴光
中国政府派遣研究者：沈 世林
研 究 員：井上 誠，永津 明人，大野 高政，田邊 宏樹，
安井 敏洋，加藤 哲夫，山下 弘高，呉 春珍，張 栄勁

生体防御機能学分野（衛生化学）

教 授：小野寄 菊夫
准 教 授：瀧井 猛将
助 教：伊藤 佐生智
大学院博士後期課程3年：林 大介
大学院博士後期課程2年：荒川 友博
大学院博士後期課程1年：堀田 康弘
大学院博士前期課程2年：伊藤 司，許 鍵，中條 里美
大学院博士前期課程1年：岡本 翔佑，黒石 隆司，安田 恵実
卒 業 研 究 生 4 年：秋田 邦彦，稲垣 衣美，桑田 亮，山本 龍二，横山 萌，
吉成 正太郎
卒 業 研 究 生 3 年：谷口 恵一，横山 領介

遺伝情報学分野（生物薬品化学）

教 授：星野 真一
准 教 授：藤井 陽一
助 教：細田 直
大学院博士前期課程2年：平澤 真人，的場 洋子

大学院博士前期課程 1年：岡本 淳志，尾上 耕一，熊谷 直道，段 輝高，
吉田 拓生，山岸 良多
卒業研究生 4年：稲垣 映希，齊藤 修平，橋本 芳史，中山 直美，堀川 桂，
和賀 陽祐，北川 聖巳
卒業研究生 3年：成瀬 貴文，白旗 恵美
研究員：山本 肇

細胞分子薬効解析学分野（薬品作用学）

教授：今泉 祐治
准 教授：大矢 進
助 教：山村 寿男
大学院博士後期課程 3年：大野 晃稔
大学院博士後期課程 2年：船橋 賢司，村田 秀道
大学院博士後期課程 1年：丹羽 里実
大学院博士前期課程 2年：加藤 大樹，谷口 賢，橋爪 圭吾，藤高 啓右，
山本 清司
大学院博士前期課程 1年：鈴木 良明，仲村 恵梨奈，藤井 将人，村松 真
卒業研究生：大城 隼也，鬼頭 宏彰，澤田 英士，諏訪 友紀子，
竹本 将士，村本 孝博，伊藤 洋平，丸山 史登
研究員：波多野 紀行（愛知学院大学薬学部），
松下 雄一郎（小野薬品工業株式会社）

病態生化学分野

准 教授：服部 光治
助 教：馬場 敦
大学院博士後期課程 3年：中野 良美、日比 輝正
大学院博士後期課程 2年：河野 孝夫
大学院博士前期課程 2年：石井 萌、内田 貴之、大島 健一，佐賀展子
大学院博士前期課程 1年：高柳 麻衣，阪野 英幸
卒業研究生：中川 裕介、作本 聖二、鈴木 健太、加藤 玲子，
木谷 友次朗、田頭 大志

医療薬学講座

薬物動態制御学分野（薬剤学）

教授：湯浅 博昭
准 教授：井上 勝央
助 教：太田 欣哉
大学院博士前期課程 2年：石谷 治男，栗原 弘充，杉本 さや香，高橋 絢子，
保嶋 智也，山本 俊輔
大学院博士前期課程 1年：石井 めぐみ，原田 哲彦，藤村 美咲，前田 純彌，
村田 友昭，吉田 行宏
卒業研究生 4年：池治 宣晃，深津 累，宮本 明希，浅井 敬子，大井 舞，

堀田 依里
卒業研究生 3年：大久保 雅彦，西嶋 千尋，林 里佳
研 究 員：石黒 雅江（早蕨会福祉村病院），石丸 宗徳
（愛知学院大学），井上 健（海南病院），
片野 貴大（愛知学院大学），
川出 義浩（名古屋第二赤十字病院），佐野 直也
（名古屋市），鈴木 成樹（マルコ製薬株式会社），
畠山 舞（金城学院大学）

病態解析学分野（製剤学）

教 授：藤井 聡
准 教 授：樋本 紀夫
助 教：岩城 壮一郎
大学院博士前期課程 2年：宮川 隆
大学院博士前期課程 1年：浅井 萌子，今井 啓太，中島 孝宏，中村 友美
卒業研究生 4年：青木 美耶子，朝倉 健文，石川 亜未，伊藤 史織，
小池 慶子，平井 小百合
卒業研究生 3年：栗田 佳祐，智谷 尊史

医薬品代謝解析学分野（薬品代謝）

教 授：林 秀敏
大学院博士後期課程 3年：酒井 聡
大学院博士前期課程 2年：井上 万由美，清武 千恵子，中田 佳宏，森川 裕子
大学院博士前期課程 1年：坂井 勇斗，新開 慈子，中平 桂子，西仲 駿
卒業研究生 4年：岩井 俊樹，小島 和香，戸田 綾子，永見 藍子，
朴 佳栄
卒業研究生 3年：福重 香，楽 怡

中枢神経機能薬理学分野（薬物治療学）

教 授：小野 秀樹
准 教 授：田辺 光男
助 教：山本 昇平
大学院博士後期課程 3年：兒玉 大介
大学院博士後期課程 1年：大波 壮一郎
大学院博士前期課程 2年：木下 優，友寄 織江，福田 昂一，三浦 真貴，
宮坂 絵理，山本 優子
大学院博士前期課程 1年：阿部 聡美，杉山 慎一，永野 裕子，日比野 志保，
松並 範晃，宮崎 鉄也
卒業研究生 4年：岡本 賢，藤井 由希，松井 千夏，宮辺 裕輔，
矢野 裕恭，山田 彩
卒業研究生 3年：大竹 沙紀，倉岡 聖哉，柵木 悠

感染症制御学分野（病院薬剤学）

教 授：黒野 幸久
講 師：前田 康博
助 教：内藤 敏子
大学院博士前期課程 2年：中山 潤美，長尾 麻以
大学院博士前期課程 1年：大参 寛典
卒業 研 究 生 4 年：杉山 里美，田代 加代
卒業 研 究 生 3 年：佐藤 豪，鈴木 健史

臨床薬学教育研究センター

教 授：木村 和哲
講 師：菊池 千草，前田 徹
大学院博士前期課程 2年：阿部 裕子，奥村 加奈，堀田 祐志
大学院博士前期課程 1年：服部 真由子
卒業 研 究 生 4 年：織田 義弘，片岡 智哉，城島 萌，申 志恵，椿 竜一郎，
三雲 真由美
卒業 研 究 生 3 年：藤本 揚子

東海臨床薬学教育連携センター

教 授：黒野 幸久（感染症制御学分野教授兼務）
特 任 薬 剤 師：高岸 美保子，菅谷 真紀
事 務 補 佐 員：尾原 すみ子

施設・事務・図書

総合機器分析施設
衛 生 技 師：加藤 節子，岩澤 加奈

薬学部事務室

事 務 長：関山 友康
学 務 係 長：黒野 正裕
主 事：高橋 完治，内木 篤，山田 治夫
業 務 士：山田 俊也
事 務 系 職 員：中山 裕子，佐藤 比早子
再 雇 用 職 員：大脇 伸好

総合情報センター田辺通分館-薬学部

分 館 長：青山 豊彦（薬品合成化学分野教授兼務）
司 書：今村 久恵，岩佐 多実子

教職員の異動（2008年1月1日～2008年12月31日）

教員

退 職：加藤 晃一 教授（自然科学研究機構分子科学研究所へ，2008年3月31日）
：野田 康弘 助教（金城学院大学薬学部へ，2008年3月31日）
：水谷 隆治 教授（退官，2008年3月31日；名誉教授に，2008年4月1日）
：高橋 和彦 准教授（横浜薬科大学（教授）へ，2008年3月31日）
：佐伯 憲一 講師（横浜薬科大学（准教授）へ，2008年3月31日）
：張 功幸 講師（大阪大学大学院薬学研究科へ，2009年1月16日）

採 用：加藤 晃一 特任教授（教授より，2008年4月1日）
：水島 恒裕 准教授（名古屋大学より，2008年4月1日）
：金 相佑 特任助教（名古屋大学より，2008年4月1日）
：豊玉 彰子 特任助教（新規，2008年6月1日）
：津元 裕樹 特任助教（武蔵野大学より，2008年12月1日）

異動・昇進：林 秀敏 准教授（医薬品代謝機能学 教授，2008年4月1日）
：豊玉 彰子 特任助教
（薬工融合推進センター 特任講師，2008年10月1日）

昇 進：張 功幸 講師（2008年4月1日）
：栗本 英治 講師（2008年4月1日）
：前田 康弘 講師（2008年4月1日）
：菊池 千草 講師（2008年4月1日）
：瀧井 猛将 准教授（2008年6月1日）
：黒野 幸久 教授（2008年10月1日）

兼 務：黒野 幸久 教授
（東海臨床薬学教育連携センター 教授，2008年10月1日）

職員

退 職：薬学部事務室 長友 広子 再雇用職員（退職，2008年3月31日）

採 用：薬学部事務室 中山 裕子 事務系職員
（パートタイム職員より，2008年10月1日）

異 動：薬学部事務室 白木 一朗 係長（学生課学生係へ，2008年4月1日）
：薬学部事務室 村松 華代 主事（熱田区役所へ，2008年4月1日）
：薬学部事務室 高橋 完治 主事
（学生課学生支援係より，2008年4月1日）
：薬学部事務室 黒野 正裕 係長
（学生課学生支援係より，2008年4月1日）
：薬学部事務室 佐藤 比早子 事務系職員
（教務課教務企画係より，2008年4月1日）